

イラン国

タブリーズ及びその周辺地域における観光開発戦略策定に係る

情報収集・確認調査

ファイナルレポート

2019年7月

独立行政法人 国際協力機構

株式会社 国際開発センター

株式会社 エイチ・アイ・エス

| |
|--------|
| 中欧 |
| JR |
| 19-004 |

本報告書では下記の換算レートを用いている：

IRR 1 = JPY 0.0008474 (Sana レート 2019 年 5 月最終営業日の円売り現地通貨買い)

USD 1 = JPY 109.386 (JICA 月次換算レート 2019 年 6 月)

政府統計等は原典に従いイラン暦で記載している：

PY1393 : 2014 年 3 月 21 日～2015 年 3 月 20 日

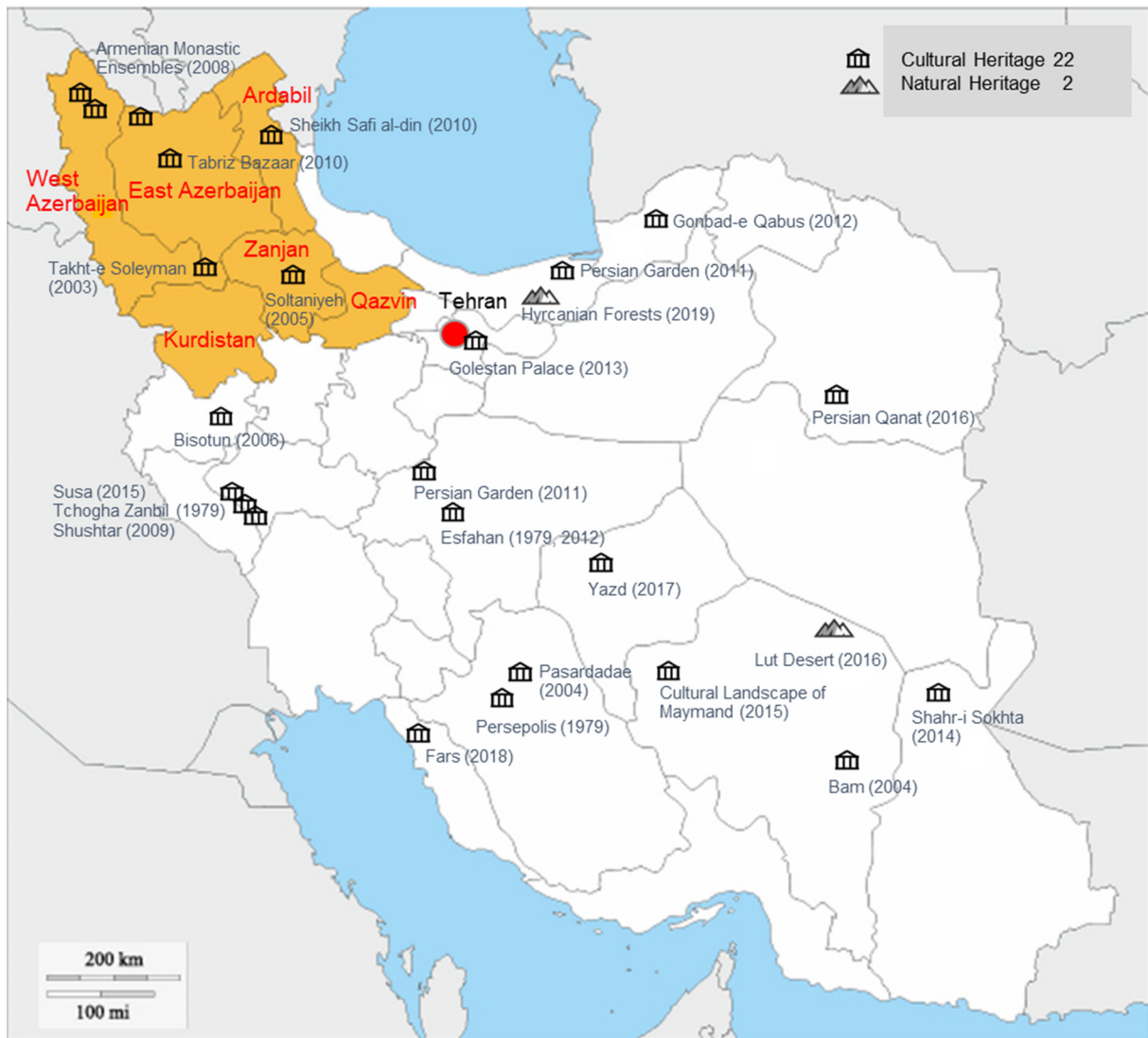
PY1394 : 2015 年 3 月 21 日～2016 年 3 月 20 日

PY1395 : 2016 年 3 月 21 日～2017 年 3 月 20 日

PY1396 : 2017 年 3 月 21 日～2018 年 3 月 20 日

PY1397 : 2018 年 3 月 21 日～2019 年 3 月 20 日

調査対象地域図



| | |
|---------------------|---|
| 1. 国名 | イラン・イスラム共和国 (Islamic Republic of Iran) |
| 2. 面積 | 164.8 万平方キロメートル (日本の約 4.4 倍) *1 |
| 3. 人口 | 8,116 万人 (2017) *2、年間増加率 1.096% (2017) *2 |
| 4. 民族 | ペルシャ人 (他にアゼリ系トルコ人, クルド人, アラブ人等) *1 |
| 5. 言語 | ペルシャ語, トルコ語, クルド語等*1 |
| 6. 宗教 | イスラム教 (主にシーア派), 他にキリスト教, ユダヤ教, ゴロアスター教等*1 |
| 7. 主要産業 | 石油関連産業*1 |
| 8. 国内総生産 (GDP) | USD 454,013 百万 (2017) *2 |
| 9. 一人あたり GNI | USD 5,430 (2017) (Atlas Method, Current USD) *2 USD 20,920 (2017) (PPP, Current International Dollar) *2 |
| 10. GDP 成長率 | 3.8% (2017) *2 |
| 11. 物価指数 (2010=100) | 337.104 (2017) *2 |
| 12. 通貨 | リアル (IRR) |
| 13. 平均余命 | 76.2 歳 (2017) *2 |
| 14. 成人識字率 | 85.5% (2016) *2 |
| 15. 成人エイズ感染率 | 0.1% (2017) *2 |
| 16. 初等教育就学率 | 総就学率 108.0% (女子 109.8%、男子 106.2%)、純就学率 98.6% (2017) *2 |
| 17. 失業率 | 全体 12.0%、成人男性 10.1%、成人女性 20.1% (ILO モデル推計値) (2018) *2 |

*1 日本国外務省ホームページ「各国・知性情勢」より (2019年6月23日入手)

*2 世界銀行ホームページ「World Development Indicators (WDI)」(2019年6月23日入手)

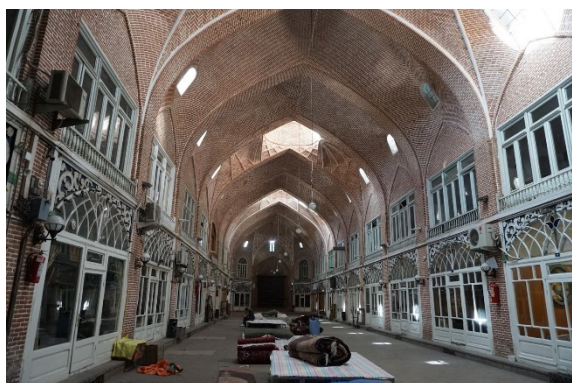
現地調査写真 (1)



ICHHTO の Teymouri 観光担当次官が議長を務めたキックオフミーティング (19/05/11)



東アゼルバイジャン州における ICHHTO 及び関係機関との協議 (19/05/15)



世界遺産「タブリーズ歴史のバザール施設」を視察 (19/05/14)



世界遺産暫定リストの「カブードモスク」を視察 (19/05/14)



タブリーズには、登山、アウトドア、アドベンチャーを扱うエージェントも多い



世界遺産登録を目指すキャンドヴァン村の洞窟住居を視察 (19/05/14)



世界遺産「アルメニア修道院群」のひとつ St. Stephanos 教会を視察 (19/05/16)



Aras Free Zone では、文化遺産の修復に加え、村のエコミュージアムも支援している

現地調査写真 (2)



西アゼルバイジャン州における ICHHTO 及び関係機関との協議 (19/05/18)



ICHHTO 西アゼルバイジャン州に隣接するオルミエ博物館を視察 (19/05/18)



世界的な鉄器時代の遺跡として知られる「ハサンルー」を視察 (19/05/18)



ハサンルー遺跡に付随する博物館には発掘された遺物が展示されている (19/05/18)



岩の中腹にはサーサン朝時代の碑文が刻まれている (19/05/19)



13 世紀イスラム神秘主義の Shams Tabrizi の墓には山羊の角を飾った塔がある (19/05/19)



世界遺産「アルメニア修道院群」のひとつ St. Thaddeus 修道院を視察 (19/05/19)

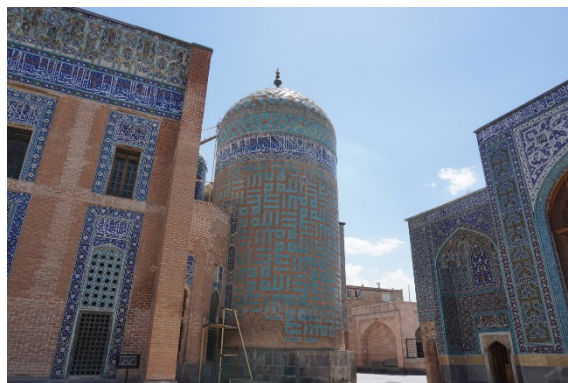


ゾロアスター教聖地のひとつで世界遺産の「タフテ・ソレイマーン」を視察 (19/05/24)

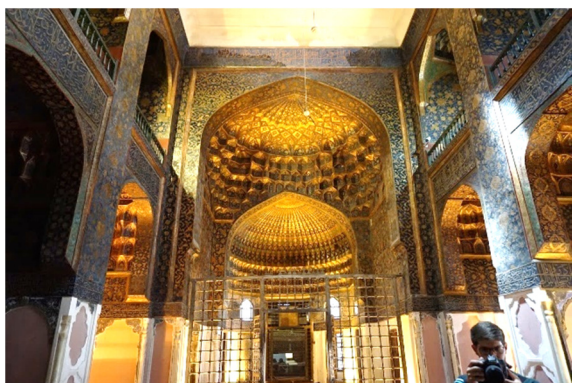
現地調査写真 (3)



アルダビール州における ICHHTO 及び関係機関との協議 (19/05/20)



世界遺産「シャイフ・サフィーアッディーン廟」を視察 (19/05/20)



世界遺産「シャイフ・サフィーアッディーン廟」の内部 (19/05/20)



シャイフ・サフィーアッディーン廟の門前には地元の特産品を売る土産物店が並ぶ



世界遺産暫定リスト「サバラン山 (4,800 m)」はアルダビール州の中央にそびえる



アゼルバイジャン共和国との国境沿いにも豊かな自然が広がる (19/05/20)



サバラン山麓のサレイン温泉には、いくつものヘルスセンターがある (19/05/21)



サレインには名物のハチミツとヨーグルトを売る店が並ぶ (19/05/21)

現地調査写真 (4)



ザンジャン州における ICHHTO 及び関係機関との協議 (19/05/22)



ガジャー朝時代の洗濯施設 (Rakhshooy Khaneh) を民俗博物館として活用



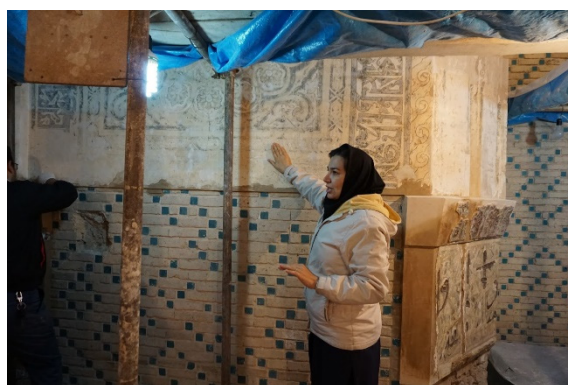
ザンジャン市が作った工芸品バザール、伝統的履物のチャログの店 (19/05/22)



ザンジャン市が運行の市内観光バス、ECO加盟国の国旗が並んでいる (19/05/22)



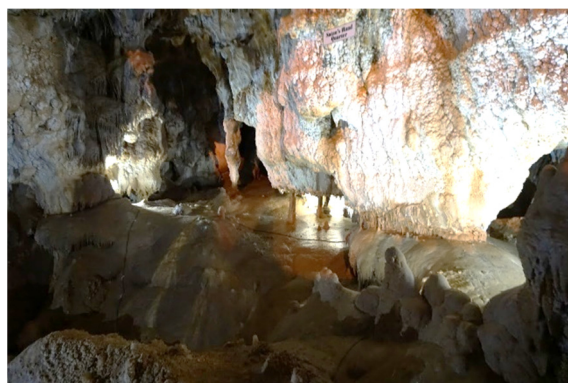
イル・ハーン朝の首都遺構として世界遺産の「ソルターニーイエ」を視察 (19/05/23)



ICHHTO 職員と作業員によって丁寧な修復作業が続けられている (19/05/23)



ザンジャン州はエコロジック発祥地で、最も開発が進んでいる州である (19/05/23)



カタレフル洞窟ではみごとな鍾乳石が見られる (19/05/23)

現地調査写真 (5)



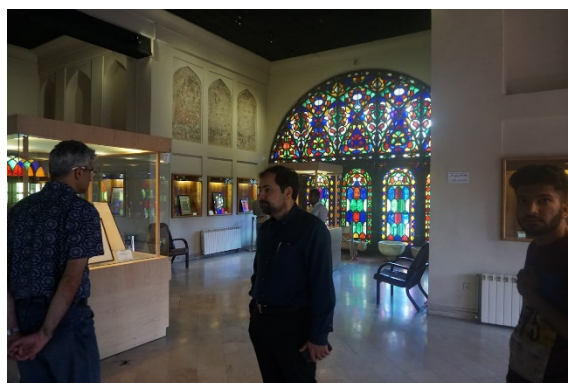
ガズヴィーン州における ICHHTO 及び民間セクターとの協議 (19/05/28)



ハラガン双子塔として知られるセルジューク朝時代の廟 (19/05/27)



各地のキャラバンサライを若者の雇用創出に活用したい意向がある (19/05/27)



サファビー朝の宮殿をカリグラフィ博物館として活用している (19/05/28)



ショッピングモールとして修復されたバザールは人気スポットである (19/05/28)



アラムート山中にあるオーバン湖、湖畔ではキャンプもできる (19/05/29)



岩山は、アサシン教団で有名な世界遺産暫定リストのアラムート城跡 (19/05/29)



アラムート山中にも、それぞれ工夫を凝らしたエコロッジがある (19/05/29)

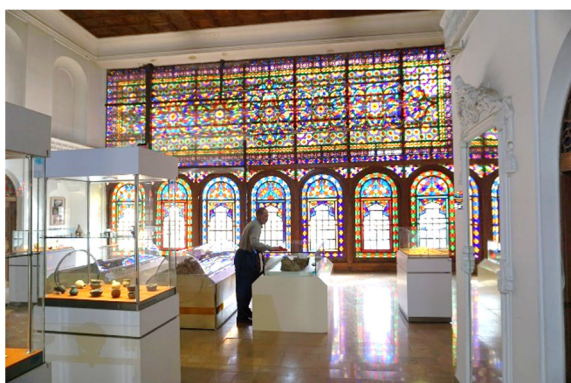
現地調査写真 (6)



コルDESTAーン州における州、ICHHTO 及び関係機関との協議 (19/05/25)



文化と自然の複合遺産として世界遺産暫定リストに載せたカラフトゥ洞窟 (19/05/24)



みごとなステンドグラスの館を再利用しているサナンダージ博物館 (19/05/25)



生々しくクルド人の生活を描写したアセフ邸の展示 (19/05/25)



ICHHTO が修復中のガジャー朝時代のモシルディウォーン邸 (19/05/25)



ゼリバル湖は、渡り鳥の楽園として人気のスポットである (19/05/25)



世界遺産暫定リストの「ホウラマンの文化的計画」を視察 (19/05/26)



ホウラマン溪谷には、山の斜面に沿った階段状の村が多数ある (19/05/26)

イラン国
タブリーズ及びその周辺地域における観光開発戦略策定に係る
情報収集・確認調査

ファイナルレポート

目次

調査対象地域図

写真

目次

図表目次

略号表

| | | |
|-----|-----------------|----|
| 1 | 調査の概要 | 1 |
| 1.1 | 調査の背景 | 1 |
| 1.2 | 調査の目的 | 1 |
| 1.3 | 調査対象地域 | 1 |
| 2 | 対象地域の概要 | 2 |
| 2.1 | 歴史、地理、自然、文化 | 2 |
| 2.2 | 社会経済 | 3 |
| 3 | 観光資源と観光プロダクト | 5 |
| 3.1 | 歴史文化観光の資源とプロダクト | 5 |
| 3.2 | 自然資源とエコツーリズム | 6 |
| 3.3 | 伝統工芸品 | 7 |
| 3.4 | 無形文化遺産等 | 7 |
| 3.5 | 観光資源管理 | 8 |
| 4 | 観光需要 | 9 |
| 4.1 | インバウンド観光客 | 9 |
| 4.2 | 対象地域への入込観光客 | 11 |
| 5 | 観光産業 | 16 |
| 5.1 | ホテルと宿泊業 | 16 |
| 5.2 | 旅行代理店とツアーオペレーター | 17 |
| 5.3 | レストラン | 18 |
| 5.4 | 観光ガイド | 19 |
| 5.5 | 人材開発 | 20 |

| | | |
|-----|-----------------------------|----|
| 6 | 観光行政と観光管理..... | 21 |
| 6.1 | ICHHTO 州支所の組織体制..... | 21 |
| 6.2 | ICHHTO 州支所の予算..... | 22 |
| 6.3 | 観光マーケティング..... | 23 |
| 7 | 観光開発の現状..... | 25 |
| 7.1 | 観光開発計画の状況..... | 25 |
| 7.2 | 他ドナー等による観光セクター支援..... | 27 |
| 7.3 | 観光分野への投資..... | 27 |
| 7.4 | SDGs への貢献..... | 28 |
| 8 | 提言..... | 29 |
| 8.1 | イラン北西部観光開発マスタープランの策定支援..... | 29 |
| 8.2 | 日本側の投入..... | 32 |
| 9 | 付録..... | 33 |
| | 付録1：現地調査日程（実績） | |
| | 付録2：主要面談者リスト | |
| | 付録3：関連機関との面談録 | |
| | 付録4：現地踏査視察メモ | |
| | 付録5：収集資料リスト | |

図表目次

| | | |
|-------|---|----|
| 表 2.1 | 対象地域各州の概要（地理） | 2 |
| 表 2.2 | 対象地域各州の主な社会経済指標..... | 3 |
| 表 3.1 | 対象地域の主な歴史文化観光の資源とプロダクト | 5 |
| 表 3.2 | 対象地域の主な自然資源とエコツーリズム | 6 |
| 表 3.3 | 対象地域の主な伝統工芸品 | 7 |
| 表 3.4 | 対象地域の主な無形文化遺産 | 7 |
| 表 4.1 | 対象各州への入込観光客数 | 11 |
| 表 4.2 | SCI 国民観光調査の概要（PY1397） | 12 |
| 表 4.3 | ICHHTO 州支所が州内の宿泊施設から収集する観光客情報 | 14 |
| 表 4.4 | 対象各州の宿泊客数 | 14 |
| 表 4.5 | 主な観光サイト、博物館等の入場者数 | 15 |
| 表 5.1 | ICHHTO 管理の観光産業 | 16 |
| 表 5.2 | 対象各州の宿泊業の分布状況（PY1398=2019 年） | 16 |
| 表 5.3 | 対象各州の旅行代理店の分布状況（PY1398=2019 年） | 17 |
| 表 5.4 | 対象各州の観光レストランの分布状況（PY1398=2019 年） | 18 |
| 表 5.5 | 対象各州の有資格観光ガイドの分布状況（PY1398=2019 年） | 19 |
| 表 5.6 | 観光教育を行っている高等教育機関、職業訓練校 | 20 |
| 表 6.1 | 対象各州の ICHHTO 州支所の人員体制（2019 年 6 月） | 21 |
| 表 6.2 | 対象各州の ICHHTO 州支所の予算 | 22 |
| 表 6.3 | 対象各州の観光マーケティングの実践状況 | 23 |
| 表 6.4 | 対象各州の観光マーケティング予算 | 24 |
| 表 7.1 | 各州の観光開発計画の状況 | 25 |
| 表 7.2 | 他ドナー等による観光セクター支援 | 27 |
| 表 8.1 | イラン北西部の観光開発テーマ（例） | 29 |
| 表 8.2 | 北西部観光開発マスタープランの対象地域と目標年次（例） | 29 |
| 表 8.3 | 北西部観光開発マスタープランのスコープ（例） | 30 |
| 表 8.4 | 日本側の投入（例） | 32 |
| 図 4.1 | インバウンド観光客数の推移 | 9 |
| 図 4.2 | インバウンド観光客の国籍トップ 11（PY1395 と PY1396） | 9 |
| 図 4.3 | インバウンド観光客の入国経路（PY1396） | 10 |
| 図 4.4 | SCI 国民観光調査（2013～2018）による対象地域への旅行状況 | 13 |
| 図 5.1 | 対象地域のホテル数、部屋数、ベッド数の推移 | 17 |
| 図 6.1 | ICHHTO 州支所の組織体制 | 21 |
| 図 7.1 | 持続可能な開発目標（SDGs） | 28 |
| 図 8.1 | 北西部観光開発マスタープランの策定プロセス（例） | 30 |
| 図 8.2 | 北西部観光開発マスタープラン策定の実施体制（例） | 31 |

略号表

| | | |
|------------|--|-------------------|
| CCIMA | Chamber of Commerce, Industries, Mines and Agriculture | イラン商工会議所 |
| DOE | Department of Environment | イラン環境庁 |
| ECO | Economic Cooperation Organization | 経済協力機構（本部：テヘラン） |
| EIA | Environmental Impact Assessment | 環境影響評価 |
| EU | European Union | 欧州連合 |
| FDI | Foreign Direct Investment | 海外直接投資 |
| FAM | Familiarization Trip or Tour | FAM トリップ／ツアー |
| FIT | Free Individual Tourists | 個人観光客 |
| FP | Focal Point | フォーカルポイント（主担当者） |
| GDP | Gross Domestic Product | 国内総生産 |
| ICHHTO | Iran Cultural Heritage, Handcrafts and Tourism Organization | イラン遺跡・手工芸・観光庁 |
| ICT | Information and Communications Technology | 情報通信技術 |
| IFTGA | Iran Federation of Tourist Guide Associations | イラン観光ガイド協会連合 |
| IHA | Iran Hotel Association | イランホテル協会 |
| IRIB | Islamic Republic of Iran Broadcasting | イラン国営放送局 |
| IRR | Iranian Rial (Currency) | イランリアル（通貨） |
| ITOA | Iran Tour Operator Association | イランツアーオペレーター協会 |
| JCC | Joint Coordinating Committee | 合同調整委員会 |
| JET | JICA Expert Team | JICA 専門家チーム |
| JICA | Japan International Cooperation Agency | 独立行政法人 国際協力機構 |
| JPY | Japanese Yen | 日本円 |
| M/M | Minutes of Meetings or Man-Month | 会議議事録／人月 |
| NA | Not Applicable or Not Available | 該当なし |
| NGO | Non-Governmental Organization | NGO |
| OIC | Organization of Islamic Cooperation | イスラム協力機構 |
| PBO | Plan and Budget Organization | イラン計画予算庁 |
| PY | Persian Year | イラン暦 |
| QIC | Quarantine, Immigration and Custom | 入国手続き（検疫、入国審査、税関） |
| R/D | Record of Discussions | 討議議事録 |
| SCI | Statistical Center of Iran | イラン政府統計局 |
| SDGs | Sustainable Development Goals | 持続可能な開発目標 |
| SNS | Social Networking Service | ソーシャルネットワーク |
| SWOT | Strengths, Weaknesses, Opportunities and Threats | SWOT 分析 |
| TACI | Touring and Automobile Club of Iran | イラン旅行・自動車連盟 |
| TBD | To Be Determined | 未定 |
| TOR | Terms of Reference | 業務範囲、取決事項 |
| TSA | Tourism Satellite Account | 観光サテライト勘定 |
| UNESCO | United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization | 国連教育科学文化機関 |
| UN-Habitat | United Nations Human Settlement Program | 国連人間居住計画（ハビタット） |
| UNWTO | World Tourism Organization | 世界観光機関 |
| VFR | Visiting Friends and Relatives | 家族・友人訪問（観光目的の一つ） |
| WCC | World Crafts Council | 世界工芸協議会 |
| WWF | World Wildlife Fund for Nature | 世界自然保護基金 |

1 調査の概要

1.1 調査の背景

イランは、中東随一の登録数を誇るユネスコ世界文化遺産の他、ゲシュム島等の自然遺産を含む豊富な観光資源を擁している。海外からの観光客は2010年の293.8万人から2015年には523.7万人と5年間で230万人が増加しており（UNWTO）、外国人観光客の増加に伴う観光収入は2010年の2,438百万米ドルから2015年には3,868百万米ドルに増加している（UNWTO）。イラン政府は、こうした観光産業の振興を第6次5ヵ年計画（2016-2021年）における重点分野と位置付けており、12%を超える高い失業率（2017年, ILO）に対する雇用創出への貢献も期待している。

他方、世界経済フォーラムによる旅行・観光競争力報告書（2017年）では、国際社会への開放度や観光インフラの整備状況等を要因として、イランは136ヶ国中93位と低い評価に留まっており、豊富な観光資源の効果的な活用については課題を抱えている。

JICAではこうした状況を受け、2017年9月～2018年3月にかけて「観光・文化遺産分野に係る情報収集・確認調査」を実施し、治安上から東南部を除くイラン全土を対象として、政策制度、他ドナーの支援状況等の基礎情報を収集すると共に、イランの観光分野の課題解決に向けた今後の協力対象候補地域としてタブリーズとその周辺地域を選定し、イラン遺跡・手工芸・観光庁（ICHHTO）と合意した。その結果、イラン政府から「タブリーズとその周辺地域におけるマスタープラン策定支援」に係る要請書が日本政府へ提出された。

JICAは、イラン側の要請に対する支援内容を検討するため、イラン北西部の観光開発に関連する詳細情報を収集する本調査を実施することとなった。

1.2 調査の目的

本調査の目的は以下の通りである。

- イラン北西部の観光開発マスタープラン策定支援を検討するにあたり、同地域における観光関連の基礎情報を収集・分析する。

1.3 調査対象地域

本調査は以下の地域で実施した。

- テヘラン
- イラン北西部（東アゼルバイジャン州、西アゼルバイジャン州、アルダビール州、ザンジャーン州、ガズヴィーン州、コルデスターン州の6州）

本調査の対象地域図を本報告書の巻頭に掲載した。

2 対象地域の概要

2.1 歴史、地理、自然、文化

対象地域であるイラン北西部は、アゼルバイジャン、アルメニア、トルコ、イラクと国境を接し、先史より、ヨーロッパとアジアを結ぶ交易路として重要な役割を果たしてきた。13世紀に成立したイル・ハーン朝、16世紀に興ったサファヴィー朝もこの地域を拠点とした。

現在の国境線を越え、東西交流の証である多様な民族が残してきた文化遺産が散在していることに加え、標高 4,811m のサバラン山、イラン最大の湖であるオルミエ湖をはじめとする豊かな自然資源を有している。火山であるサバラン山の麓には、豊富な湧水量の温泉が点在する。

表 2.1 対象地域各州の概要（地理）

| 指標 | 東アゼルバイジャン州 | 西アゼルバイジャン州 | アルダビール州 |
|------------------------------|------------|------------|-----------|
| 州庁所在地*1 | タブリーズ | オルミエ | アルダビール |
| 面積 (Km ²) *1 | 45,673 | 37,411 | 17,813 |
| (全土における比率) | 2.8% | 2.3% | 1.1% |
| 人口 (2011年) *2 | 3,724,620 | 3,080,576 | 1,248,488 |
| (2016年) *2 | 3,909,652 | 3,265,219 | 1,270,420 |
| 人口増加率 (20011~2016) *2 | 0.97% | 1.17% | 0.35% |
| 人口密度 (人/Km ²) *2 | 85.67 | 87.28 | 71.32 |
| Shahrestan (県、District) の数*1 | 20 | 17 | 10 |
| Bakhsh (郡、County) の数*1 | 44 | 40 | 29 |
| Shahr (市、City) の数*1 | 62 | 45 | 29 |
| Dehestan (村、Village) の数*1 | 142 | 113 | 71 |
| 自然保護区 (数) *1 | 14 | 7 | 4 |
| (面積 : ha) *1 | 591,565 | 662,737 | 136,979 |
| 国立公園 (数) *1 | 2 | 1 | 0 |
| 野生動物生息区 (数) *1 | 1 | 2 | 0 |
| 保護区 (数) *1 | 10 | 3 | 2 |
| 国定自然遺産 (数) *1 | 1 | 1 | 2 |

| ザンジャーン州 | ガズヴィーン州 | コルデスタン州 | イラン全土 |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| ザンジャーン | ガズヴィーン | サナンダージ | (テヘラン) |
| 21,773 | 15,567 | 29,136 | 1,68,777 |
| 1.3% | 1.0% | 1.8% | 100.0% |
| 1,015,734 | 1,201,565 | 1,493,645 | 75,149,669 |
| 1,057,461 | 1,273,761 | 1,603,011 | 80,277,428 |
| 0.81% | 1.17% | 1.42% | 1.24% |
| 48.57 | 81.82 | 55.02 | 49.29 |
| 8 | 6 | 10 | 429 |
| 17 | 19 | 31 | 1,058 |
| 21 | 25 | 30 | 1,287 |
| 48 | 46 | 86 | 2,589 |
| 3 | 3 | 5 | 284 |
| 244,654 | 119,414 | 191,959 | 17,735,085 |
| 0 | 0 | 0 | 31 |
| 1 | 0 | 1 | 46 |
| 2 | 3 | 4 | 169 |
| 0 | 0 | 0 | 38 |

出典： *1 : SCI Statistical Yearbook PY1396 (2017)、*2 : SCI 人口センサス 2016

2.2 社会経済

イラン北西部の対象地域各州の主な社会経済指標を下表に示す。

表 2.2 対象地域各州の主な社会経済指標

| 指標 | 東アゼルバイジャン州 | 西アゼルバイジャン州 | アルダビール州 |
|------------------------------|-------------|-------------|-------------|
| 人口 (2016 年) *1 | 3,909,652 | 3,265,219 | 1,270,420 |
| 人口増加率 (2011~2016) *1 | 0.97% | 1.17% | 0.35% |
| 人口密度 (人/Km ²) *1 | 85.67 | 87.28 | 71.32 |
| GDP (IRR 百万) *2 | 403,832,797 | 254,965,786 | 127,917,450 |
| 商業取引高 (IRR 百万) *2 | 4,471.24 | 1,567.44 | 1,767.07 |
| FDI (2010~2014) (USD 千) *2 | 279,882 | 39,306 | 20,100 |
| ジニ係数 (都市部) *2 | 0.34 | 0.26 | 0.27 |
| ジニ係数 (農村部) *2 | 0.34 | 0.25 | 0.27 |
| 消費者物価指数 (2016=100) *2 | 110.2 | 110.0 | 108.9 |
| 失業率 (全体) *3 | 10.7% | 14.3% | 10.4% |
| (男性) *3 | 9.8% | 14.1% | 10.1% |
| (女性) *3 | 14.9% | 15.2% | 11.3% |
| (都市部全体) *3 | 12.9% | 17.8% | 13.6% |
| (都市部男性) *3 | 11.3% | 16.3% | 12.0% |
| (都市部女性) *3 | 20.6% | 24.5% | 21.5% |
| (農村部全体) *3 | 6.0% | 8.7% | 5.4% |
| (農村部男性) *3 | 6.1% | 10.2% | 6.6% |
| (都市部女性) *3 | 5.4% | 3.6% | 2.7% |
| (15~24 歳) *3 | 27.3% | 26.6% | 25.8% |
| (15~29 歳) *3 | 24.9% | 26.8% | 23.8% |

| ザンジャン州 | ガズヴィーン州 | コルデスターン州 | イラン全土 |
|-------------|-------------|-------------|------------|
| 1,057,461 | 1,273,761 | 1,603,011 | 80,277,428 |
| 0.81% | 1.17% | 1.42% | 1.24% |
| 48.57 | 81.82 | 55.02 | 49.29 |
| 138,198,206 | 209,570,306 | 116,360,485 | NA |
| 4,375.70 | 1,218.57 | 551.26 | NA |
| 228,732 | 117,410 | 14,351 | 17,817,993 |
| 0.28 | 0.29 | 0.30 | 0.37 |
| 0.25 | 0.29 | 0.26 | 0.34 |
| 109.0 | 109.1 | 109.4 | 109.6 |
| 10.4% | 10.7% | 13.7% | 12.1% |
| 9.8% | 9.9% | 11.8% | 10.2% |
| 12.9% | 15.1% | 22.5% | 19.8% |
| 12.8% | 12.3% | 15.6% | 13.4% |
| 11.1% | 11.1% | 12.6% | 10.9% |
| 22.6% | 18.6% | 32.1% | 24.0% |
| 6.4% | 5.7% | 9.8% | 8.2% |
| 7.6% | 6.4% | 10.1% | 8.2% |
| 2.3% | 2.0% | 8.4% | 8.5% |
| 21.3% | 22.9% | 36.0% | 28.4% |
| 22.3% | 21.6% | 31.5% | 25.3% |

出典： *1：SCI 人口センサス 2016、*2：MEFA Databank 2017、*3：SCI Statistical Yearbook PY1396 (2017)

州 GDP に着目すると、東アゼルバイジャン州が高く、西アゼルバイジャン州とガズヴィーン州、ザンジャン州とアルダビール州が続き、コルデスターン州が最も少ない。商業取引高、海外直接投資は、ザンジャン州が高いことを除けば、ほぼ同じ傾向を示している。

ジニ係数は、東アゼルバイジャン州が最も高いものの、どの州も全国平均を下回っており、比較的公平な富の配分がされていると考えられる。消費者物価指数も州ごとの違いは見られない。

失業率は、共通して都市部の女性で高い傾向にあり、コルDESTAーン州では32.1%と極めて高い。また、24歳以下の若者の失業率は高く、ほとんどの対象州において3~4人に一人は失業者である。農村部における失業率は概して低いものの、西アゼルバイジャン州とコルDESTAーン州では農村部男性の失業率が10%を超えており、深刻である。

策定されるイラン北西部の観光開発マスタープランは、このような地域格差の解消、雇用の創出、所得の向上において、地域住民の期待に応えることが期待される。

3 観光資源と観光プロダクト

3.1 歴史文化観光の資源とプロダクト

対象地域には、先史時代から人類が住み、ハサンルーのような世界的な鉄器時代の遺跡がある他、サーサン朝時代の碑文、ゾロアスター教の重要な神殿跡、東西交易に利用されたキャラバンサライやバザール、イル・ハーン朝、サファヴィー朝、ガジャール朝等の廟や遺構も数多く残っており、人類共通の歴史文化遺産に満ちている。

対象地域における主な歴史文化観光の資源とプロダクトを下表に示す。

表 3.1 対象地域の主な歴史文化観光の資源とプロダクト

| 州 | 世界遺産 | 世界遺産 暫定リスト | 国定文化遺産・ 博物館等 |
|------------|--|---|---|
| 東アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> アルメニア修道院群 (2008年) タブリーズの歴史的バザール施設 (2010年) | <ul style="list-style-type: none"> カブードモスク (2007年) アラスバラン保護区 (自然遺産暫定リスト) (2007年) | <ul style="list-style-type: none"> アルゲ・タブリーズ キャンドヴァン村洞窟住居群 歴史的城塞群 アゼルバイジャン博物館 ガジャール博物館 鉄器時代博物館 計測博物館 憲政記念館 |
| 西アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> タフテ・ソレイマーン (2003年) アルメニア修道院群 (2008年) | | <ul style="list-style-type: none"> ハーンタフティ碑文 ハサンルー遺跡 モタレブハーンモスク (ホイ) シャムスタブリーズィ塔 (ホイ) ホイ旧市役所 オルミエ博物館 人類学博物館 自然史博物館 ハサンルー博物館 ホイ博物館 |
| アルダビール州 | <ul style="list-style-type: none"> シャイフ・サフィーアッディーン廟の歴史的建造物 (2010年) | サバラン山 (自然遺産暫定リスト) (2007年) | <ul style="list-style-type: none"> シャイフ・アミンアッディーン・ジュブライリ廟 アルダビール人類学博物館 |
| ザンジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> ソルターニーイエ (2005年) | 岩塩ドーム (自然遺産暫定リスト) (2017年) | <ul style="list-style-type: none"> ザンジャンバザールと旧市街 シャラビウフロウ廟 ダシュカサーン (ドラゴン寺) 考古学博物館 (Salt men 博物館) 民俗博物館 (Rakhshooy Khaneh) |

| | | | |
|----------|--|---|--|
| ガズヴィーン州 | | <ul style="list-style-type: none"> アラムートの文化的景観 (2007年) | <ul style="list-style-type: none"> サファヴィー朝行政府跡 ガズヴィーンバザール (Sa'ad Saltaneh Caravanserai) ブインザフラキヤランサライ他 ハラガーン双子塔 カリグラフィ博物館 (Chehel Sotun Palace) ガズヴィーン博物館 メラット博物館 |
| コルデスターン州 | | <ul style="list-style-type: none"> ホウラマンの文化的景観 (2007年) カラフトゥ洞窟 (複合遺産) (2017年) | <ul style="list-style-type: none"> ホウラマン地区の伝統的階段状住居群 パラングン村 ズイヴィエ遺跡 サナダージ博物館 アセフ邸 モシルディワーン邸 |

出典： World Heritage Center、ICHHTO 各州

3.2 自然資源とエコツーリズム

対象地域には、標高 4,800 m 級のサバラン山をはじめ、自然豊かな山地や高原に恵まれている。そこから流れる清流と多様な動植物、鳥類も観光やエコツーリズムの資源となっている。

対象地域における主な自然観光、エコツーリズムの資源とプロダクトを下表に示す。

表 3.2 対象地域の主な自然資源とエコツーリズム

| 州 | 世界遺産 暫定リスト | 国立公園 | 保護区等 |
|------------|---|--|--|
| 東アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> アラスバラン保護区 (2007年) | <ul style="list-style-type: none"> アラスバラン保護区 (8,923 ha) カンタル保護区 (6,991 ha) | <ul style="list-style-type: none"> グリゴル湖 (ラムサール条約) |
| 西アゼルバイジャン州 | | <ul style="list-style-type: none"> オルミエ湖 (541,315 ha) | <ul style="list-style-type: none"> ハサンルー湖 カニバラザン湿原 |
| アルダビール州 | <ul style="list-style-type: none"> サバラン山 (2007年) | | <ul style="list-style-type: none"> サレイン温泉 メシュギンジャー温泉 ファンドクル森林 |
| ザンジャーン州 | <ul style="list-style-type: none"> 岩塩ドーム (2017年) | | <ul style="list-style-type: none"> カタレフル洞窟 アングラン保護区 |
| ガズヴィーン州 | アラムートの文化的景観 (文化遺産暫定リスト) (2007年) | | <ul style="list-style-type: none"> アラムート山地 オーヴァン湖 |
| コルデスターン州 | <ul style="list-style-type: none"> カラフトゥ洞窟 (複合遺産) (2017年) ホウラマンの文化的景観 (文化遺産暫定リスト) (2007年) | | <ul style="list-style-type: none"> カラフトゥ洞窟 ビジャーレ保護区 ゼリバル湖 |

出典： World Heritage Center、DOE、ICHHTO 各州

3.3 伝統工芸品

対象地域は、先史時代より重要な東西交易路にあり、交易品が行き交うことに加え、交易を通して地場の製品の技術や品質も洗練され、今日まで引き継がれてきた。

対象地域における主な伝統工芸品を下表に示す。

表 3.3 対象地域の主な伝統工芸品

| 州 | 主な伝統工芸品 |
|------------|--|
| 東アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> ペルシア絨毯（WCC 登録済み） 革製品 革靴 |
| 西アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> 木彫り細工 寄木細工 伝統楽器 |
| アルダビール州 | <ul style="list-style-type: none"> 革製品（カバン等） |
| ザンジャーン州 | <ul style="list-style-type: none"> ナイフと刃物 チャローグ（伝統的な履物） 銅製品（鍋、皿、コップ等） |
| ガズヴィーン州 | <ul style="list-style-type: none"> 伝統雑貨 |
| コルDESTAーン州 | <ul style="list-style-type: none"> カラッシュ（伝統的な履物）（WCC 登録済み） |

出典： World Crafts Council、ICHHTO 各州

3.4 無形文化遺産等

対象地域には、元来のペルシア文化に加え、アゼリー人、イル・ハーン朝、クルド、トルコ等の多様な文化との接触や、中央アジア起源の遊牧民文化も見られる。多様な文化の交流の結果、今日まで多様で魅力的な無形文化遺産が引き継がれている。

対象地域における主な無形文化遺産を下表に示す。

表 3.4 対象地域の主な無形文化遺産

| 州 | 主な無形文化遺産 |
|------------|---|
| 東アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> 郷土料理（クフテ・タブリーズ等） スイーツ |
| 西アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> 郷土料理（ニンニクのピクルス等） 砂糖菓子 |
| アルダビール州 | <ul style="list-style-type: none"> 郷土料理（アーシェ・ドゥーグ、ヨーグルトスープ等） 養蜂 遊牧民の生活スタイルと住居（ユルト） |
| ザンジャーン州 | <ul style="list-style-type: none"> スイーツ |
| ガズヴィーン州 | <ul style="list-style-type: none"> スイーツ |
| コルDESTAーン州 | <ul style="list-style-type: none"> 郷土料理（クルド風クフテ等） クルド伝統衣装 クルド伝統音楽 クルド伝統芸能 |

出典： ICHHTO 各州

3.5 観光資源管理

上述した観光資源に関し、ICHHTO 州支所観光局は、ICHHTO の他部門や関連機関と連携・協力して資源管理に携わっている。

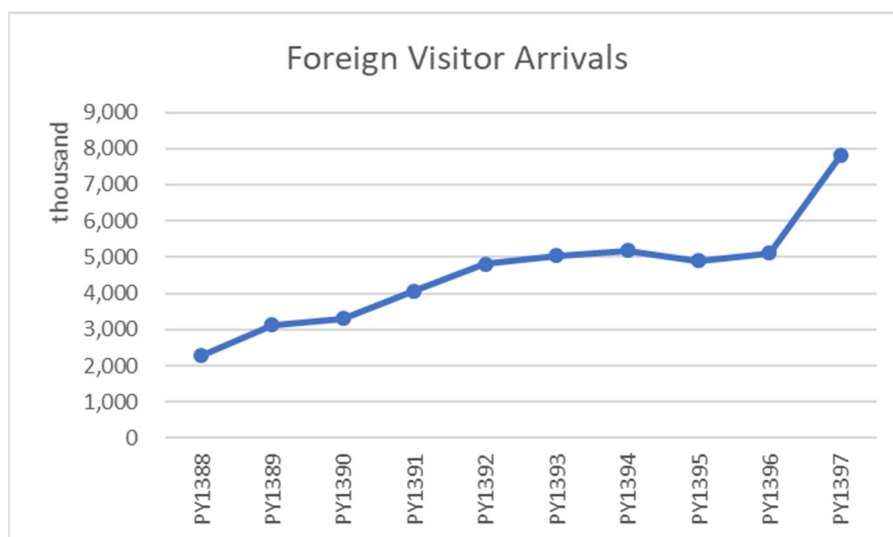
歴史文化資源に関しては、博物館を含め、ICHHTO 州支所遺跡局が主管している。自然観光資源とエコツーリズムに関しては、自然保護区や湿地は DOE や水資源管理者が管理し、駐車場、キャンプ場、売店、トイレ等の観光施設、それらの清掃やごみ収集・処理を含め、その周辺の観光利用されているエリアを ICHHTO 州支所観光局が管理するが、村の組合等に業務委託することもある。手工芸に関しては、ICHHTO 州支所手工芸局が管理している。無形文化遺産については、その性質によって管理者は異なる。

4 観光需要

4.1 インバウンド観光客

イランは、全国の国際空港、国際港、国境検問所における入国管理情報に基づき、インバウンド観光客数を集計している。PY1388～PY1397（2009～2018年）の過去10年間の推移を下図に示す。

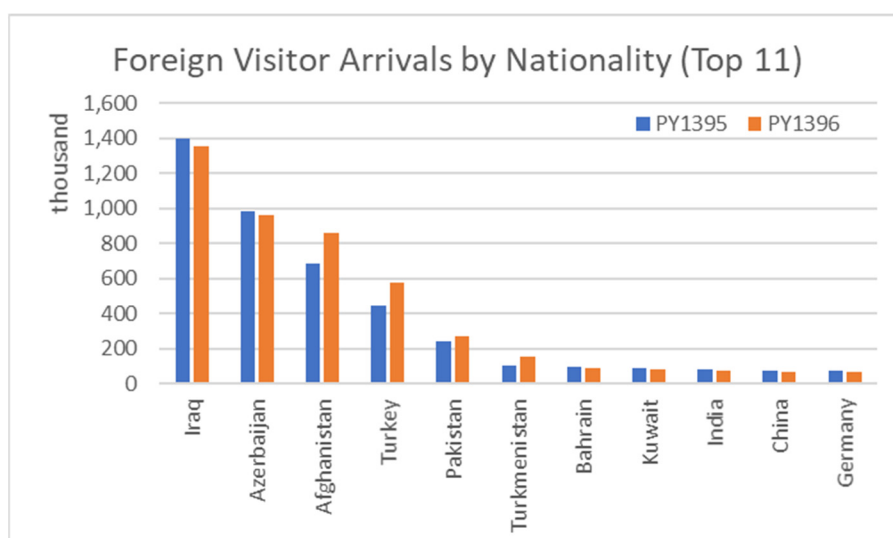
図 4.1 インバウンド観光客数の推移



出典： ICHHTO

PY1397（2018年）にイランを訪れた観光客は780万人に達し、前年比52.5%増の増加となった。ICHHTOでは、アゼルバイジャン共和国をはじめとする周辺国、ヨーロッパ、南北アメリカからの観光客の増加によるもので、イラン通貨安に伴う価格面の優位、eビザの発給、入国手続きの規制緩和等が貢献したと考えている。

図 4.2 インバウンド観光客の国籍トップ11（PY1395とPY1396）

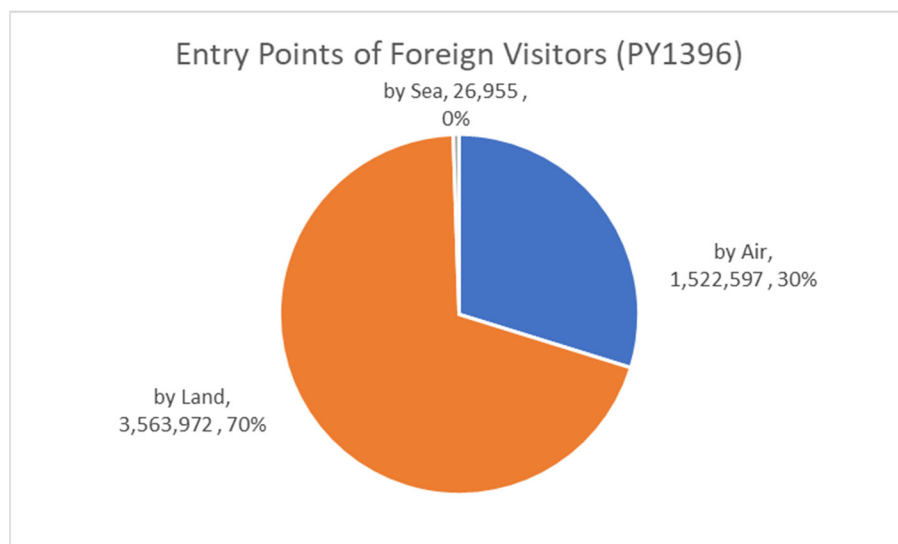


出典： ICHHTO

PY1397にはアゼルバイジャン共和国がトップになっているものの、PY1395とPY1396におけるトップ11ヶ国を示す上図からは、イラン北西部が国境を接するイラク、アゼルバイジャン共和国、トルコの3ヶ国でインバウンド観光客全体の約3分の2（65%）を占めていることがわかる。

このような状況を反映してインバウンド観光客の入国経路は、下図に示すように、陸路が70%、空路が30%となっている。

図 4.3 インバウンド観光客の入国経路（PY1396）



出典： ICHHTO

対象州の中で東アゼルバイジャン州には、アゼルバイジャン共和国とアルメニアとの国境検問所、西アゼルバイジャン州には2ヶ所のトルコ国境検問所とイラクとの国境検問所、アルダビール州にはアゼルバイジャン共和国との国境検問所、コルデスターン州にも2ヶ所のイラクとの国境検問所があり、物流のみならず、国際観光客や地域観光客が出入国している。

特に、東アゼルバイジャン州 Aras Free Trade Zone 内にあるジョルフアの国境検問所は、テヘランのイマーム・ホメイニ国際空港に次ぐ出入国者数がある。イラン北西部の観光開発マスタープラン策定にあたっては、これら陸路の国境検問所による国際観光客、地域観光客を考慮した観光ルートの開発が求められると考える。

4.2 対象地域への入込観光客

対象地域のイラン北西部6州への入込観光客に関しては、ICHHTO が統計を発表しているものの、算出方法が定まっておらず、精度の信頼性が低い。

対象州の ICHHTO 支所への聞き取りによると、入込観光客数は、1) 宿泊施設からの宿泊客情報、2) 主な観光サイトや博物館のチケット数、3) 特に、ノウルーズ（イラン新年）等の観光シーズンにおけるバスターミナル、空港、国道管理事務所等の交通機関へのヒアリング等を情報源として、推計しているとのことである。例えば、ザンジャン州では、宿泊客情報にチケット数の6~7割を加算して推計している。

表 4.1 対象各州への入込観光客数

| 州と観光客の種別 | | PY1393 | PY1394 | PY1395 | PY1396 |
|------------|-------|---------|-----------|--------|-----------|
| 東アゼルバイジャン州 | 国内観光客 | 96,622 | 72,865 | NA | 4,200,000 |
| | 外国人 | 357,841 | 333,786 | NA | 520,000 |
| | 合計 | 454,463 | 406,651 | NA | 4,720,000 |
| 西アゼルバイジャン州 | 国内観光客 | 193,002 | 291,763 | NA | 2,874,149 |
| | 外国人 | 526,477 | 497,451 | NA | 598,213 |
| | 合計 | 719,479 | 789,214 | NA | 3,472,362 |
| アルダビール州 | 国内観光客 | 0 | 2,125,000 | NA | 6,500,000 |
| | 外国人 | 360,513 | 353,016 | NA | 405,246 |
| | 合計 | 360,513 | 2,478,016 | NA | 6,905,246 |
| ザンジャン州 | 国内観光客 | 83,992 | 88,210 | NA | 296,310 |
| | 外国人 | 0 | 0 | NA | 4,309 |
| | 合計 | 83,992 | 88,210 | NA | 300,619 |
| ガズヴィーン州 | 国内観光客 | 254,423 | 815 | NA | 2,984,350 |
| | 外国人 | 3,152 | 0 | NA | 9,470 |
| | 合計 | 257,575 | 815 | NA | 2,993,820 |
| コルDESTAAN州 | 国内観光客 | 140,867 | 133,879 | NA | 195,139 |
| | 外国人 | 128,209 | 0 | NA | 5,475 |
| | 合計 | 269,076 | 133,879 | NA | 200,614 |

註： PY1395（2016年）は、予算の関係でSCIが統計年鑑を発行しなかった。

出典： ICHHTO（各年のSCI統計年鑑より）

上表からわかるように、年によってデータが欠けていたり、大雑把な推計値や目標値が掲載されたりしており、観光客数の推移の分析や将来予測を行うには役立たない。

本調査では、観光開発マスタープラン策定におけるベースラインの設定や、より正確な将来予測に利用できる客観的データの有無を調査し、以下の3つのデータを確認した。

(1) イラン政府統計局（SCI）による国民観光調査

イラン政府統計局（SCI）は、ICHHTO、中央銀行と協力の下、世界観光機関（UNWTO）が提唱する観光サテライト勘定（TSA）に沿った観光関連データを収集・分析している。その一環として、2008年より、イラン国民を対象としたサンプリングによる観光調査を実施している（但し、2015年は実施していない）。PY1397（2018年）に実施した国民観光調査の概要は下表のとおりである。

表 4.2 SCI 国民観光調査の概要（PY1397）

| | |
|-------|---|
| 調査対象 | イラン国内に居住するイラン国民 |
| サンプル数 | 全国の 25,000 家庭（全国 24,196,035 家庭の約 0.1%に相当） |
| 調査方法 | 調査員の訪問による面接での聞き取り |
| 調査項目 | イラン暦の春の 3 ヶ月間（3～5 月に相当）の国内外の旅行について <ul style="list-style-type: none"> ・ 何人で ・ どこへ（行き先と経由地） ・ それぞれ何泊し ・ いくら使ったか（支出） ・ その他 |

出典： SCI

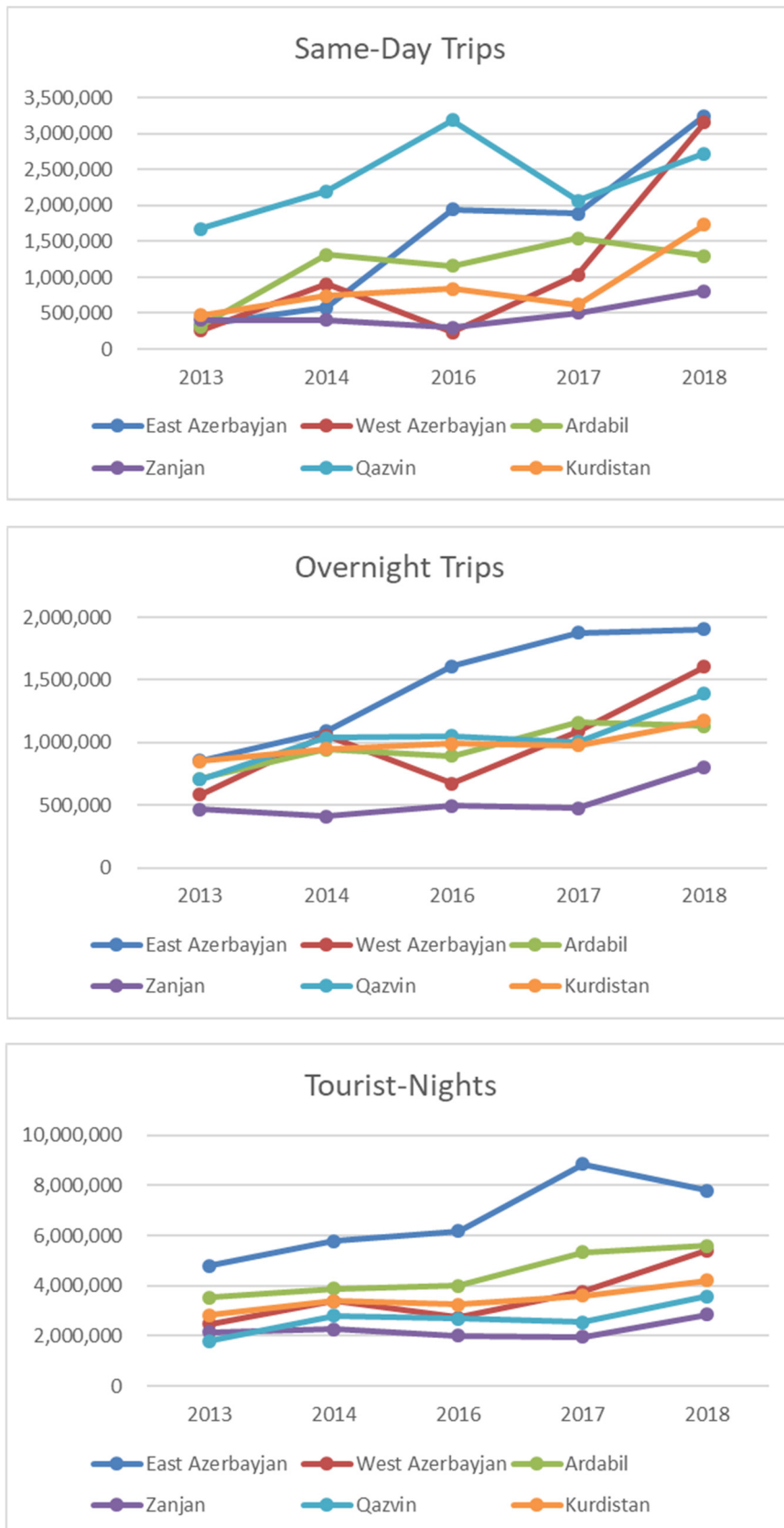
2018年の調査結果によると、同年春の3ヶ月間に全国約8,000万人の国民により、6,683万人回の日帰り旅行、5,626万人回の宿泊を伴う旅行がされ、19,740万人泊が消費されている。夏、秋、冬の調査はされていないが、夏は学校が休みとなるため家族旅行や学生の旅行が多く、秋と冬は旅行が少なくなると考えられている。

SCIの調査が実施されなかった2015年を除く、2013～2018年の過去5回の調査結果に関して、対象地域のイラン北西部6州への日帰り旅行、宿泊を伴う旅行、宿泊数の推移を次頁の図に示す。

図からは、過去6年間を経て、東アゼルバイジャン州が日帰り、宿泊を伴う旅行の双方で、旅行先として伸びてきていることが顕著に表れている。また、東アゼルバイジャン州に及ばないが、西アゼルバイジャン州にも同様の傾向が見られる。アルダビール州は、自然豊かな保養地として、確立されていることがわかる。コルDESTASTAN州は、日帰り旅行よりも、宿泊を伴う旅行先として選ばれていることがわかる。ガズヴィーン州は、テヘランからの距離も近いいため、日帰り旅行先としては定着している。

一方、ザンジャーン州は、日帰り旅行、宿泊を伴う旅行、宿泊数の全てで最下位となっており、イラン国民に通過地点と認識されていると思われる。民俗博物館（Rakhshooy Khaneh）周辺地区やバザール周辺の再開発によって回遊性を高めつつ、旧市街を活性化中のザンジャーンと世界遺産のソルターニーエを活用しながら、豊富なブームギャルディを生かし、観光 destinations 化を図る必要があると考える。

図 4.4 SCI 国民観光調査（2013～2018）による対象地域への旅行状況



出典： SCI、国民観光調査 2013～2018 年

(2) 宿泊施設からの報告に基づく観光客の宿泊データ

ICHHTO の各州支所では、ICHHTO 本部で定めた方法によって、州内の宿泊施設から毎日の宿泊観光客情報を収集している。収集している項目は、下表の 4 種類の数値データである。

表 4.3 ICHHTO 州支所が州内の宿泊施設から収集する観光客情報

| | |
|-----------------|--|
| 調査対象の宿泊施設 | ホテル、アパートメントホテル、イン（ゲストハウス）、エコロッジ（ブームギャルディ）、キャンプ場 |
| 調査対象外の宿泊施設 | 民泊、親戚や友人宅、公園や空き地等でのキャンプ、車中泊等 |
| 宿泊施設から収集する観光客情報 | 以下、日ごとの人数や客室数 1. チェックインした人数（国内観光客、外国人観光客） 2. チェックアウトした人数（国内観光客、外国人観光客） 3. 連泊している人数（国内観光客、外国人観光客） 4. 使用されている客室数 |

註： 調査対象と対象外の宿泊施設の種類は、州によって若干異なる。特に、エコロッジ（ブームギャルディ）は対象とする州と対象としない州がある。

出典： ICHHTO 州支所（東アゼルバイジャン州）

原則として、宿泊施設が、毎日、記録したシートを 15 日ごとに ICHHTO 州支部へ報告し、ICHHTO 州支部の観光統計担当者が ICHHTO 本部のデータベースへ記録することになっているが、実践状況は不明である。

宿泊施設からの観光客情報は、宿泊を伴わない観光客、親戚・友人宅に泊まった観光客等が含まれないという弱点はあるものの、SCI の国民観光調査が、イラン国民に限ったサンプリングと聞き取り調査による推計なのに対し、外国人観光客も含む実数データであることから、相互に補完的なデータと言える。

質問票により対象の各州へ過去 5 年間のデータの提供を求めた結果を下表に示す。

表 4.4 対象各州の宿泊客数

| 州と観光客の種類別 | | PY1393 | PY1394 | PY1395 | PY1396 | PY1397 |
|------------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 東アゼルバイジャン州 | 国内観光客 | 1,725,500 | 2,135,000 | 2,600,000 | 2,985,200 | 3,608,100 |
| | 外国人 | 374,500 | 315,000 | 360,000 | 390,400 | 441,900 |
| | 合計 | 2,100,000 | 2,450,000 | 2,960,000 | 3,375,600 | 4,050,000 |
| 西アゼルバイジャン州 | 国内観光客 | 278,649 | 291,763 | 283,546 | 317,342 | 353,369 |
| | 外国人 | 96,259 | 81,494 | 61,922 | 55,248 | 145,934 |
| | 合計 | 374,953 | 373,254 | 345,468 | 372,590 | 499,303 |
| アルダビール州 | 国内観光客 | NA | NA | 1,626,111 | 2,530,558 | 3,329,471 |
| | 外国人 | 400,000 | 500,000 | 550,000 | 650,000 | 776,000 |
| | 合計 | NA | NA | 2,176,111 | 3,180,558 | 4,105,471 |
| ザンジャン州 | 国内観光客 | 103,579 | 105,258 | 105,700 | 104,662 | 109,597 |
| | 外国人 | 2,599 | 4,588 | 11,779 | 10,234 | 5,472 |
| | 合計 | 106,178 | 109,846 | 117,479 | 114,896 | 115,069 |
| ガズヴィーン州 | 国内観光客 | NA | NA | NA | NA | NA |
| | 外国人 | 4,245 | 5,152 | 5,360 | 7,520 | 9,850 |
| | 合計 | 4,245 | 5,152 | 5,360 | 7,520 | 9,850 |
| コルデスターン州 | 国内観光客 | 212,969 | 160,188 | 157,480 | 161,998 | 178,477 |
| | 外国人 | 20,757 | 14,024 | 9,388 | 5,475 | 12,832 |
| | 合計 | 233,726 | 174,212 | 166,868 | 167,473 | 191,309 |

出典： ICHHTO 各州

一部のデータが欠けているが、共通した基準に基づいて算出しているため、表 4.1 の入込観光客データに比べれば格段に信頼性が高い。イラン北西部観光開発マスタープラン策定支援においては、ICHHTO 各州観光局の観光統計担当者と協力し、信頼性の高い需要分析と将来予測を支援することが期待される。

(3) 主な観光サイト、博物館等への入場者数

宿泊客情報と並んで信頼性の高い実数データとして、チケット数に基づく主な観光サイトおよび博物館等への入場者数がある。また、多くのサイトや博物館では、国内観光客と外国人のチケットを分けていることから、それぞれの人数を別に得ることも可能である。下表に、各州の主な観光サイト、博物館等への入場者数の推移を示す。

表 4.5 主な観光サイト、博物館等の入場者数

| 州と主なサイト | | PY1393 | PY1394 | PY1395 | PY1396 | PY1397 |
|------------|------------------------|---------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 東アゼルバイジャン州 | Saint Stephanos Church | NA | 160,093 | NA | NA | NA |
| | Azerbaijan Museum | 135,930 | 130,393 | NA | NA | 103,581 |
| | Constitution House | 84,408 | 60,178 | NA | NA | 86,575 |
| 西アゼルバイジャン州 | Takht-e Soleyman | 51,759 | 71,874 | 51,818 | 58,288 | 66,923 |
| | Qara Kilisa | 34,764 | 30,606 | 27,682 | 25,987 | 25,696 |
| | Anthropology Museum | 13,360 | 12,198 | 8,437 | 8,534 | 9,529 |
| アルダビール州 | Culture | NA | 5,156 | 615,451 | 920,678 | 1,104,533 |
| | Nature | NA | 12,214 | 1,162,802 | 3,020,360 | 3,434,754 |
| | Man-Made | NA | 8,341 | 534,236 | 1,962,299 | 2,909,636 |
| ザンジャーン州 | Soltanich Dome | 116,750 | 1114,184 | 133,511 | 104,702 | 124,452 |
| | Laundry Museum | 50,858 | 61,115 | 70,270 | 41,724 | 70,092 |
| | Salt men Museum | 63,745 | 74,530 | 53,897 | 41,665 | 41,015 |
| ガズヴィーン州 | Qazvin Bazar | NA | NA | 703,352 | 663,160 | 602,240 |
| | Alamut Castle | 115,330 | 110,540 | 124,320 | 159,212 | 176,500 |
| | Qajar Hammam | 86,898 | 57,084 | 64,549 | 118,308 | 121,399 |
| コルDESTAーン州 | Asef Vaziri Mansion | 83,752 | 85,596 | 70,634 | 89,420 | 98,362 |
| | Sanandaj Museum | 19,948 | 12,896 | 29,789 | 26,000 | 30,000 |
| | Khosro Abad Mansion | 7,500 | 46,889 | 38,731 | 25,000 | 27,500 |

註： 各州ともトップ3までとした。アルダビール州は、観光資源別の合計値。

出典： ICHHTO 各州

ICHHTO 州支局は、上表に挙げたサイト、博物館等以外にもデータを集めており、これらの主な観光サイト、博物館等の入場者数は、イラン北西部観光開発マスタープラン策定支援において有効なモニタリング指標となると考えられる。

5 観光産業

ICHHTO は、下表に示す 16 種類の観光産業に許認可を与える権限を有しており、モニタリングをとおして観光関連産業の運営を管理している。

表 5.1 ICHHTO 管理の観光産業

| | |
|----------------|--|
| ICHHTO 管理の観光産業 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ホテル 2. アパートメントホテル、巡礼宿 3. エコロッジ (ブームギャルディ) 4. レクリエーション施設 5. キャンプ場 6. 温泉施設 7. 自然公園施設 8. 海岸観光施設 (海水浴場) 9. 幹線道路沿いの旅行者向けレストラン 10. 幹線道路沿いのサービスエリア 11. 交通施設内レストラン (鉄道駅、空港等) 12. 国境地区の店舗 13. 伝統的レストラン 14. 人工的観光地 (遊園地、動物園、テーマパーク等) 15. ヘルスセンター 16. 旅行会社 (旅行会社、オペレーター等) |
|----------------|--|

出典： ICHHTO

また、観光ガイドについては、国家試験を実施し、ライセンスの発行をとおして管理している。

5.1 ホテルと宿泊業

調査時点 (2019 年 6 月) での対象各州における、グレード、カテゴリー別の宿泊業の分布を下表に示す。

表 5.2 対象各州の宿泊業の分布状況 (PY1398=2019 年)

| 州 | ホテル | | | | | | AH | Inn | Eco-Lodge |
|------------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----------|
| | 5 星 | 4 星 | 3 星 | 2 星 | 1 星 | 計 | | | |
| 東アゼルバイジャン州 | 5 | 4 | 6 | 10 | 6 | 31 | 26 | 72 | 15 |
| 西アゼルバイジャン州 | 1 | 4 | 5 | 15 | 14 | 39 | 3 | 52 | 16 |
| アルダビール州 | 0 | 3 | 8 | 12 | 9 | 32 | 86 | 100 | 6 |
| ザンジャン州 | 0 | 1 | 2 | 5 | 0 | 8 | 4 | 13 | 99 |
| ガズヴィーン州 | 0 | 1 | 3 | 6 | 3 | 13 | 2 | 18 | 7 |
| コルDESTAーン州 | 1 | 1 | 7 | 10 | 12 | 31 | 2 | 24 | 9 |

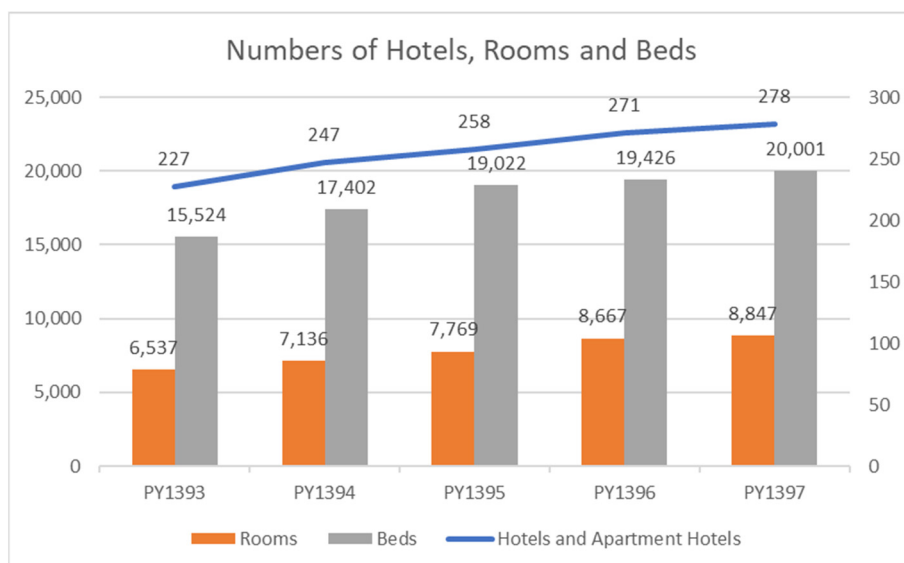
註： AH：アパートメントホテル、Inn：イン、Eco-lodge：エコロッジ (ブームギャルディ)

出典： ICHHTO 各州

表からは、テヘラン等の主要都市から遠距離の、東アゼルバイジャン州、西アゼルバイジャン州、アルダビール州、コルDESTAーン州には宿泊業が多く、テヘランからの交通の便が良く、中継地となり易いザンジャン州とガズヴィーン州には少ないことがわかる。また、温泉保養地であるアルダビール州には、一般のホテルよりも、家族旅行に便利なアパートメントホテルの方が 3 倍も多いことがわかる。

対象地域における過去 5 年間のホテル数 (アパートメントホテルを含む)、その部屋数、ベッド数の推移を下図に示す。

図 5.1 対象地域のホテル数、部屋数、ベッド数の推移



註： ホテルとアパートメントホテルの合計数で、インやエコロッジは含まない

出典： ICHHTO

図からは、ホテルとアパートメントホテルが増加傾向にあること、但し、最近、増加速度が緩くなっていることがわかる。また、客室数とベッド数に着目すると、1室あたりのベッド数が2.26床(PY1397)となっており、トリプルベッド以上の客室が少なくないことがわかる。

現在、ICHHTOは、低利の融資を受けられる銀行への保証等により、エコツーリズムや農村観光の振興を意図したエコロッジ(ブームギャルディ)の建設や運営を奨励している。エコロッジは、イランの伝統的な住居をモデルとしており、多くの場合、客室にベッドを置かず、昼は居室、夜はマットを敷いて寝室となる。エコロッジは、イラン人の家族連れやグループ旅行にとって、ホテルよりも親密なスタイルで過ごすことができると考えられている。

5.2 旅行代理店とツアーオペレーター

イランの旅行業法(Act for Monitoring and Registration and Activities of Travel Agencies)によると、旅行会社の業務ライセンスは、1)航空券発券業務、2)旅行代理店、3)巡礼手配の3種類があり、2番目の旅行代理店のみがICHHTOの管轄となっている。

調査時点(2019年6月)の対象各州における旅行代理店の分布を下表に示す。

表 5.3 対象各州の旅行代理店の分布状況(PY1398=2019年)

| 州 | 旅行代理店の数 | 代理店あたりの観光客数* |
|------------|---------|--------------|
| 東アゼルバイジャン州 | 255 | 15,882人 |
| 西アゼルバイジャン州 | 86 | 5,806人 |
| アルダビール州 | 51 | 80,499人 |
| ザンジャン州 | 57 | 2,019人 |
| ガズヴィーン州 | 42 | 235人 |
| コルデスターン州 | 48 | 3,986人 |

註： 代理店あたりの観光客数：PY1397の宿泊客数を旅行代理店数で除した数

出典： ICHHTO各州支所

各州での旅行代理店協会等へのヒアリングによると、対象州における旅行代理店の業務形態は、イラン人のアウトバウンドに加え、国内観光とインバウンドの場合はエスファハーン、テヘラン、シラーズ等の旅行会社からの発注を受けたツアーオペレーター業務が多いとのことである。勿論、インターネット等を介し、国内、海外から、直接、ツアー客を募っている会社もある。

5.3 レストラン

調査時点（2019年6月）の対象各州における観光レストランの分布を下表に示す。

表 5.4 対象各州の観光レストランの分布状況（PY1398=2019年）

| 州 | 観光レストラン数 | レストランあたりの観光客数* |
|--------------|----------|----------------|
| 東アゼルバイジャン州 | 413 | 9,806 人 |
| 西アゼルバイジャン州 | 40 | 12,483 人 |
| アルダビール州 | 30 | 136,849 人 |
| ザンジャーン州 | 80 | 1,438 人 |
| ガズヴィーン州 | 121 | 81 人 |
| コルDESTASTAN州 | 70 | 2,733 人 |

註： 観光レストランあたりの観光客数：PY1397の宿泊客数を観光レストラン数で除した数

出典： ICHHTO 各州支所

レストランあたりの観光客数には大きな差がある。ガズヴィーン州の場合、テヘランからの休憩地点となることから、幹線道路のレストランをはじめ、多くの観光客向けのレストランがあることが理由である。温泉保養地であるアルダビール州の場合は、アパートメントホテルでの自炊や、既存の市中のレストランの利用が多いことから、観光客向けのレストランが少ないと考えられる。

5.4 観光ガイド

ガイドのライセンスには、1) 国内観光ガイド、2) 国際観光ガイド、3) 専門ガイド、の3種類がある。専門ガイドに関しては、山岳ガイド、スキーガイド、エコツーリズム、ヘルスツーリズム、スポーツ、巡礼、などの特定分野における専門知識および外国語の能力が必要となる。

観光ガイド資格の取得条件は、イラン国籍であること、4年制大学卒、22歳以上であること等が求められ、規定の講義を受講した後、筆記試験、外国語の面接（国際観光ガイド）、専門分野の面接（専門ガイドの場合）、総合試験を受験する。講義には、歴史、地理、建築、文化遺産、文化、観光産業、民俗学、自然地理等が含まれる。総合試験は、ICHHTOによって年に2回行われる。

現在、一旦、ガイド資格を取得すると無期限で有効であるが、ガイドの質の向上等を意図し、ICHHTOはライセンスの定期更新制度の導入を検討している。

調査時点（2019年6月）の対象各州における観光ガイドの人数分布を下表に示す。

表 5.5 対象各州の有資格観光ガイドの分布状況（PY1398=2019年）

| 州 | 有資格観光ガイドの人数 | 観光ガイドあたりの観光客数* |
|------------|-------------|----------------|
| 東アゼルバイジャン州 | 488人 | 8,299人 |
| 西アゼルバイジャン州 | 63人 | 7,925人 |
| アルダビール州 | 185人 | 22,192人 |
| ザンジャーン州 | 165人 | 697人 |
| ガズヴィーン州 | 65人 | 152人 |
| コルDESTAーン州 | 100人 | 1,913人 |

註： 観光ガイドあたりの観光客数：PY1397の宿泊客数を観光ガイド人数で除した数

出典： ICHHTO各州支所

各州での観光ガイド協会へのヒアリングによると、ほぼ全員の観光ガイドがガイド専業ではなく、どちらが主でどちらが副かは別として、ツアーオペレーターやエコロッジ経営等、他の仕事と兼業しているとのことである。また、ICHHTO州支所によると、ノウルーズ時期等のハイシーズンに、観光案内所の臨時職員として有資格観光ガイドを雇うこともある。

5.5 人材開発

対象地域の各州では、ICHHTO 州支所に教育担当者を配置していると共に、各州の高等教育機関、職業訓練校と協力し、観光人材の開発と育成にあたっている。インサーブスを対象とした研修では、ホテル協会、観光ガイド協会等の同業者組合からも協力を得ている。

各州にある観光教育を行っている高等教育機関と職業訓練校は下表のとおりである。

表 5.6 観光教育を行っている高等教育機関、職業訓練校

| 州 | 観光教育を行っている高等教育機関、職業訓練校 |
|------------|---|
| 東アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> • タブリーズ大学（学部と大学院、40 人／年） • パヤム・ヌール大学（学部、50 人／年） • 州職業訓練校短期観光コース（50 人／年） |
| 西アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> • 応用科学大学 • パヤム・ヌール大学（60 人／年） |
| アルダビール州 | <ul style="list-style-type: none"> • パヤム・ヌール大学 • アザド大学 • モハゲグ大学 • アルダビール職業訓練センター |
| ザンジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> • パヤム・ヌール大学 • ザンジャン大学 • 職業訓練センター |
| ガズヴィーン州 | <ul style="list-style-type: none"> • パヤム・ヌール大学 • アラメ・ガズヴィーン大学 |
| コルDESTAAN州 | <ul style="list-style-type: none"> • コルDESTAAN大学 • パヤム・ヌール大学 • サナダージ職業訓練センター（20 人／年） |

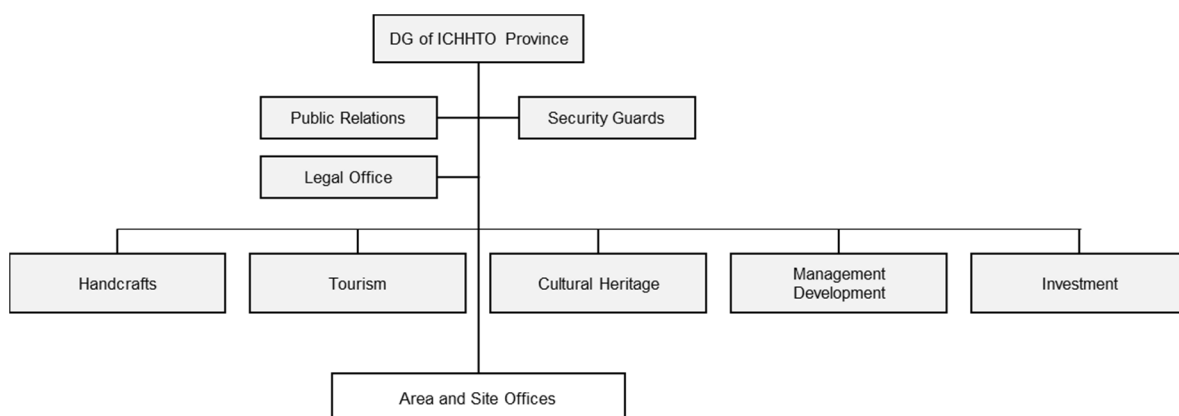
出典： ICHHTO 各州支所

6 観光行政と観光管理

6.1 ICHHTO 州支所の組織体制

ICHHTO は、全国 31 州に支所を配置しており、対象の 6 州にも各々支所が設置されている。ICHHTO の州支所は、下図に示すように、本部を簡略化した組織体制となっており、支所長の下、遺跡局、手工芸局、観光局に加え、管理・開発局、投資局から構成されている。また、州内の各市町と主な観光サイトに出張所が置かれている。

図 6.1 ICHHTO 州支所の組織体制



出典： ICHHTO 本部

表 6.1 対象各州の ICHHTO 州支所の人員体制 (2019 年 6 月)

| ICHHTO 州支所 | 州支所の人数 | 観光局の人数 |
|------------|--------|--------|
| 東アゼルバイジャン州 | 239 人 | 8 人 |
| 西アゼルバイジャン州 | 168 人 | 8 人 |
| アルダビール州 | 139 人 | 10 人 |
| ザンジャー州 | 230 人 | 13 人 |
| ガズヴィーン州 | 210 人 | 6 人 |
| コルデスタン州 | 124 人 | 9 人 |

注： 東アゼルバイジャン州観光局の公式人数は 11 人だが欠員 3 人で 8 人となっている

出典： ICHHTO 各州支所

各州の ICHHTO 支所の総人員は充実しているように見えるが、これらの人数には、博物館の学芸員や守衛、観光サイトのマネージャーや維持管理要員も含まれており、州支所で観光行政と管理に従事する要員は限られているのが実情である。

ICHHTO 本部によって任命された各州 ICHHTO のフォーカルポイント (FP) は、エコツーリズム等の JICA 研修参加者も含まれ、経験豊富で責任感も強い。各州 ICHHTO との協議では、観光統計、観光ビジネス、観光教育等の担当者も各分野の業務に精通していることがわかった。一方で、明確な分掌に加え、閉鎖的なオフィス環境も影響し、連携や協力が必要な作業は苦手と思われる。州によっては、オフィスが分散しているところもある。ICHHTO 本部を介して依頼した質問票に空欄や誤解が散見されたのは、このような組織体制の特徴が背景にあると推測される。

イラン北西部観光開発マスタープランの策定においては、このような各州 ICHHTO 観光局の人的な制約を考慮に入れて進める必要がある。

6.2 ICHHTO 州支所の予算

ICHHTO 州支所は、ICHHTO 本部と各州政府の両方からの予算配分により運営されている。職員の人件費は全額、州政府の予算から配分されているが、その他の費目は、ICHHTO 本部と州政府の両者で分担されている。

表 6.2 対象各州の ICHHTO 州支所の予算

| ICHHTO 州支所 | | PY1393 | PY1394 | PY1395 | PY1396 | PY1397 |
|------------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 東アゼルバイジャン州 | 承認額 | NA | NA | NA | NA | NA |
| | 配分額 | NA | NA | NA | NA | NA |
| 西アゼルバイジャン州 | 承認額 | 59,527 | 120,350 | 254,897 | 502,795 | 407,735 |
| | 配分額 | 55,752 | 42,066 | 80,795 | 198,235 | 101,105 |
| アルダビール州 | 承認額 | 127,267 | 110,785 | 173,081 | 187,789 | 192,550 |
| | 配分額 | 111,898 | 74,785 | 109,288 | 86,130 | 120,739 |
| ザンジャン州 | 承認額 | NA | NA | NA | NA | NA |
| | 配分額 | 38,749 | 96,240 | 95,493 | 159,294 | 192,029 |
| ガズヴィーン州 | 承認額 | 35,266 | 10,530 | 56,235 | 51,561 | 75,654 |
| | 配分額 | 35,266 | 10,530 | 56,235 | 51,561 | 75,654 |
| コルDESTAーン州 | 承認額 | NA | NA | NA | NA | NA |
| | 配分額 | 47,206 | 14,373 | 51,595 | 69,410 | 53,645 |

単位： IRR 百万

出典： ICHHTO 各州支所

上表のとおり、年によって予算の変動が大きいですが、人件費や経常費から成る管理予算は一定額が必要となるのに対し、遺跡の修復や観光開発に使われる開発予算は、州政府や ICHHTO 本部による予算措置がされるかどうかによって大きく変動する。

また、承認された予算と実際の配分額の間には、小さくない差がある。予算が承認されても実施が保証されたわけではないことは、持続的な観光行政を難しくしている。

6.3 観光マーケティング

各々の州の観光マーケティングとプロモーションは、ICHHTO 州支部の役割の一つで、観光関連の民間セクター、州政府や市役所、テレビ等のメディアと協力して実践している。

各州の観光マーケティングの実践状況を下表に示す。

表 6.3 対象各州の観光マーケティングの実践状況

| ICHHTO 州支所 | 過去 5 年の主な観光マーケティング活動 |
|------------|--|
| 東アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> 観光データベースの作成 観光ウェブサイトの作成と情報発信 国内と国外のターゲット市場の特定 国内と国外の観光博への参加 FAM トリップの実施 州内で観光・手工芸展示会の開催 外国語で対応できるスタッフを配置した観光案内所の開設 プロモーション用の映像素材制作と国内、海外での放映 |
| 西アゼルバイジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> ペルシア語、英語、トルコ語による観光サイト紹介素材の制作 州の観光を紹介する CD の制作 様々な観光イベントを紹介する素材の制作 絵葉書の制作 パンフレットとツーリストマップの制作 ペルシア語と英語による州の観光ガイドブックの制作 テーマ別の観光パンフレットの制作 観光イベントとフェスティバルの開催支援 |
| アルダビール州 | <ul style="list-style-type: none"> 観光イベント、フェスティバルの開催 (年間 22 のイベント、フェスティバル) <ul style="list-style-type: none"> 州内各地でのイベント、フェスティバル (14 回) テヘラン、アゼルバイジャン共和国等の州外での旅行博 (8 回) 観光プロモーション素材の作成 (20 品目の素材の制作) <ul style="list-style-type: none"> ペルシア語、英語によるガイドブック ツーリストマップ ノウルーズ用のガイドブック トルコ語による観光パンフレット |
| ザンジャン州 | <ul style="list-style-type: none"> ペルシア語と英語による州の観光ガイドブックの制作 ザンジャン市内の観光アプリの制作支援 |
| ガズヴィーン州 | <ul style="list-style-type: none"> 幹線道路沿いに州の観光紹介看板の設置 (10 ヶ所) SNS 等による観光プロモーションツールの開発 ペルシア語と英語による観光プロモーション素材の制作・印刷 観光ウェブサイトの更新 |
| コルデスタン州 | <ul style="list-style-type: none"> エコツーリズム振興を目的とした FAM トリップの開催 (5 回) バードウォッチングサイトの整備と宣伝 観光ウェブサイトの制作と e マーケティングの開始 観光イベント、フェスティバルの開催と定例化の促進 |

出典： ICHHTO 各州支所

各州とも基本的な観光マーケティング活動を実践しているが、収集した観光マーケティング素材の大半は制作時期が記載されておらず、定期的な更新ができていない可能性がうかがわれる。また、テヘランにある旅行代理店の多くは、これらの観光マーケティング素材の存在を知らされておらず、情報が潜在的な観光客まで届いていない可能性が大きい。対象マーケットの特定で止まらず、伝達するチャンネルの特定まで行う必要がある。

一方、ICHHTO 州支所の観光マーケティング関連予算は、必ずしも十分に確保されている訳ではない。対象各州の ICHHTO 州支所のマーケティング予算を下表に示す。

表 6.4 対象各州の観光マーケティング予算

| ICHHTO 州支所 | | PY1393 | PY1394 | PY1395 | PY1396 | PY1397 |
|------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 東アゼルバイジャン州 | 配分額 | NA | NA | NA | NA | NA |
| | 全体予算比 | NA | NA | NA | NA | NA |
| 西アゼルバイジャン州 | 配分額 | 1,500 | 2,000 | 2,500 | 3,000 | 2,859 |
| | 全体予算比 | 2.7% | 4.8% | 3.1% | 1.5% | 2.8% |
| アルダビール州 | 配分額 | NA | NA | NA | NA | NA |
| | 全体予算比 | NA | NA | NA | NA | NA |
| ザンジャン州 | 配分額 | NA | NA | NA | NA | NA |
| | 全体予算比 | NA | NA | NA | NA | NA |
| ガズヴィーン州 | 配分額 | 4,486 | 900 | 4,200 | 8,102 | 11,387 |
| | 全体予算比 | 12.7% | 8.5% | 7.5% | 15.7% | 15.1% |
| コルDESTAーン州 | 配分額 | 900 | 1,100 | 1,350 | 1,550 | 2,200 |
| | 全体予算比 | 1.9% | 7.7% | 2.6% | 2.2% | 4.1% |

単位： IRR 百万

註： 「全体予算比」は ICHHTO 州支所予算全体に占める割合

出典： ICHHTO 各州支所

ガズヴィーン州では ICHHTO 州支所の全体予算の 10%以上が配分された年もあるが、西アゼルバイジャン州、コルDESTAーン州では 5%に満たない状況にある。

制作費用がかさみ、在庫管理が難しい印刷物は必要最小限に留め、ICT を活用し、ウェブベースや SNS による e マーケティングへシフトすることが望ましい。

7 観光開発の現状

7.1 観光開発計画の状況

各州の観光開発計画の策定と実施についての状況を下表に示す。

表 7.1 各州の観光開発計画の状況

| 州 | 観光開発計画の策定と実施の状況 |
|------------|---|
| 対象州に共通 | UNWTO 支援により 2001 年に策定された 2015 年目標の全国観光マスタープランでは、全国を 7 つの地域に分け、本調査の対象地域は、東アゼルバイジャン州、アルダビール州、ザンジャン州が 2 番目の「サバラン地域」に含まれ、ガズヴィーン州は 1 番目の「アルボルズ地域」、西アゼルバイジャン州とクルデスタン州は 3 番目の「ザグロス地域」に含まれていた。 本対象地域と最も重なるサバラン地域の観光開発戦略としては、高原リゾート、温泉・スパ、都市コンベンション等の既存の観光施設を拡充させることに加え、日帰り、1 泊、2 泊、3 泊等の滞在期間に応じた新しい観光プロダクトやルートを開発すること、山岳トレッキングルートの開発等により観光プロダクトの多様化を図ることが掲げられていた。 また、タブリーズの空港、道路、鉄道による国際観光ゲートウェイ機能の確立、アゼルバイジャン共和国から陸路によるゲートウェイ機能の強化、アルダビールとザンジャン空港の国内観光ゲートウェイ機能の強化も掲げられていた。 |
| 東アゼルバイジャン州 | 2014 年にタブリーズ大学の支援を受け、2014-2018 年と 2018-2021 年の 2 段階の目標年を対象とした州観光開発計画を策定し、内閣の承認も得た。州を、北部、中央部、南部の 3 ゾーンに分け、ポテンシャルのある 48 地区を特定し、52 の村を計画に含めた。2018 年に、国内 450 万人、外国人 50 万人、2021 年には、国内 600 万人、外国人 200 万人の観光客を目標とした。2021 年のベッド数は 14,000 床を目標とした。 21 のメガプロジェクトの下、人材育成、マーケティング、プロモーション、ジオパーク、エコツーリズム等を含む。21 のメガプロジェクトには 655 のタスクも特定した。現在 2 つある世界遺産を 4 ヶ所に増やす計画を盛り込んだ。 但し、実施状況については、明快な回答は得られていない。 |
| 西アゼルバイジャン州 | 観光が社会や環境に問題を生じさせず、かつ効率的に経済効果をもたらすため、観光開発計画の策定が必要だと認識しているが、未だ策定に至っていない。 |
| アルダビール州 | 1999 年に最初の総合的観光開発計画が策定された。州のもつ観光資源を考慮し、国内観光を中心的な市場とした。インバウンド観光客は、国境を接するアゼルバイジャン共和国からの陸路での入国者を想定した。また、アルダビールにあるサファヴィー朝始祖の Sheikh Safi ad Din 廟を参るトルコやヨーロッパからの訪問者も考慮に入れた。 観光開発は、州内に 110 以上の温泉と鉱泉を活用したヘルスツーリズム、ウィンタースポーツ、4,800 m 級のサバラン山を生かした高原リゾート地とすることを目指している。 |
| ザンジャン州 | ザンジャン州では、州の観光ロゴを作り、ブランディングの検討を開始しているが、州の総合的な観光開発計画は策定していない。 ザンジャン市では、北側の高台に位置するガバザンク地区の開発を進めており、14 あるブロックの土地利用計画も策定済である。ホテル地区や展示場も含まれている。計画に沿って投資家を募っているところである。 |
| ガズヴィーン州 | コンサルタントを雇い、2012-2016 年を対象とした州としての観光開発計画を策定する予定があったが実現されていない。 一方、ガズヴィーン市は、サファヴィー朝宮殿地区と修復されたキャラバンサライから成る観光地区について、回遊性のある遊歩道を中心とした整備計画を策定し、順次実施している。 |
| クルデスタン州 | コンサルタント会社により、2008 年に州の総合的な観光開発計画が策定された。しかし、州の開発計画の範疇で部分的に実施されたものの、当初の意図どおりの成果には至っていない。 |

出典： 各州からの質問票への回答

対象地域各州の観光開発計画の策定状況は様々であるが、概して実施状況は順調とは言えない。むしろ、州都の整備計画等の限られたエリアの具体的なプロジェクトや、民間投資によるリゾート開発等の方が実施されている。

計画策定の必要性は理解されていると思われるため、大きな投資が必要となるメガプロジェクト、実現性が不透明なプロジェクトを羅列するのではなく、フィージビリティの高いアクションプランが求められるものとする。

UNWTOの支援により、2001年に策定された目標年次2015年の全国観光開発マスタープランは、全国と、全国を7つに分けた地域ごとに包括的な観光開発戦略を提案しているものの、地域ごとの戦略は部分的に実施されたのみである。各州の開発計画にリンクし、実効性あるアクションプランとして盛り込まれていないことが要因のひとつと考えられる。

7.2 他ドナー等による観光セクター支援

質問票と現地調査をとおして把握された他ドナー等による観光セクター支援を下表に示す。

表 7.2 他ドナー等による観光セクター支援

| 州 | 他ドナー等による観光セクター支援 |
|------------|---|
| 対象州に共通 | UNWTO は、2001 年に策定した目標年次 2015 年の全国観光開発マスタープランの改定を支援する予定。ICHHTO 側は、大学の学識経験者等を交えて準備を始めているものの、コンサルタント選定を含めて、まだ着手されていない。 また UNWTO は、研修機会の提供により、ICHHTO、SCI、中央銀行の三者協力による観光サテライト勘定 (TSA) の確立を支援している。 |
| 東アゼルバイジャン州 | 2015 年末の第 9 回イスラム協力機構 (OIC) 観光大臣会合により、タブリーズが 2018 年イスラム観光都市に選定され、官民が連携した観光プロモーション「Tabriz 2018」が実施された。2016 年には世界工芸協議会 (WCC) により、世界クラフト都市に登録された。2018 年 4 月のオープニングには UNESCO テヘラン事務所も参加した。 |
| 西アゼルバイジャン州 | ドイツのドレスデン工科大学により、タフテ・ソレイマーンの発掘・修復プロジェクトが実施されている。発掘に伴う遺物の研究施設、ラボも整備された。 |
| アルダビール州 | 世界自然保護基金 (WWF) のイニシアティブにより、コーカサス地方エコシステムの定期的ワーキンググループをジョージアで開催している。イランからはアルダビール州、東アゼルバイジャン州、西アゼルバイジャン州、ギーラーン州の 4 州が参加している。 |
| ザンジャン州 | 経済協力機構 (ECO) が郷土料理をとおしたシルクロード観光振興を支援しており、2018 年 5 月にはザンジャンで第 5 回のイベントを開催し、ECO 加盟国に加え、中国、レバノン等からも参加者があった。 また、ザンジャン市は、ECO の支援も受け、UN-Habitat の Sustainable City への登録申請を提出し、ジュネーブでプレゼンテーションを行う。 |
| ガズヴィーン州 | 特に情報はない。 |
| コルデスタン州 | ICHHTO と UNWTO の協力で準備中の西部イランを対象としたエコツーリズム・農村ツーリズムプロジェクトの対象となっている。但し、まだ UNWTO の協力は開始されていない。 |

出典： 各州からの質問票への回答、調査団による現地踏査

上表からわかるように、イラン北西部の対象地域における他ドナー等による観光セクター支援は活発ではない。特に、二国間の政府援助 (ODA) は見られず、経済協力機構 (ECO) のような地域間の協力機関や国際機関によるイベント的な支援や、遺跡の発掘・修復に伴う学術的な協力が見られるのみである。

イラン北西部観光開発マスタープラン策定支援においては、これらの限られた他ドナー等による活動を積極的に取り込み、継続的な地域間協力や多国間協力を担保しておくことが有効である。

7.3 観光分野への投資

各州との協議、質問票への回答によると、東アゼルバイジャン州のタブリーズにおけるトルコ系の 5 星ホテル (カヤ・ラーレ・パーク) が開業している他には、観光分野への海外投資はほとんどない。

一方で、国内投資は盛んで、アルダビール州では民間投資による温泉リゾートや吊り橋やジップラインを備えた遊園地が建設されている。多くの州では投資パッケージを用意しているが (収集資料を参照のこと)、フィージビリティが不透明なことから、アルダビール州ほどは進展していない。

7.4 SDGs への貢献

ICHHTO 本部、DOE 等のテヘランの関係機関、各州との協議によると、持続可能な開発目標 (SDGs) とその 17 の目標は周知されているが、観光開発政策や戦略の中で明確な位置づけはされていない。

図 7.1 持続可能な開発目標 (SDGs)



出典： 国連持続可能な開発目標ウェブサイト (<https://sustainabledevelopment.un.org>)

適切な観光開発と観光管理は、貧困削減 (目標 1)、健康と福祉の推進 (目標 3)、ジェンダー間の平等 (目標 5)、安全な水とトイレ (目標 6)、クリーンなエネルギー (目標 7)、働きがいと経済成長 (目標 8)、産業と技術革新 (目標 9)、国内の不平等の是正 (目標 10)、住み続けられるまちづくり (目標 11)、気候変動への具体策 (目標 13)、海洋資源の保全 (目標 14)、生態系の保護・回復 (目標 15)、平和と公正を全ての人に (目標 16)、パートナーシップによる目標の達成 (目標 17) 等のほとんどの目標に貢献すると考えられる。

策定されるマスタープランでは、アクションプランを含め、貢献する SDGs の目標を明確にし、貢献度を測定できる具体的な指標を設定することが重要である。

8 提言

8.1 イラン北西部観光開発マスタープランの策定支援

本調査の結果に基づき、イラン北西部6州を対象とした観光開発戦略を含むマスタープラン策定支援の詳細を日本側とイラン側で具体化していくことになるが、以下に述べるコンセプト、目的、内容、作業フロー、実施体制が協議のための試案、或いはその一例として考えられる。

(1) コンセプト

対象地域であるイラン北西部は、アゼルバイジャン、アルメニア、トルコ、イラクと国境を接し、先史より、ヨーロッパとアジアを結ぶ交易路として重要な役割を果たしてきた。13世紀に成立したイル・ハーン朝、16世紀に興ったサファヴィー朝もこの地域を拠点とした。

現在の国境線を越え、東西交流の証である多様な民族が残してきた文化遺産が散在していることに加え、標高4,811mのサバラン山、イラン最大の湖であるオルミエ湖をはじめとする豊かな自然資源を有している。火山であるサバラン山の麓には、豊富な湧水量の温泉が点在する。

このようなイラン北西部の観光資源を保全に配慮し持続的に活用しながら、観光開発のポテンシャルを十分に生かし、第6次5ヵ年計画（2016～2021年）に沿い、雇用創出、所得の向上といった地域経済効果と、国内観光市場、近隣諸国や世界の観光市場からの誘客により多様な歴史と民族の文化交流をとおして平和構築への貢献を図る。

表 8.1 イラン北西部の観光開発テーマ（例）

| 対象市場 | 主な観光のタイプ | 期待される社会経済効果 |
|--|--|--|
| 主として陸路による 近隣諸国 | <ul style="list-style-type: none"> 巡礼（シャイフ・サフィーアッディーン廟、アルメニア教会等） 保養、リラクゼーション ヘルスツーリズム ショッピング | <ul style="list-style-type: none"> 外貨獲得 雇用の創出、収入の向上 近隣諸国との関係安定化 |
| 国内観光 | <ul style="list-style-type: none"> 自然、エコツーリズム 歴史文化 保養、リラクゼーション レクリエーション | <ul style="list-style-type: none"> 国内経済の活性化 雇用の創出、収入の向上 地域格差の解消 |
| ロングホール （ゴールデンルート は訪れたリピーター が中心） | <ul style="list-style-type: none"> 歴史文化 自然、エコツーリズム | <ul style="list-style-type: none"> 外貨獲得 雇用の創出、収入の向上 対外的イメージの改善 |

出典： JICA 調査団

(2) 対象地域と目標年次

北西部観光開発マスタープランの対象地域と目標年次として以下が一例として考えられる。

表 8.2 北西部観光開発マスタープランの対象地域と目標年次（例）

| | |
|------|--|
| 対象地域 | 観光開発マスタープランは、東アゼルバイジャン州、西アゼルバイジャン州、アルダビール州、ザンジャン州、ガズヴィーン州、コルデスターン州の6州を対象地域とする。 |
| 目標年次 | PY1400（2021年）までにドラフト版マスタープランが策定され、10年後のPY1410（2031年）をマスタープランの目標年次とする。 |

出典： JICA 調査団

(3) マスタープランのスコープ

北西部観光開発マスタープランは、主に、以下の内容を含むことが一例として考えられる。

表 8.3 北西部観光開発マスタープランのスコープ（例）

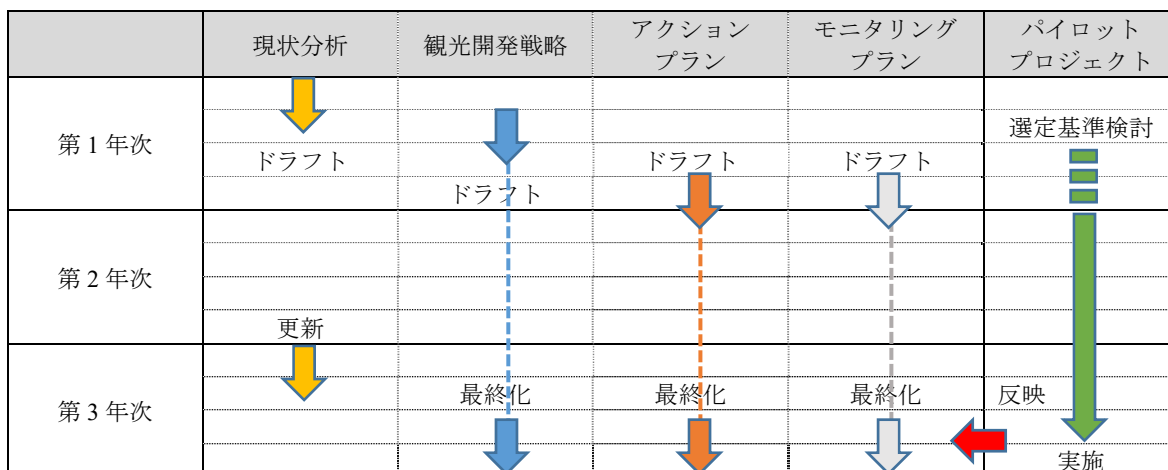
| | |
|--------------|---|
| A. 現状分析 | 1. 観光需要（過去のトレンド、観光市場の特徴と典型的ツアーパターン） 2. 観光の供給サイド（観光資源とプロダクト、観光施設と観光産業、支援インフラ） 3. マーケティング・プロモーション 4. 人材開発 5. 環境配慮 6. 観光行政（資源管理、観光ビジネス管理等） 7. SWOT 分析 |
| B. 観光開発戦略 | 1. 序（対象地域と目標年次） 2. 観光開発の原則（地域経済における観光の役割、地域観光開発戦略とブランディング、対象とする開発テーマ、SDGs への貢献） 3. 需要予測（観光客、ホテル客室・ベッド数、観光人材） 4. コンポーネントプラン（観光マーケティング、観光行政、観光産業育成、人材育成、観光施設・支援インフラ開発、観光投資等） |
| C. アクションプラン | 1. 観光マーケティング 2. 観光行政 3. 観光産業育成 4. 人材開発 5. 観光施設・支援インフラ開発 6. 観光投資 7. 費用積算と財務評価 |
| D. モニタリングプラン | 1. マスタープランの実施メカニズム 2. マスタープランのモニタリング体制 |

出典： JICA 調査団

(4) マスタープランの策定フロー

上述のマスタープランの内容と構成を前提として、以下の策定プロセスが一例として考えられる。

図 8.1 北西部観光開発マスタープランの策定プロセス（例）



出典： JICA 調査団

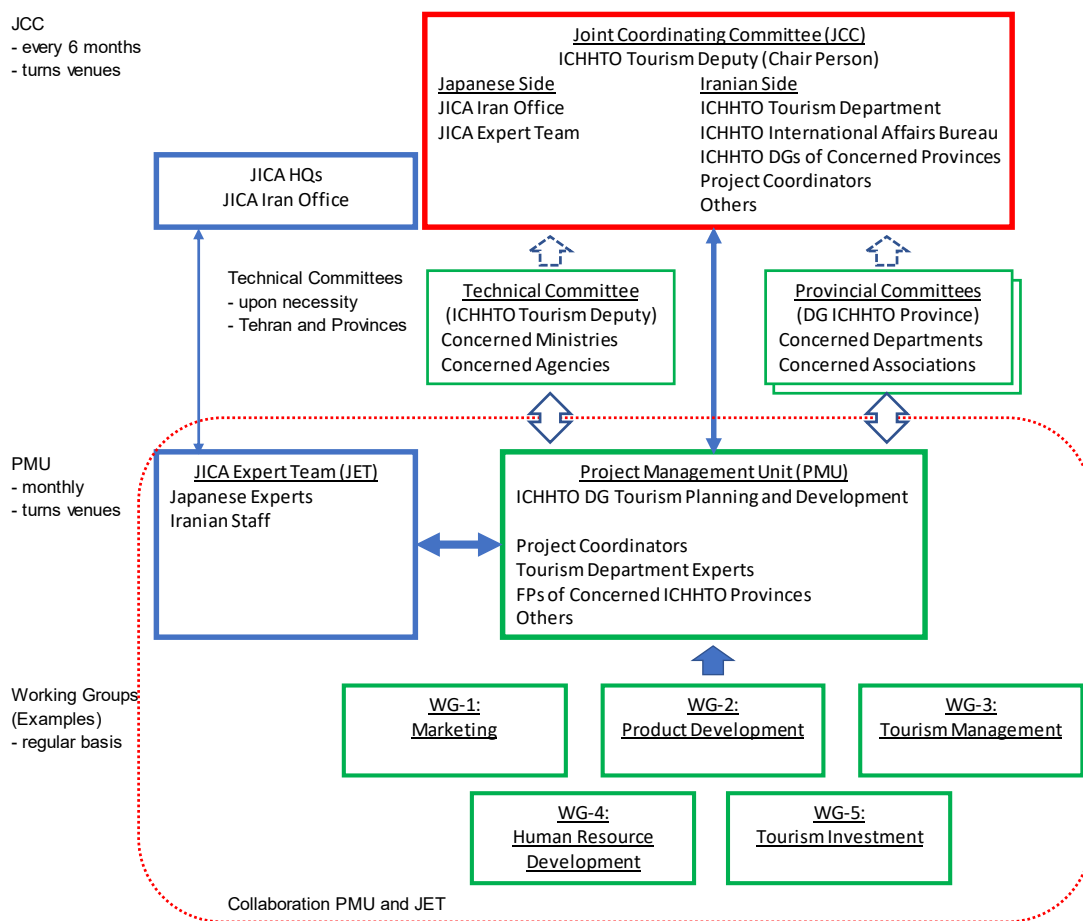
(5) マスタープランの策定と実施体制

マスタープランは、北西部6州共通のブランディング戦略に基づく観光マーケティングや、共通課題への対処が盛り込まれることになる。それぞれの州の課題を吸い上げる機能、優先的共通課題を抽出し選定する機能に加え、アクションプランが各州の実施計画に盛り込まれて実施が担保されることが重要である。

下図に示すような、ICHHTO 本部と対象州の協力による意思決定会議と、マスタープラン策定の運営チーム (PMU およびワーキンググループ) から成る実施体制が一例として考えられる。

なお、JICA による技術協力案件では、最上位に日本側とイラン側のプロジェクトに関する意思決定機関として合同調整委員会 (JCC) を設けることが定例となっている。

図 8.2 北西部観光開発マスタープラン策定の実施体制 (例)



出典： JICA 調査団

8.2 日本側の投入

上述のイラン北西部観光開発マスタープランの策定に対する支援内容、フロー、実施体制を前提とすると、日本側からは以下の投入が一例として考えられる。

表 8.4 日本側の投入（例）

| 技術協力の業務区分 | 開発計画調査型技術協力 |
|-----------|---|
| 日本側の投入 | <ol style="list-style-type: none">1. 日本人専門家チームの派遣2. 現地コンサルタント等による再委託調査（市場調査、観光客調査、社会環境調査等）3. カウンターパート研修（10名×3回）4. 課題別研修への参加（観光マーケティング、エコツーリズム等）5. 第三国研修への参加（マレーシア、タイでのエコツーリズム、農村ツーリズム等）6. パイロットプロジェクト（5～6分野程度） |

出典： JICA 調査団

9 付録

付録1：現地調査日程（実績）

付録2：主要面談者リスト

付録3：関連機関との面談録

付録4：現地踏査視察メモ

付録5：収集資料リスト

Survey Schedule (Final)

| Date | Stay | Mr. Tetsuo Isono | Ms. Ryoko Tanoue |
|--------|------|--|------------------------------|
| May 07 | Tue | | IST-NRT (TK052) 01:40-19:10 |
| May 08 | Wed | NRT-DOH- (QR807) 22:20-05:00 | ditto |
| May 09 | Thu | Tehran DOH-IKA (QR482) 08:00-10:40 | ditto |
| May 10 | Fri | Tehran Day off (National Museum, etc.) | ditto |
| May 11 | Sat | Tehran AM: JICA Iran Office PM: ICHHTO HQ (Deputy of Tourism) | ditto |
| May 12 | Sun | Tehran AM: JICA Iran Office PM: ICHHTO HQ (Tourism Deputy, Int'l Affairs Bureau, Provinces) | ditto |
| May 13 | Mon | Tehran ICHHTO HQ (Questionnaire) | ditto |
| May 14 | Tue | Tabriz Move to E. Azerbaijan by air, Visit tourist sites | ditto |
| May 15 | Wed | Tabriz AM: ICHHTO E. Azerbaijan PM: ICHHTO E. Azerbaijan (Planning & Investment) | ditto |
| May 16 | Thu | Tabriz Visit tourist sites (Aras Free Trade Zone) | ditto |
| May 17 | Fri | Tabriz Day off | ditto |
| May 18 | Sat | Urmieh AM: ICHHTO W. Azerbaijan PM: Visit Urmieh Museum, Hasanlu, etc. | ditto |
| May 19 | Sun | Ardabil Visit tourist sites (Qara Kilisa, Maku Free Zone, etc.) | ditto |
| May 20 | Mon | Serein AM: ICHHTO Ardabil PM: Visit tourist sites in Ardabil | ditto |
| May 21 | Tue | Zanjan AM: Visit tourist sites in Ardabil, PM: Move to Zanjan | ditto |
| May 22 | Wed | Zanjan AM: ICHHTO Zanjan PM: Visit tourist sites in Zanjan City | ditto |
| May 23 | Thu | Zanjan Visit tourist sites in Zanjan | ditto |
| May 24 | Fri | Sanandaj Move to Kurdistan (Visit Takht-e Soleyman, Karaftou Cave) | ditto |
| May 25 | Sat | Sanandaj AM: ICHHTO Kurdistan PM: Visit tourist sites | ditto |
| May 26 | Sun | Sanandaj Visit tourist sites in Kurdistan | ditto |
| May 27 | Mon | Qazvin AM: Move to Qazvin PM: Visit tourist sites in Qazvin | ditto |
| May 28 | Tue | Qazvin AM: Visit tourist sites PM: ICHHTO Qazvin | ditto |
| May 29 | Wed | Qazvin Visit tourist sites in Qazvin | ditto |
| May 30 | Thu | Tehran Move to Tehran | ditto |
| May 31 | Fri | Tehran Day off | ditto |
| Jun 01 | Sat | Tehran ICHHTO HQ (DEO, SCI, ITOA, etc.) | ditto |
| Jun 02 | Sun | Tehran ICHHTO HQ (Tourism Deputy, Int'l Affairs Bureau) | ditto |
| Jun 03 | Mon | AM: JICA Iran Office, TV Meeting PM: IKA-DOH- (QR499) 22:50-00:30 | ditto |
| Jun 04 | Tue | DOH-NRT (QR806) 01:55-17:55 | ditto |
| Jun 05 | | | |
| Jun 06 | | Eid Al Fitr (Jun 5-6) | |
| Jun 07 | | | |
| Jun 08 | Sat | NRT-DOH- (QR807) 22:20-05:00 | ditto |
| Jun 09 | Sun | Tehran DOH-IKA (QR482) 08:00-10:40 PM: JICA Iran Office | ditto |
| Jun 10 | Mon | Tehran Internal Meeting | ditto |
| Jun 11 | Tue | Tehran AM: ICHHTO (TACI, Central Bank, Marketing Dep.) PM: ICHHTO HQ (Tourism Deputy, Int'l Affairs Bureau) | ditto |
| Jun 12 | Wed | Tehran ICHHTO HQ (Tourism Deputy, Int'l Affairs Bureau) | ditto |
| Jun 13 | Thu | Tehran Preparation for the 2nd visit to Provinces | ditto |
| Jun 14 | Fri | Zanjan Move to Zanjan | ditto |
| Jun 15 | Sat | Sanandaj AM: ICHHTO Zanjan PM: Move to Kurdistan | ditto |
| Jun 16 | Sun | Urmieh AM: ICHHTO Kurdistan PM: Move to W. Azerbaijan | ditto |
| Jun 17 | Mon | Tabriz AM: ICHHTO W. Azerbaijan PM: Move to E. Azerbaijan | ditto |
| Jun 18 | Tue | Ardabil AM: ICHHTO E. Azerbaijan PM: Move to Ardabil | ditto |
| Jun 19 | Wed | Qazvin AM: ICHHTO Ardabil PM: Move to Qazvin | ditto |
| Jun 20 | Thu | Tehran AM: ICHHTO Qazvin PM: Move to Tehran | ditto |
| Jun 21 | Fri | Tehran Day off | ditto |
| Jun 22 | Sat | Tehran ICHHTO | ditto |
| Jun 23 | Sun | Tehran Documentation and internal meeting | IKA-DOH- (QR499) 22:50-00:30 |
| Jun 24 | Mon | Tehran Documentation and internal meeting | DOH-NRT (QR806) 01:55-17:55 |
| Jun 25 | Tue | Tehran Documentation and internal meeting | NRT-IST (TK053) 21:25-03:35+ |
| Jun 26 | Wed | Tehran ICHHTO, PM: JICA Iran office | -IST |
| Jun 27 | Thu | IKA-DOH- (QR499) 22:50-00:30 | |
| Jun 28 | Fri | DOH-NRT (QR806) 01:55-17:55 | |

Survey Schedule (Final)

List of Interviewees

ICHHTO

| | | |
|-------------------------|--|---|
| HQ Tourism | Mr. Wali Teymouri Mr. Ali Reza Rahimi Mr. Seyed Mahdi Yasini Mr. Iraj Ghahremony Mr. Romina Hadipoor Mr. Ahmet Sheikhi Mr. Reza Kiafar Ms. Faranak Elyasi Ms. Sheida Kalaki Mr. Ali Pourazizi Ms. Maryam Tarsaei | Deputy of Tourism DG of Planning & Development Expert Ecotourism, Planning & Development Expert, Planning & Development Marketing Expert Tourism Expert Security Guards Tourism Expert Tourism Expert Tourism Expert PR Expert |
| HQ Int'l Affairs Bureau | Ms. Faezeh Behzoelsyaid Mr. Mohammad Ghasemi Ms. Niloufa Yazdi Ms. Fatemeh Ghorbani | DG of Int'l Affairs Bureau Head of Bilateral Investment Expert Expert |
| HQ Handicrafts | Mr. Pourang Pourrahimi | Expert |
| HQ Cultural Heritage | Mr. Behzad Rezaei | World Heritage Office |
| ICHHTO East Azerbaijan | Mr. Mortaza Abdar Mr. Farshad Rostami Mr. Hassan Ghoreiste Mr. Adel Jafari Mr. Ahad Gahramani Mr. Hamid Hassanneiad Mr. Mohammadreza Rakhsha Mr. Mohammadreza Elhawi Mr. Hasanne Zhad Mr. Meysam Golshan Khalili Mr. Mohammad Alagheh Band Mr. Javad Eimali Mr. Ramin Asbagi Mr. Hossein Esnaeili Sangoui Ms. Fatma Sariraiee Ms. Zahra Ghaffari Mr. Mehrdad Moharram Mr. Hasan Abeeli Mr. Ali Eyuazi Mr. Farhad Nemati | DG ICHHTO East Azerbaijan DDG ICHHTO East Azerbaijan (Focal Point) DDG ICHHTO East Azerbaijan Tourism Facilities and Services (Focal Point) DD, Planning & Investment Tourism Expert in charge of Eco-lodge Tourism Expert (moved from ICHHTO HQ) Handcraft Expert Security Department Expert Expert Expert Manager, ICHHTO Tabriz Manager, Tabriz Bazar Manager, Azerbaijan Museum Azerbaijan Museum Guide, Kabood Mosque Guide, Iron Age Museum Manager, Kandvan Deputy Manager, Kandvan |
| ICHHTO West Azerbaijan | Mr. Jalil Jabbari Ms. Rita Khezerzadeh Mr. Vedood Fakhari Ms. Nahidek Ghorbamejad Ms. Samira Hadizadeh Mr. Alizeeleh Hamzch Ms. Samira EmamJardi Mr. Mehdi Valzacleh Mr. Borzuyeh Djavani Mr. Jafar Bahramnejad | DG ICHHTO West Azerbaijan Deputy DG (Focal Point) Ecotourism Expert (Focal Point) Tourism Expert in charge of Accommodation Tourism Expert Tourism Expert in charge of Education Tourism Expert in charge of Marketing Tourism Expert in charge of Travel Agencies Cultural Heritage Expert, Restoration Handicrafts Expert |

| | | |
|------------------|-------------------------------|--|
| | Mr. Mohamad Bayher Shabani | Budgeting Expert |
| | Mr. Hasan Sepehrfrew | Security Department |
| | Mr. Mohammad Abdehie | Security Department |
| | Ms. Bigdeli | Urmieh Museum |
| | Mr. Shiri | Manager, Hasanlu Archaeological Site |
| | Mr. Bavramzadeh | Manager, Khoy |
| | Mr. Moharram Abdllahpour | Manager, Qara Kilisa |
| | Mr. Mhourablu | Manager, Maku |
| | Mr. Aliniya | Guide, Takht-e Soleyman |
| ICHHTO Ardabil | Mr. Nader Fellahi | DG ICHHTO Ardabil |
| | Ms. Soghra Foushi | Deputy of Tourism (Focal Point) |
| | Mr. Yaser Ranaiee Hassan | Deputy of Cultural Heritage |
| | Mr. Iman Ali Imani | Manager, ICHHTO Meshgin Shar (Focal Point) |
| | Mr. Jahangir Shahbazi | Second Deputy of ICHHTO Ardabil |
| | Mr. Mesud Lahut | Reporter |
| | Mr. Seyed Khalil Hoseyne | Public Relations |
| | Mr. Saijad Mohseni | Expert, Cultural Heritage |
| | Mr. Seyed Sadeg Hoseini | Education office, Cultural Heritage |
| | Mr. Abdolrahim Valiyari | Tourism Expert |
| | Mr. Yousefi | Research Office |
| | Mr. Seyed Mohseni | Manager, Serein |
| ICHHTO Zanjan | Mr. Yahya Rahmati | DG ICHHTO Zanjan |
| | Mr. Morteser Nazeri | Deputy DG (Focal Point) |
| | Mr. Abolfazl Ajau | Tourism Expert (Focal Point) |
| | Mr. Jafar Eskandari | Tourism Expert |
| | Mr. Hosein Khamsei | Ecotourism Expert |
| | Mr. Seyad Md. Hassan Hosseini | Marketing Expert |
| | Ms. Roghaneh Moharrani | Tourism Expert |
| | Ms. Shiva Rezani | Budgeting Expert |
| | Mr. Abelfazi Afshari | Tour Guide Education |
| | Mr. Gholamreza Najafloo | Accommodation Supervision |
| | Mr. Mohammad Khani | Tourism Expert |
| | Mr. Zaynab Imani | Education Expert |
| | Ms. Zahra Mohammali | English Guide |
| | Mr. Asgari | Manager, Soltanieh |
| | Mr. Yollbas | Manager, Katalahkhor Cave |
| ICHHTO Qazvin | Mr. Alireza Khazaeli | DG ICHHTO Qazvin |
| | Mr. Alireza Zamani | Deputy DG (Focal Point) |
| | Ms. Shekoofa Auhasian | Deputy DG (Focal Point) |
| | Mr. Marzieh Jalal Irangi | Tourism Expert |
| | Mr. Ali Norazi | Tourism Expert |
| | Ms. Sara Naghchi | Tourism Expert |
| | Ms. Roya Khadili | Tourism Expert |
| | Ms. Rashtvand | Tourism Expert |
| | Mr. Neiati | Manager, Bouein Zahra City |
| | Mr. Agha Dalikewi | Archaeologist, Bouein Zahra City |
| | Mr. Safari | Manager, Alamut Archaeological Research Base |
| ICHHTO Kurdistan | Mr. Seyed Mohsn Alavi | DG ICHHTO Kurdistan |
| | Mr. Hamid Eskandari | Deputy DG (Focal Point) |
| | Mr. Yaqub Gaviryan | Tourism Expert (Focal Point) |
| | Mr. Awat Mokari | Ecotourism Expert |

| | |
|-----------------------|--|
| Mr. Mhammad Behravan | Security Department |
| Mr. Kurosh Ghaderi | Security Department |
| Mr. Sattar Karimi | Security Department |
| Ms. Shahin Rouhalahi | Statistics Expert |
| Ms. Naghmeh Mohammadi | Training Expert |
| Ms. Shahin Tisheh | Tourism Expert in charge of Travel Agecy |
| Mr. Rahimi | Manager, Sanadanj Museum |
| Mr. Sohrabi | Manager, Moshir Diwan Mansion |
| Mr. Vafaei | Manager, Karaftou Cave |
| Mr. Kahim | Manager, Dicandareh |
| Mr. Taheri | Manager, Sarvabari |

Relevant Organizations (Public Sector)

| | | |
|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| Plan and Budget Organization (PBO) | Ms. Zahra Sadat Hosseinion | |
| | Ms. Somayyeh Saremi | |
| | Mr. Seyed Masoud Mirtaleb Ayhdam | |
| Department of Environment (DOE) | Mr. Iman Hadi | |
| Statistical Center of Iran (SCI) | Ms. Zohreh Chitsaz | Tourism Statistics |
| Invest in Iran | Mr. Mahadi Abbasi | |
| Central Bank | Ms. Shararhe Eflekhari | Data Administration Department |
| Ministry of Foreign Affairs | Mr. Abdolah Abasszade | |

Relevant Organizations (Private Sector)

| | | |
|--|----------------------------|---------------|
| Touring and Automobile Club of Iran (TACI) | Mr. Abdolreza Abaszadeh | Deputy |
| Iran Tour Operators Association (ITOA) | Mr. Mohammad Nikazin | Member |
| | Mr. Hamid Hemmati | Member |
| | Mr. Seyed Mohammadali Asef | Member |
| Iran Hotel Association (IHA) | Mr. Abbas Bidgoli | Director |
| | Mr. Ahmad Arkaniyan | Deputy |
| Iran Federation of Tourist Guide Associations (IFTGA) | Ms. Vahideh Shapuri | Member |
| | Mr. Ali Salek Rahimi | Member |
| Chamber of Commerce, Industries, Mines and Agriculture (CCIMA) | Mr. Masud Shirinkalam | Tourism Group |

East Azerbaijan Province

| | | |
|----------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| Tabriz Municipality | Mr. Yusof Asadi | Manager, Municipal Museum |
| Railway Company | Mr. Shapaur Arsaleeri | DG, Azerbaijan Railway Company |
| Tabriz TV and Radio | Mr. Mahdi Rasi | Consulate |
| Aras Free Trade Zone | Mr. Mehdi Abbasi | Tourism Manager |
| Tabriz Airport | Mr. Mohammad Ali Fazel Gharmaleki | Operation Deputy Manager |

West Azerbaijan Province

| | | |
|--------------------------|------------------------|-----------------------|
| West Azerbaijan Province | Mr. Habibi Torbati | Economic Affairs |
| | Mr. Naser Shirzadeh | Economic Affairs |
| | Mr. Motteza Gholizadeh | Water Office |
| | Mr. Hamid Renaghad | DOE |
| | Mr. Ahreza Loffi | DOE |
| Urmieh Municipality | Mr. Azhdar Hosseini | International Affairs |
| | Mr. Amin Salmanian | Public Relations |
| Urmieh Airport | Mr. Ahmad Ghlamreza | Deputy Manager |
| Azerbaijan Railway | Mr. Ali Reza Soleimani | Manager |
| Water Company | Mr. Babak Niknia | Agricultural Expert |

| | | |
|-------------------------|---------------------|---|
| IRIB TV West Azerbaijan | Mr. Parvn Ahmedi | Agriculture and Water Resource Expert |
| | Mr. Jafar Raesaee | Manager |
| | Mr. Hadi Jabbarokht | Reporter |
| Tour Guide Association | Mr. Akbar Jabbari | President |
| Hotel Association | Mr. Reza Sabounchi | President |
| Maku Free Zone | Mr. Hemzelou | Vice President in charge of Culture and Tourism |

Ardabil Province

| | | |
|---------------------------|-----------------------|------------------------------|
| Ardabil Province | Mr. Rahim Zharfi | Foreign Affairs |
| | Mr. Moffateh | Foreign Affairs |
| | Mr. Yusef Mehdizadeh | DOE |
| | Mr. Morteza Balay | Culture and Islamic Guidance |
| | Mr. Akbar Voroud | Sports and Youth |
| | Mr. Yusef Baghrzadeh | Roads and Urban Development |
| | Mr. Reza Shirinzadeh | Transportation |
| Tourism Development Corp. | Mr. Ashkan Shikari | Managing Director |
| Ardabil Airport | Mr. Fakhradin Hashemi | Manager |
| Ardabil University | Mr. Mehran Asayeshi | Medical Science |
| Water Resource | Ms. Leila Nemati | Manager |
| Ardabil Municipality | Mr. Hosein Vafdoost | |
| Travel Agency Association | Ms. Simin Gheibi | President |
| | Ms. Farshi | Member |
| Hotel Association | Mr. Bazri | President |

Zanjan Province

| | | |
|---------------------------|--------------------------|---|
| Zanjan Province | Mr. Masood Etaati | DG of Attraction and Protection of Investment |
| Zanjan Municipality | Mr. Saeid Omodi | MD of Cooperation Organization |
| | Mr. Daryoush Gharehdaghi | MD of Investment and Public Participation |
| Hotel Association | Mr. Diyako Zare | Representative |
| Travel Agency Association | Mr. Mohamoud Saberi | Head Manager |
| | Mr. Rahman Gelami | Secretary |
| | Mr. Saleh Rashvmand | Executive Member |
| Tourist Guide Association | Mr. Seyed Reza Hashemi | Executive Member, Avaye Pishgaman Institute |
| | Mr. Sahand Saeidi | Member |
| Restaurant Association | Mr. Behruz Kavadi | President |
| Tourism Start-Up | Ms. Somaye Kalantari | President |
| MEHR News Agency | Ms. Zahra Moghdami | Reporter |

Qazvin Province

| | | |
|---------------------|-----------------------------|---|
| Qazvin Province | Mr. Farokh Zad | Vice Governor |
| | Mr. Ali Ansari | DD, Education and Training Administration |
| | Mr. Parviz Abdi | Agriculture Organization |
| | Ms. Akram Najafi | Rural Affairs |
| | Mr. Reza Gorbany | Police Department |
| | Mr. Asgar Gavanji | Police Department |
| | Mr. Hessam Mahdivon | Water Resource |
| | Mr. Ali Taherkhani | Industries, Mines and Trade |
| | Mr. Seyed Alireza Nasehniya | Management and Planning Organization |
| | Mr. Peyman Pirmoradi | Technical Office |
| | Ms. Fahimeh Lezgi | Economic Affairs and Finance Organization |
| Qazvin Municipality | Mr. Godratolah Fathkhani | General Manager |
| | Ms. Noori Chegini | Deputy |

| | | |
|------------------------|--------------------------|--|
| Electricity Company | Mr. Abdolhoseyn Mozafari | Environment Department |
| Chamber of Commerce | Mr. Yusef Enanlo | Manager |
| Hotel Association | Mr. Mehdi Bakhshandeh | President, CCIMA Qazvin |
| Restaurant Association | Mr. Ashami | President |
| Investment Bureau | Mr. Tivamad | President |
| Avai Municipality | Mr. Raghzen | Manager |
| | Mr. Eflekhar | Mayor |
| | Mr. Daraki | Manager |
| | Mr. Aboihasni | Engineer |
| Alamut Municipality | Mr. Mohammadi | Alamut Protected Zone Manager |
| Ovan Lake | Mr. Taher | Manager |
| Barayin Nature Village | Mr. Nuri | Manager |
| Eco-Lodge Owners | Mr. Miladi | Seven Guesthouse |
| | Mr. Afmadi | Eagle Castle Traditional Home and Museum |

Kurdistan Province

| | | |
|---------------------------|-----------------------|---|
| Kurdistan Province | Mr. Shahram Maleki | Deputy Director General for Development Affairs |
| | Ms. Fariba Rezavi | General Manager, DOE |
| | Mr. Omid Bato | DOE |
| | Mr. Meydar Veysi | DOE |
| | Mr. Hoseyn Karimiyan | Manager, Management and Planning |
| Hotel Association | Mr. Abdolhamid Hamidi | President |
| Travel Agency Association | Mr. Hushang Javaheri | President |
| Zarivar Lake Birds Org. | Mr. Nase Vaosein | President (NGO) |
| Shoan Gasht Travel | Mr. Shoan | Manager, Shoan Gasht Travel Agency in Sanandaj |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO キックオフミーティング |
| 日時 | 2019年5月11日(土) 12:00~13:30 |
| 場所 | ICHHTO 観光局 |
| 参加者 | ICHHTO : Wali Teymouri 次官他 PBO : (女性1名、男性1名) JICA イラン事務所 : 小林雪治所長、水谷陣也、Farid Ghaderi JICA 中東欧州部 : 西田有一、降旗翔 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO Wali Teymouri 次官より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • ICHHTO の調査によると、イラン北西部は観光目的地となり得る高い潜在力がある。歴史文化遺産があり、ヘルスツーリズム、エコツーリズム、文化の多様性を体験できる。いくつかのサイトは世界遺産となっている。 • UNWTO とは、エコツーリズム・農村ツーリズムというタイトルのプロジェクトを準備中である。このプロジェクトの目的は、第一に、この地域の観光資源を分類し、第二として、2020年までにコルDESTAーン州とケルマンシャール州で合同セミナーを開くことである。コルDESTAーン州は、JICA プロジェクトの対象とも重なっている。 • 私の紹介の目的は、JICA プロジェクトがシルクロードと文化面だけに絞るのではなく、ヘルスツーリズム、農村ツーリズム、エコツーリズム、文化体験等の様々な側面にも光を当てて欲しいという期待からである。 • 例えば、ヘルスツーリズムは、中央アジアやイラクから多くの訪問客を受け入れている。対象地域はヘルスツーリズムの国際訪問客を受け入れており、観光開発戦略に盛り込みたい。 • ICHHTO は、関連部局や省庁に加え、対象州 ICHHTO の観光部局、専門家とも調整を図っている。州の支所長だけではなく、計画担当専門家を指名し JICA プロジェクトに備えている。 • 私自身、2003年に40日間の JICA 研修に参加し、他国を含む JICA のプロジェクト事例や JICA の組織体制等の知識を得た。本件の協力が有益な成果をもたらしてくれることを確信している。 • JICA の協力以外では、田端浩氏(現観光庁長官)と近い将来の協力を約束しており、次のイラン訪問時に協力協定を署名したい。また、2019年の JATA ツーリズムエキスポ(大阪で開催)にも出展を予定している。在日イラン大使館とも密接に協力している。 • イランと日本の外交樹立90年を踏まえ、文化及び観光分野の協力が推進されることを期待している。 |

(2) JICA イラン事務所小林所長より挨拶

- 第6次5か年開発計画において、観光開発は重点課題の一つとして位置付けられていると共に、その開発促進は、失業率の改善にも貢献すると期待されていると認識。
- イラン政府にとって観光開発は重点分野の一つであるという認識に基づき、2017年9月から2018年3月にかけて実施した前回調査の結果、2018年度の要請案件としてイラン側から北西部6州の観光開発M/P策定支援の要請を受け、日本政府は本件を2019年3月に採択した。
- JICAとしては、今後ともイラン政府を支援していく所存であり、JICAが行う関連の調査や情報提供に引き続き協力していただけると幸い。

(3) JICA 中東欧州部より本件実施までのプロセスの説明

- 小林所長から説明があったように、日本側は既に北西部6州の観光開発M/P策定支援に係る要請を承認している。
- 今後、観光開発M/P策定支援プロジェクトの開始まで、いくつかのステップがある。本調査は、最初のステップとして、基礎情報の収集と分析を行う。次のステップでは、支援プロジェクトの枠組みを作成しイラン側と合意する。最後のステップでプロジェクトが開始される。
- それと別に、現在、イランと日本の二国間で技術協力協定の締結を協議している。これは、イラン政府内部の手続きを経て、両国（外務省）間で合意が必要な事項で、JICAやICHHTOで制御できる範囲外の問題ではある。
- 一方でJICAは、技術協力協定が締結され、円滑に次期支援が開始されることを想定して、今回、観光分野に専門性を有する日本人からなる調査団を備え、第1ステップとなる本調査を始めるものである。

(4) 調査団より本調査の概要等の説明

- JICAは観光開発M/P策定支援において多くの経験を有している。私自身、20年以上前から中東地域でJICAの観光開発支援に関わり、ヨルダン、シリア、レバノン、チュニジアの観光開発M/P策定、最近終了したペトラの地域観光開発支援を行ってきた。
- 調査団はインセプションレポートを用意したので、後ほど目をとおして欲しい。主な内容を説明する。
- 本調査の目的は、既に説明されているように、北西部6州を対象とした地域観光M/P策定支援プロジェクトの準備に必要な基礎情報を収集・分析することである。
- 対象地域は、東アゼルバイジャン州、西アゼルバイジャン州、アルダビール州、ザンジャー州、ガズヴィーン州、コルデスターン州である。
- 調査項目は、イラン北西部の観光基礎情報として、1) M/P策定支援の効果を測定・評価する指標となる情報、2) M/P策定支援の実施体制に関する情

| | |
|--|---|
| | <p>報、3) マーケティング、人材開発、政策・行政等の観光促進の枠組み、に加え、対象6州のフィールドサーベイ（需要と供給サイド）を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 調査工程は、今回のイランでの調査を5月から6月までの約2ヶ月間実施し、7月末までに報告書を作成する。報告書は、英語とペルシア語も用意する。 • 最後に、イラン側へ本調査の実施に関して便宜供与をお願いしたい。特に、対象6州のフォーカルポイントの任命をお願いする。 <p>(5) 質疑応答、協議等</p> <ul style="list-style-type: none"> • このプロジェクトは ICHHTO 観光局として最優先のひとつと認識している。技術協力協定の締結についても最大限の努力をする。本会議に出席している PBO 担当者も重要な第3ステップに至るよう適切なフォローしてくれるものと確信している（Teymouri 次官）。 • ICHHTO 観光局の国家プロジェクトとして以下がある。1) UNWTO、UNESCO との協力で全国観光開発 M/P の策定がある。マクロレベルの情報を JICA プロジェクトでも利用できる。2) UNWTO の協力により、イラン国家統計局（SCI）、中央銀行を巻き込み、観光サテライト勘定（TSA）を進めている。本プロジェクトにも高い信頼性の最新データを提供できる。3) ナショナルブランディングプロジェクトにおいても、北西部の位置づけを明確にしたい。4) UNWTO と準備中のエコツーリズム・農村ツーリズムは、イラン北西部も対象地域であり、本プロジェクトと連携が期待される（Teymouri 次官）。 • ICHHTO 観光局計画・開発部の Mr. Seyed Maehdi Yasini を本プロジェクトのフォーカルポイントとして任命する。同氏は、明日の会議に参加する対象6州のフォーカルポイントの選任も行っている。 • 許認可が必要な場合は ICHHTO が文化省等と調整を行う。詳細なリストを提示して欲しい（Teymouri 次官）。 • 技術協力協定に関して PBO に言及（Teymouri 次官）。 • 対象地域には、高い歴史文化遺産の潜在力がある。全国で最も人口が集中している地域でもある。アゼルバイジャン、トルコ、アルメニア等と隣接し、国際観光にとって重要な地域である。空港、道路、鉄道等の支援インフラも整っている（Rahimi 計画・開発部長）。 • UNWTO の全国 M/P 策定準備の経験からも、ワーキンググループを組織し、本プロジェクトのフレームワークを準備する必要性は十分に認識している。ICHHTO が期待する成果は、1) 地域全体の総合的観光管理計画、2) 観光セクター投資計画、3) 地域コミュニティの参加、4) ステークホルダーの強化（empowerment of stakeholders）、5) SME の強化、6) ナショナルブランディングに寄与する地域ブランディング、である。相互の意見交換をとおして、より詳細を詰めていきたい（Rahimi 計画・開発部長）。 • M/P の策定の実施の割合や、M/P の実施コストはどの程度を想定しているのか。また、日本側が本プロジェクトに期待する成果は何か。M/P の成果や成 |
|--|---|

| | |
|--|--|
| | <p>功はどのようにモニタリング、計測するつもりなのか（Faezeh Behzadnejad 国際局長）。</p> <ul style="list-style-type: none">• JICA が支援する M/P プロジェクトでは、次のステップで詳細を固めた上で実施する M/P 策定支援の中で、M/P 実施の一部をパイロットプロジェクトとして実施し、M/P を最終化する手法をとる。通常、ひとつのプロジェクトの日本側の予算規模は USD 3 百万程度である（西田）。• M/P の成果が適正なものであったかの評価については（Faezeh Behzadnejad 国際局長）。• M/P の評価方法は M/P に盛り込まれ、通常、JICA 側も関わりつつ、定期的なモニタリングにより評価していく。また JICA の M/P 作成支援プロジェクトでは、プロジェクト終了後もその実施が担保されるための仕組み作りも提案することになる（水谷）。 <p style="text-align: right;">以上（記録：磯野）</p> |
|--|--|

List of Participants

May 11, 2019

ICHHTO HQ

Wali Teymouyi *Tourism Deputy

Arireza Rahimi

Faezeh Behzoelsyaid

Seyed Mahdi Yasini

Mohammad Ghasem

Niloufa Yazdi

Ahmet Sheikhi

Reza kiafar

Iraj Ghahremuny

Faranak Elyasi

Sheida Kalaki

Maryam Tarsaei

PBO

Zahra sadat Hosseinion

Seyed masoud mirtalebi ayhdam

JICA Iran Office

Yukiharu Kobayashi

Hiroyuki Tanaka

Jinya Mizutani

Farid Ghaderi

JICA HQ

Yuichi Nishida

Kakeru Furihata

JICA Study Team

Tetsuo Isono

Ryoko Tanoue

Mohmmad Reza Fard

Solmaz Azmude

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO キックオフミーティング（対象6州） |
| 日時 | 2019年5月12日（日）13:30～15:30 |
| 場所 | ICHHTO 観光局 |
| 参加者 | <p>ICHHTO : Rahimi 計画・開発部長、Faezeh Behzadnejad 国際局長他、対象6州のICHHTO 代表者各2名程度</p> <p>PBO : Somayyer Saremi</p> <p>JICA イラン事務所 : 田中博之次長、水谷陣也、Farid Ghaderi</p> <p>JICA 中東欧州部 : 西田有一、降旗翔</p> <p>調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude</p> <p style="text-align: right;">（敬称略・順不同）</p> |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO Rahimi 計画・開発部長より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • JICA と対象6州のICHHTO 代表者の出席を歓迎する。一同、協力して実りある成果を出したいと思う。 • 本会議に先立ち、ICHHTO 内で基本的な情報共有の会議を行った。対象6州のICHHTO 代表者には、次期支援の経緯、概要と本会議の趣旨を共有した。 • 出席者の自己紹介から本会議を始めたい。 <p>(2) 出席者の自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出席者は、Rahimi 計画・開発部長から反時計回りに、1) Behzadnejad 国際局長、2～4) ザンジャー州代表者、5～6) ICHHTO 国際局職員、7～8) アルダビール州代表者、9～10) 西アゼルバイジャン代表者、11～12) コルデスターン州代表者、13～14) 東アゼルバイジャン州代表者、15) PBO 二国間協力担当、16) ICHHTO 国際局職員、17～18) ガズヴィーン州代表者、19～22) 調査団、23～24) JICA 中東欧州部、25～27) JICA イラン事務所（その他、ICHHTO 観光局計画・開発部の職員が数名議場にいた）。 <p>(3) JICA イラン事務所より活動紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> • JICA イラン事務所より、イランにおけるJICA の活動をペルシア語で紹介。近年及び実施中のプロジェクトの概要を紹介した。 <p>(4) JICA 中東欧州部より JICA の観光分野の経験とこれまでの経緯を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • イランにおける観光セクターは高い潜在力を有している。雇用創出、外貨獲得、他セクターへの好影響等の経済効果が期待できる。 • このような背景の下、JICA は、イラン全土を対象とした観光セクター基礎調査を実施した。その結果、北西部が優先地域として選定された。JICA は、本会議に出席している対象州関係者との協力によって観光開発 M/P を策定するプロセスを支援したいと考えている。 • JICA は、経験豊富な専門家チームを派遣し、各州が直面する観光開発にお |

ける課題の解決、貴重な観光資源をコミュニティ開発に生かしていく方法、観光関連人材を育てていく方法等のパイロットプロジェクトを実施し、結果を観光開発 M/P に反映させていく手法をとりたいと考えている。

- 以上が、JICA が考えるイラン北西部観光開発 M/P プロジェクトのビジョンであるが、本会議に出席している対象各州の積極的な参画が不可欠である。
- 観光開発 M/P の策定のための枠組みを確定するためには、基礎情報の収集・分析が必要で、今回、JICA は経験豊富な専門家からなる調査団を派遣することとした。調査団から調査の実施方法の説明があるので、関係者の積極的な協力をお願いしたい。

(5) 調査団より対象各州での調査計画概要を説明

- 調査団は、午前中に行われた ICHHTO 内部の会議、JICA 本部からの説明により、既に本調査の経緯、目的は出席者に共有されていると理解し、本調査の実施方法を中心に説明を行った。
- 調査団は、本調査の間、各対象州を2回訪問するつもりで、第1回の訪問、第2回の訪問日程を提案した。第1回は、東アゼルバイジャン州：5/14～5/16、西アゼルバイジャン州：5/18～5/19、アルダビール州：5/20～5/21、ザンジャー州：5/22～5/23、コルデスターン州：5/25～5/26、ガズヴィーン州：5/28～5/29。第2回は、東アゼルバイジャン州：6/15、西アゼルバイジャン州：6/16、アルダビール州：6/17、ザンジャー州：6/18、コルデスターン州：6/19、ガズヴィーン州：6/22。但し、第2回の訪問日程、順序は暫定である。第1回の訪問時に再確認したい。
- 調査団からは、調査の目的に沿って現地での受入れをお願いしたい。第1回の訪問では、1) ICHHTO と関係機関、協会等との会議（2～3時間）、2) 主要な観光サイト、潜在力のある観光候補地等の視察（1日）、をお願いしたい。第2回の訪問では、第1回の会議での協議結果に基づき、添付した質問票に記載した基礎データ等を回収したい。
- 本調査は、イラン側から要請され、日本政府が採択したイラン北西部の観光開発 M/P 策定支援の第1ステップの準備調査であり、今後、第2ステップで M/P 策定のための枠組みが JICA と ICHHTO の間で協議され、第3ステップで M/P 策定のプロジェクトが開始される。第1ステップの現時点では、M/P がどのような内容、枠組みで行われることになるか決まっていないが、昨日、ICHHTO からは、1) Integrated tourism management、2) Developing tourism investment、3) Encouraging local community、4) Empowering the stakeholders, society and SME、5) Developing regional branding consistent to the national brand への期待が表明されたが、間違いなくこれらの内容が含まれることになる。
- 第1ステップでは、第2ステップで用いる基礎情報、基礎データとして、各州にどのような観光需要があり、観光商品や観光資源があるか、どのように観光客、観光資源、観光産業が管理されているかを把握する。今回、各州を

訪問し、会議と現地視察を行うのは、それが目的である。

(6) 質疑応答、協議等

- 6州の間には違いがある。例えば、東アゼルバイジャン州はインフラが整っているが、コルDESTAーン州はそうではない。一方で、コルDESTAーン州には独特の伝統文化が残っている。これらの違いを認識した上で6州のM/Pを策定する必要があると考える（コルDESTAーン州）。
- コルDESTAーン州の詳細は、調査団が訪れた時に協議するのが良い。一般論としては、M/Pでも多様性は尊重したい（ICHHTO）。
- ICHHTOの意見に賛成である。改めて言うが、今回の訪問でM/Pを策定してしまう意図はない。通常、第3ステップのM/P策定には、例えば3年間等の十分な時間をかけて行われることになる（調査団）。
- 文化面の多様性の重要性はアルダビール州も同様であるが、様々な文化的背景をもつ民族を観光に参画されるには具体的にどのような手法をとるのか（アルダビール州）。
- 一般論として、様々な文化的背景をもつ民族の観光への参加は良いことであるが、民族によっては、伝統文化の崩壊につながる等の理由で観光への参加を好まない場合や、観光への参加の準備が整っていない場合もある。これまでのJICA支援では、通常、民族のリーダー等を対象とした社会調査を行い、民族の意向を確認し、それに応じた適切な参加を支援する。住民を対象としたセミナーやトレーニング等の啓発活動を行うことも多い（調査団）。
- イランではまだTSA適用が開始されておらず、正確なデータは提供できない状況にある。データ間の不整合等の恐れがある。もっと前に通知されていれば、データ収集をできたかもしれない（ガズヴィーン州）。
- 調査団としては、各州に新たなデータを集めてもらうことは期待していない。既存の最新データでよい。現時点で収集していないデータがあれば、その旨を説明してもらえばよい。データの信頼性に関しては、異常値があれば、まず各州へ確認する。信頼性が低いと思われた場合には、参考値として取り扱う等、統計の原則に従って処理する。「このデータはない」というのも第2ステップにとって重要な情報である（調査団）。
- イランでは、インバウンド観光客数、主要な博物館等の入館者数も収集しているが、国内観光客の動向が把握できていないことが問題だと考えている。本件プロジェクトを通して、一緒に改善方法を考えていければ幸いである（ガズヴィーン州）（※これまでICHHTO本部、4州の支所での勤務経験）。
- 賛成である（調査団）。
- これまでJICAとの交流は多く、数年前には日イランの交流イベントを開催した経験がある。調査団の訪問、協議、情報提供に関して問題はない（東アゼルバイジャン州）（※他州からの参加者に対しても心配無用と表明）。
- 質問票にある質問項目、データリストで、現状把握ができると考えているの

| | |
|--|--|
| | <p>か（ザンジャー州）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 質問票には基本的な項目を絞って載せており、それ以上の情報やデータがあれば歓迎する。ただ、本調査は、ICHHTO 本部やテヘランで他省庁、機関へもインタビュー調査を行うので、各州に限った情報をもらえれば十分である（調査団）。 • 例えば、質問票の人材育成に関し、観光関連教育機関の卒業生がどのくらい観光産業で働いているか等のデータは有益か（ザンジャー州）。 • 有益である。多くの国で卒業生の追跡調査が行われていないことから省いたが、教育の外部効率を評価する上でも役立つ情報である（調査団）。 • 各州での協議では、それぞれの観光開発ニーズや展望が話し合われることになるが、その結果、イラン北西部地域全体の観光開発 M/P となり各州の多様性が失われてしまう危惧はないのだろうか（西アゼルバイジャン州） • 州の計画、地域の計画というヒエラルキーの問題であり、危惧はない（ICHHTO）。 • 調査団は、まだ北西部の対象各州を訪れていないため正しい返答をできないが、これまでの経験では、広域の観光開発 M/P は、主要な周遊観光ルート等のまとまりのある範囲で作られている。例えば、全国に 18 州のある国では、全国を南部、中部、北部、最北部の 4 つの観光地域に分けていた。全国観光 M/P はあるが、それぞれの観光地域の M/P は作らず、マーケティング戦略のみを立てた（調査団）。 • 観光情報・データの収集について、1) 観光行政・管理、2) 法律・規則、3) 観光インフラ、4) 人的資源、5) マーケティング戦略の 5 分野で整理することを提案する（ガズヴィーン州）。 • 国レベルで共通の情報は、ICHHTO 本部等、テヘランで収集するので、各州が用意する必要はない（調査団）。 • 各州のフォーカルポイントに期待する役割は何か、またフォーカルポイントの選定基準・評価方法はあるのか（ICHHTO 国際局長）。 • フォーカルポイントには本調査の州コーディネーターとして、第 1 回訪問時の会議参加者の招集、質問票に記載の情報とデータの有無や情報源を確認すること、また、サイト視察への同行ないし同行者の指名を期待する。サイト視察では、観光需要や観光開発ポテンシャルについて意見交換をするので、同行者は単なる観光ガイドではないことに留意して欲しい。フォーカルポイントを評価する意図はなく、選定は ICHHTO に一任したい（調査団）。 • JICA による成功事例を紹介してもらえるか（ICHHTO）。 • JICA 中東欧州部より、JICA が近年実施したミャンマーの地域観光開発 M/P の事例を紹介。当該案件では、サイネージの改善等のパイロットプロジェクトを実施し、M/P の策定と一部の実施を支援した（JICA 本部）。 • そのプロジェクトに関し、情報をもらえるか（ICHHTO）。 |
|--|--|

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">• JICA のウェブサイトプロジェクトデータベース（英文）を公開している（JICA 本部）。• 本件は、ICHHTO 職員として、在職中に何度か訪れる自分の地元への貢献が可能な機会だと考え、本件に深くコミットするよう改めてお願いしたい（Rahimi 計画・開発部長）。• M/P 策定後、その実施も極めて重要である。円滑な実施のため、各州の計画段階からの積極的な参加を期待する（JICA イラン事務所） <p style="text-align: right;">以上（記録：磯野）</p> |
|--|--|

List of Participants

May 12, 2019

| | |
|------------------------|--|
| ICHHTO HQ | Arireza Rahimi, DG Planning and Development Faezeh Behzoelsyaid Seyed Mahdi Yasini Mohammad Ghasem Niloufa Yazdi |
| PBO | Somayyer Saremi |
| ICHHTO East Azerbaijan | Farshad Rostami Adel Jafari |
| ICHHTO West Azerbaijan | Rita Khezerzadeh Vedood Fakhari |
| ICHHTO Ardevil | ImanAli Imani Soghra Foushi |
| ICHHTO Zanjan | Abolfazl Ajai Mortaser Nazeri Zahra Mohammali |
| ICHHTO Qazvin | Shekoofa Auhasian Alireza Zamani Kharaghani Sara Naghchi |
| ICHHTO Kurdistan | Hamid Eskandari Yaqub Gaviryani |
| JICA Iran Office | Hiroyuki Tanaka Jinya Mizutani Farid Ghaderi |
| JICA HQ | Yuichi Nishida Kakeru Furihata |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono Ryoko Tanoue Mohammad Reza Fard Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|---|
| 名称 | ICHHTO 観光局及び国際局ミーティング（質問票） |
| 日時 | 2019年5月13日（月）9:00～11:30 |
| 場所 | ICHHTO 観光局 |
| 参加者 | ICHHTO：Rahimi 計画・開発部長、観光局職員、国際局職員 JICA イラン事務所：Farid Ghaderi JICA 中東欧州部：降旗翔 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>調査団より質問票に基づいて対象6州の情報を聴取</p> <p>(1) 観光需要</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018-19年度、前年比52%増780万人のインバウンド客がイランを訪れたと新聞報道で聞いているが、最近の観光客の状況について説明をお願いしたい（調査団）。 確かに昨年度、大幅な増加があったが、多くはアゼルバイジャン等の周辺国からの訪問客である。インバウンド客情報は、入国管理局(Immigration Police)から入手している。空港、国境等の入国ポイント別インバウンド客情報以外にホテルからの宿泊情報がある。各州は、宿泊情報に依存している。加えて、主要な博物館、観光サイトの入場者数データがある。インバウンド客データは、WTO区分の地域ごと、入国目的(ビザ)別の集計も行う(ICHHTO)。 52%増の理由は、イラン通貨の下落による物価安が大きい。また、イラク国境に経済特区があるが、これまでイラク人に必要であったビザを免除したことも急増に貢献した。現在、徐々にeビザを整備しており、既に170～180の国民が主要な入国地点でアライバルビザを取得できる(ICHHTO)。 ホテル宿泊者情報に関し、どの程度の施設をカバーしているのか(調査団)。 イランでは、観光施設に16のカテゴリーがある。ホテル以外に、エコロッジ、ブームギャルディ等があるが、16全てのカテゴリーについて、ICHHTOの許認可が必要である。詳細な区分があり、ガイドラインに記載されている(※後日、ガイドラインを調査団に共有)。16のカテゴリーの中には、レストランも含んでいる。但し、市内にあるレストランのデータは、市役所が管理しており、市外にあるものについてのみICHHTOが管理する(ICHHTO)。 16のカテゴリーは以下のとおり：1) ホテル、2) モーター、3) ゲストハウス、4) ホテルアパート、5) 巡礼宿、6) 民泊(都市部)、7) ブームギャルディ(農村エコロッジ)、8) 伝統的宿泊施設、9) キャンプ場、10) ヘルスツーリズム施設、11) 自然公園施設、12) 温泉、13) リゾート、14) レストラン、15) 道路のサービスエリア、16) 交通施設内レストラン、17) 国境施設内レストラン、18) 伝統的レストラン(シーシャ等)、19) ヘルスビレッ |

ジ（※聞き取ったカテゴリーは 16 を超えていた）（ICHHTO）。

- ICHHTO は、どのようなデータをこれら 16 カテゴリーの観光施設から収集しているのか（調査団）。
- 所在地の分類、部屋数、ベッド数、従業員数、宿泊者数である。各州 ICHHTO へは毎日、宿泊者数が報告されており、ICHHTO 本部へは年間の宿泊数として報告される。ICHHTO では、現時点で、宿泊情報を詳細に集計・分析するシステムは構築できていない（ICHHTO）。
- ICHHTO 本部では、宿泊数の月別、季節ごとの変動を把握していない。宿泊情報は、観光客の動向を知るうえで重要な情報であり、対象 6 州の現地調査でも確認したい（調査団）。

(2) 観光客調査

- ICHHTO は、観光客を対象とした出口調査は実施しているか（調査団）。
- イランでは、入国管理局（Immigration Police）が入国審査をする以外、観光客の調査はしていない（ICHHTO）。

(3) TSA について

- 昨日の会議では、TSA はまだ準備中とのことであったが、どういう状況にあるか（調査団）。
- TSA は、SCI と契約が済んでおり、近い将来に開始できる状況にある。コンピューターシステムの立ち上げ、要員のトレーニングも完了している。UNWTO の提言に沿ってシステムに投入している。予算も確保されている（ICHHTO）。
- TSA の稼働に不可欠な要素のひとつは観光客の支出データだと認識しているが、観光客調査が行われていない現状で、それをどのように収集するつもりなのか。TSA では、観光客の目的別支出として、宿泊、食事、交通費等を把握することが必要なのではないか（調査団）。
- SCI が、年 1 回（春）、サンプル調査により、交通費、宿泊費、食事代、ショッピング等の分類で観光支出を調査している。数日前に、昨年春の調査結果をもらったところである（ICHHTO）。
- 前回調査の報告書で SCI の調査は聞いているが、外国人観光客に対しては同様の調査はされていないのではないか（調査団）。
- 確かに、SCI の調査は国内観光だけであるが、外国人観光客については、ツアー価格の費目別構成の分析から推計している（ICHHTO）。（※ツアー価格に含まれない支出については把握できないと思われる）

(4) 対象 6 州における観光開発の最近の動向

- 対象 6 州での最近の観光開発動向を教えて欲しい（調査団）。
- 世界遺産がある場合、それが観光開発の基盤と考えている。東アゼルバイジャン州、アルダビール州は、隣接するアゼルバイジャン共和国から多くの観

光客が訪れるが、ヘルスツーリズムが最近のトレンドとなっている。但し、トルコとの競合が激しく、アゼルバイジャンやアルメニアからトルコへ行く人たちも多い。4～5年前までは、国境検問所でイランの病院に行こうという人を多く見かけたが、最近ではトルコに取られてきている。今でも、タブリーズの病院には多くのアゼルバイジャン人がいる (ICHHTO)。

- コルDESTAーン州ではエコツーリズムが主流で、ICHHTO はエコツーリズムを行う旅行代理店、オペレーターを支援している。コルDESTAーン州は、独特の文化があり、様々な儀式も観光資源となっている。アルダビール州では温泉関連の観光開発が重要なトレンドとなっている。ガズヴィーン州とザンジャーン州では、歴史的サイトが主流である (ICHHTO)。
- アゼルバイジャンの飛地ナヒチェヴァンへは、本土から直接行けないため、イランを経由していくことになる。経由地に魅力あるものを用意すれば、イランでの滞在や観光を誘発できる可能性がある (ICHHTO)。
- イラン全国に7ヶ所のフリーゾーンがあるが、内2ヶ所は対象地域にある。ひとつは西アゼルバイジャン州とトルコ国境の Maku、もうひとつは東アゼルバイジャン州とアゼルバイジャンの飛地ナヒチェヴァン (※会議ではアルメニアと発言された) の国境にある Aras である。アルメニア修道院の修復は、Aras Free Trade Zone が全費用を負担して行った。Aras では、Free Trade Zone の投資により、7つの新しいホテルが開業した。Maku の歴史的建造物の修復も Maku Free Trade Zone の予算で行われている。これらのゾーンでのショッピング目的の日帰り観光も注目に値する。国境近くの住民は日常的に国境を越えて買い物をする。但し、入国手数料は無料であるが、毎日、行き来ができるわけではなく頻度には制限をかけている。このような国境観光にも潜在力がある (ICHHTO)。
- Free Trade Zone には、ICHHTO の権限が及ぶのか、また、そうでない場合、Free Trade Zone を M/P の策定やパイロットプロジェクトに関与させることは可能か (調査団)。
- Free Trade Zone 内は、ICHHTO が監督権限をもたず、Free Trade Zone 自身で管理をしているが、M/P への関与や参加を招待することは可能 (ICHHTO)。
- また、東アゼルバイジャン州北部の Arasbaran 山地は、UNESCO の世界遺産暫定リストにあげているが、ゲシム島に続く2番目のジオパークとして登録することを目指している。昨年、ジオパーク登録審査の団体が現地を訪れ、調査を行った (ICHHTO)。
- オルミエ湖も渇水となってから観光資源の価値が下がってしまったが、環境が改善されれば、また観光が復活できると考えている (ICHHTO)。
- 将来性があるかどうかの検討が必要であるが、近年、食や果物を観光資源として観光振興を図ろうとしている州もある (ICHHTO)。
- 周辺国からの観光客をターゲットとして、イラン観光週間等のイベントを開

催したこともあるが、期待したほどの成果は得られなかった。周辺国からの観光客誘致を図るのであれば、しっかりとした調査・計画が必要 (ICHHTO)。

- イランには古典的な観光ルートがあるが、ICHHTO 長官が新しい観光ルートを開発するように指示を出した。現在、イラン西部の新観光ルートを作るため、マーケティング等の個別のコミッティ、関係する 9 つの州や旅行代理店によるワーキンググループを含む特別なオフィスを ICHHTO 本部内に立ち上げた。対象地域の 3 州がこの西部地域新観光ルートに含まれている。人材育成、予算コミッティ等もある (ICHHTO)。

(5) 対象 6 州における支援インフラ整備の動向

- 対象 6 州の観光開発のトレンドに対し、観光に必要な支援インフラの動向はどのような状況か (調査団)。
- 州によって状況が異なる。まず、幹線道路はどの州も整備されている。山地のコルデスターン州では、支線道路の整備は遅れている。空港は対象地域に何ヶ所もあり不便はない (ICHHTO)。
- イラン国民にとって、どの交通手段が最も一般的か (調査団)。
- 道路である。鉄道は、全ての対象州には通っていない (ICHHTO)。

(6) ICHHTO 本部と州支所の役割分担

- ICHHTO 本部が行うことは、計画立案、州の ICHHTO 幹部の任命、中央からの予算配分 (ICHHTO 支所は州レベルでの予算配分もある)、国際観光博への参加手続き等がある (ICHHTO)。
- ICHHTO 支所は、中央レベルと州レベルの両方から予算が配分される。予算配分の権限をもつ PBO は、中央レベルと州レベルに設置されている。支所の予算の大半は州レベルで配分されるが、特定の費目については中央から配分される (ICHHTO)。
- 計画に関し、例えば、ICHHTO 本部ではターゲット市場を特定する等の権限を有しているが、州支所では、それと異なるターゲット市場を選んで計画を作ることはできない。近年、州レベルで自由裁量できる範囲を増やしてきているが、本部が策定した目標の範囲内で計画立案することが基本である (ICHHTO)。
- 例えば、16 カテゴリーの観光施設の許認可は、かつて ICHHTO 本部の決済が必要であったが、現在は、ほぼ全てについて州レベルで許認可されている。観光施設の監督も同様で、ICHHTO が行う監督対象はわずかである。現在、マニュアル改訂の段階であるが、業界団体に監督権限を委譲する動きもある。マニュアル改訂には、大学等の研究機関も関与している。州によっては、前向きなところ、抵抗感をもっているところもある。本件対象の 6 州は、恐らく後者で、エスファハーン、ファース、ホラーサーンは、前向きである。本プロジェクトをとおして、北西部の 6 州でも業界の関与が高まってくれることを期待している (ICHHTO)。

(7) 北西部観光 M/P 策定の実施体制について

- 北西部観光 M/P は 6 州をカバーしているが、他州には及ばないという州支所の権限を考慮すると、どのような組織体制で M/P 策定を進めることが望ましいと考えているか（調査団）。
- 全国観光 M/P を UNWTO の支援で策定する準備を進めているが、それに倣った策定することを考えている。以前の全国 M/P では、イラン全土を 7 つの観光ゾーンに分け、各ゾーンの開発ニーズが明確化されている。いくつかの州では、州レベルの観光開発 M/P も策定された（但し、大半は満足でないレベルと評価）。新し全国 M/P 策定にあたっては、どのように異なるレベルの観光 M/P のリンクや整合性を担保するかを検討している。イランには連邦制の考えがなく、全国か州の 2 つのレベルしかないので、複数の州からなる地方の計画をどのように行っていくか難しい。実際には、権限（authority）と予算のふたつがなければ、M/P の承認、実施ができない（絵に描いた餅）。既に以前の観光 M/P で 7 つの観光ゾーンが作られていたことから、ICHHTO 本部では地域ごとに計画立案することとしている。例えば、ひとつの数字（Projection 等と思われる）を用いてある地方の計画を立案する、同じカテゴリーの観光資源をひとまとめにして考える、である。旅行代理店等にも、州ごとではなく地域ごとに観光プロダクトを作るよう依頼している。州ではなく地域ごとに宿泊、人材育成等のニーズを把握し計画を立てている。その下はサイトレベルになる（ICHHTO）。
- 次期支援の北西部観光 M/P も、関係州の ICHHTO やステークホルダーの参画の下、ICHHTO 本部レベルで策定する、拠点も ICHHTO 本部、という理解で良いか（調査団）。
- 地域観光 M/P は、全国レベルと同様に ICHHTO 本部の権限の下で策定するという理解で良い（ICHHTO）。
- そして、策定される北西部観光 M/P の実施は、州レベルという理解で良いか（調査団）。
- その通りである。但し、ビザ条件の変更等、州では決められないこともある。その場合は中央となる。また、省レベルでの調整が必要となる事項は、ICHHTO 本部が行わなくてはならない（ICHHTO）。
- これまでも、7 つの観光ゾーンの M/P が作られたが実施されてこなかった。北西部 DMO を作って実施するという考えはどうか（ICHHTO 国際局）。
- 州レベルの DMO を作るとしても何年もかかる。ましてや複数の州をカバーする広域 DMO であれば、もっと難しいであろう。州レベルであれば、ICHHTO 支所内に民間代表を交えた DMO を作る等のオプションが考えられる。州レベルの観光委員会があるのであれば、その監督の下で実施を担当する半官半民の組織を作ることも考えられる（調査団）。

(8) SGDs について

- イラン政府は、国連の方針について協力姿勢であるが、観光開発における SGD への貢献の具体例を教えて欲しい（調査団）。
- 持続的開発は意義を理解しているし、それを念頭において計画立案を行っているが、どの計画がどの SDGs ゴールに該当しているかを明示してはいない。また、実施段階で、どこまで達成されているかも、現時点で明言できない（ICHHTO）。
- ゲシュム島のプロジェクト等、書類上では記載されているものの、実施段階での達成度については不透明である（ICHHTO 国際局）。
- 個別の観光開発プロジェクトでは、Green hotels、ソーラー発電による SDGs への貢献等の具体例はある。しかし、全国で SDGs への貢献を謳った強い意志があるかという疑問である（ICHHTO）。
- 農村部におけるエコロッジの整備、住民の収入向上等の SDGs のゴールに寄与する成功例がいくつかあり、UNWTO へも紹介している。但し、全国で展開していると断言できるほどではない。設置済みの ICHHTO、DOE、FRWO（Forests, Range and Watershed Management Organization）で構成される Ecotourism National Board では、500 か所の村を指定し、SDGs へも貢献する活動を実施している（ICHHTO エコツーリズム）。
- 状況は理解した。常に持続的開発を念頭におき、散発的にいくつかの実践が行われているが、明文化してはいない、ということであろう。UNWTO の SDGs についてのウェブサイトを設けており、成功事例を紹介していくことはイランのイメージ向上に良いことだと思う。今後、策定される北西部観光 M/P では、提案される活動や要素と SDGs 各ゴールとの関係を明示することを提言したい（調査団）。

(9) 対象地域でのハンディクラフトの動向

- ハンディクラフトに関し、3つの重点がある。1) 教育、2) 品質向上、3) National Badge または Authenticity Certificate。Authenticity Certificate は、World Craft Council (WCC) が認定しており、ICHHTO 州支所からの推薦に基づき、ICHHTO 手工芸局がクウェートにある WCC に申請を行う（ICHHTO）。
- 認定の重要なポイントは、どの程度手作業で行われているかという点である。ICHHTO では、外国人専門家の支援も受けて推薦された候補を慎重に審査し、申請するハンディクラフトを選定している（ICHHTO）。

(10) 歴史的建造物の観光利用手続きについて

- 民間が保有する歴史的建造物は、所有者と ICHHTO の間で合意書が結ばれている。所有者が改修等を行いたい場合、ICHHTO へその旨を申請し、ICHHTO の基準や仕様に沿った工事を行う。所有者は、低利のローンを借りることができる等の特典が受けられる（ICHHTO）。
- 改修工事が終わった後、ホテルやレストランとして使用したい場合は、前述のそれぞれの観光施設のガイドラインに沿った申請を ICHHTO へ行う。但

し、モダンなレストランにしたい等、16のカテゴリーに該当しない場合は、ICHHTOではなく市役所等の管轄となる（ICHHTO）。

(11) 観光収入について

- イランでは、外国人観光客による観光収入は、UNWTOが算出した近隣諸国を含む中東地域の平均値（1,490\$/人）を使っているが、実情にあっているかどうかはわからない（ICHHTO）。
- 観光セクターのGDPはSCIと中央銀行で算出しており、ICHHTOには全国平均が伝えられるのみである。州ごとの違いはわからない。観光セクターとは観光産業であるが、ホテル、レストラン、旅行代理店が含まれている（ICHHTO）。

(12) 対象地域における他ドナーの活動について

- 全国マスタープランにUNESCO、UNWTOからアドバイザーを派遣してもらう交渉を続けているが、対象州に限ってはない（ICHHTO 国際局）。

(13) データの提供依頼

- 本日の出席者に関するデータは以下のとおり。対象州の現地調査から戻った際に提供をお願いしたい（調査団）。
 - 観光客数統計
 - 宿泊者統計
 - 観光支出（SCIの昨年度集計データ）（本調査終了までに）
 - ICHHTO本部から配分している各州支所の予算
 - 手工芸品のAuthenticity Certificateリスト

(14) JICA 中東欧州部より

- 本調査は、6月まで現地調査を行い、7～8月に最終報告書ができあがる。最終報告書は、次の第2ステップを進めるために使われる。
- 日本とイランの間の技術協力協定がまだ結ばれていない。続くステップに進めるためには、同協定が結ばれていることが必要となる。イラン側の外務省へ働きかけを続けて欲しい。

(15) ICHHTO 観光局より

- 6州との協議と視察から戻った後、テヘランで協議を再開したい。
- プロジェクトのタイトルについて、「観光開発 M/P」から「観光戦略」等への変更を検討したい。

以上（記録：磯野）

List of Participants

May 13, 2019

ICHHTO HQ

Arireza Rahimi, DG Planning and Development

Seyed Mahdi Yasini

Mohammad Ghasemi

Niloufa Yazdi

Sara Naghdi

Faranak Elyasi

Ali Pourazizi

Iraj Ghaheremany

H.Gerami

Reza kiafar

Fatemeh Ghorbani

JICA Iran Office

Farid Ghaderi

JICA HQ

Kakeru Furihata

JICA Study Team

Tetsuo Isono

Ryoko Tanoue

Mohmmad Reza Fard

Solmaz Azmude

会議議事録

| | |
|------|---|
| 名称 | 東アゼルバイジャン州現地調査 キャンドバン |
| 日時 | 2019年5月14日(火) 16:20～16:40 |
| 場所 | キャンドバン ICHHTO |
| 参加者 | <p>ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO 東アゼルバイジャン州：(別紙) ICHHTO キャンドバン：(別紙) JICA 中東欧州部：西田有一、降旗翔 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同)</p> |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO キャンドバンよりキャンドバン村の観光開発の経緯を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • キャンドバン村は、タブリーズより 50 km の距離にある。300 万年前の火山活動の結果、このような地形ができた。 • 村には全部で 713 ヶ所の横穴（住宅、家畜用を含む）がある。現地では、このような岩に横穴を掘った空間をタラーンと呼んでいる。そして通路をジャーバーと呼ぶ。 • 発掘調査の結果、人間が横穴に住み始めたのはモンゴル侵攻の後の 750 年頃前からとわかった。3,000 年前頃と思われる土器等が発見されているが、検証ができていないので未確認の状況。 • 村には、200 世帯、600 人余りが住んでいる。 • 年鑑に 150 万人の観光客が訪れる。内外国人は 5 万人に満たないだろう（※入場にあたり区分していない）。 • 横穴で最も重なっているのは 4 層で、最下層を家畜用、その上を居住用、最上階の 2 層は倉庫、等で利用している。 • 村には小学校のみで、中学校以上は 20 km 離れたオスク市の学校に通う。 • 村の周辺にはハمامや湧き水もある。 • 4 月～9 月頃まで観光客が多く訪れる。ピークは、ノウルーズの 3 月～4 月と夏休み。反対に少ないのは冬。但し、全然観光客が来ないわけではない。スキー場の適地はあるが、整備されているわけではないので、特に冬にできる活動といはない。 • ICHHTO のオフィスがあり、職員はタブリーズから通ってきている。 <p>(2) 質疑応答、協議等</p> <ul style="list-style-type: none"> • 観光客はキャンドバンで何をするか。 • 観光活動としては、地元産品のショッピング、湧き水と小川での水遊び、上流にあるキャンプ場でのキャンプ（2 泊程度、3 泊以上は稀）など。 • 観光客はどこから来るか。 • タブリーズ、オルミエ等から来る。地方のお客さん、親戚等を案内してくる |

| | |
|--|--|
| | <p>ことが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 村の産業は。 • 農業と牧畜。観光は過去 10 年に始まった。自分の家を民宿として使えるようになったのも 2 年前から。 • 村の人たちの観光ビジネスに対する考え方。 • 全員、歓迎している。観光振興が始まった頃には、自分の領域（家）に他人が入ってくることから抵抗感をもつ住民もいた。ICHHTO がワークショップ等で啓発したり、自分たちの産品が観光客に売れることで（所得向上）住民たちの考え方もポジティブになった。多くの僻地の村では、住民の都会への流出が問題になっているが、ここではそういった人口流出がない。むしろ、人口が増えて新しい建物を建てることで、独特の景観が壊れていくことが問題となっている。ICHHTO では、別の離れた土地を用意して、村の景観を壊さないようにすることを考えている。村の人たちに、ナッツやドライフルーツ、キリム等の手工芸を振興し、所得向上を図りたい。 • 観光客による問題や住民との間のトラブルはないか。 • 小さなトラブルはあるかもしれないが、大きなトラブルは聞いていない。ごみは週末に増えて問題。オスク市がほぼ毎日、収集に来て、オスク市の処分場で処理されている。排水は処理された後、農業用水として使われる。村のカウンシルでは、清掃員を雇用し清掃している。村は、国レベルの文化遺産に登録されており、UNESCO への登録も検討・準備中。 <p style="text-align: right;">以上（記録：磯野）</p> |
|--|--|

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO 東アゼルバイジャン州 |
| 日時 | 2019年5月15日(水) 11:10~12:40 |
| 場所 | TPC ホテル会議室 |
| 参加者 | <p>ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany</p> <p>ICHHTO 東アゼルバイジャン州：Mortaza Abdar 支所長他(別紙)</p> <p>東アゼルバイジャン州観光関連部局、Aras Free Trade Zone、観光産業代表等</p> <p>JICA 中東欧州部：西田有一、降旗翔</p> <p>調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude</p> <p>(敬称略・順不同)</p> |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO 東アゼルバイジャン州支所長より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • JICA 調査団を歓迎する。古い歴史をもつタブリーズで、この会議をホストできる機会をもて幸いである。観光開発 M/P に関しては初めてであるが、タブリーズは、これまでいくつかの JICA との協力を行ってきた経験がある。 • タブリーズはイスラム世界観光都市 2018 を開催したが JICA の協力も得た。日本大使の臨席を得て文化週間を開催したこともある。地震の際には東北大学地震センターとの協力を得た。第 2 回のシルクロード会議はタブリーズで開催された。今年の 8 月にも東京で都市計画の会議がある。 • 今回の出席者は、州政府幹部、Free Trade Zone、業界団体、UNESCO サイトマネージャー、ICHHTO 東アゼルバイジャン州職員である。 <p>(2) ICHHTO 本部計画・開発部 Iraj Ghaheremany 氏より本件経緯と目的の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今回の調査は基礎情報の収集が目的で、次の段階で観光開発 M/P 策定準備、そして最終段階で M/P 策定となる。 • 今回、データの提供をお願いするが、M/P のベースとなることから、データ間の整合性に注意して欲しい。 <p>(3) JICA 中東欧州部より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • イラン北西部 6 州の地域としての観光開発 M/P 策定支援を予定している。 • 今回は、準備段階として州レベルの情報を収集する。 • 5/11 から 3 日間、ICHHTO 本部で協議を行い、最終日には東アゼルバイジャンからも出席した。 • 昨日から視察を開始し、2018 年の観光年の開催を含め、タブリーズはイラン北西部を代表する町であることを認識できた。 • 厳しい国際情勢の中、観光客が増えていることも聞いている。イラン北西部の文化の多様性等の潜在力を生かし、更なる観光振興に協力していきたい。 <p>(4) 調査団より情報収集調査の概要、提供して欲しい情報・データの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4 名の調査団で 2 ヶ月の情報収集調査を行う。 |

- まず、ICHHTO がどのような M/P を考えているかを説明する。これらに限らないが、5～6 の要素を要望されている。1) 北西部の総合的観光管理、2) 観光投資の促進、3) コミュニティの参加、4) ステークホルダーの強化、5) SME、6) ナショナルブランディングと整合する地域ブランド、である。
- 2ヶ月の情報収集調査、準備段階のあと、3年間くらいで M/P を策定することになる。
- 観光開発 M/P に必要な基礎情報として、まず、どのような観光客がどのくらい訪れており、どのような観光資源、プロダクトがあるか、また人材育成の状況も知りたい。次に、地域 M/P は ICHHTO 本部レベルで各州の参加を得ながら策定されることになるが、M/P の実施は各州が行っていくことになる。従って、どのようなメカニズムで策定、実施をしていくことが望ましいかについても意見を聞きたい。最後に、JICA 以外のドナー、海外投資の状況も教えてもらいたい。
- 調査団は、6月中旬にもう一度戻ってくる。その際にはデータの提供をお願いしたい（※ICHHTO 経由で提供される予定なので、不足や不明点の確認となる）。

(5) 東アゼルバイジャン州側参加者からの現状説明

- 人材育成、観光教育分野の強化をお願いしたい。レストランは、市内の他、郊外の道路沿いにあるものもある。市内のレストランは支援が不要だが、郊外のレストランはまだ不十分で、支援が必要である。観光客をターゲットとしているレストランには、光熱費、税金の減免等の優遇措置をもらっている。東アゼルバイジャン州では約 250 ヶ所がこのような優遇措置を受けており、季節変動があるが 12,000～14,000 人が就業している。トレーニングが必要なのは、特に、接客（Public Relations）の側面である。今回、ラマダン中であるが、イフタールを見て欲しい（リクリエーション協会会長）。
- 東アゼルバイジャン州は、タブリーズ国際空港や高速道路等、インフラ整備状況が良い方であるが、将来の観光客の伸びを考えると宿泊施設の増設が必要なことから、観光関連施設の建設許可は無料で付与している（東アゼルバイジャン州都市計画局）。
- 交通インフラは観光開発に重要であるが、東アゼルバイジャン州の鉄道は約 100 年の歴史がある。鉄道会社としてできることがあれば、積極的に関与したい。今でもヨーロッパからの鉄道旅行が可能であるが、タブリーズからトルコ、アゼルバイジャン共和国のナヒチェヴァンへの新しいルート作りも考えている。Aras Free Trade Zone でイベントがある際には、タブリーズ～ジョルファ間の無料列車を運行することもある（鉄道公社 RAI タブリーズ支社）。
- タブリーズ国際空港はイラン全土にある 8 ヶ所の国際空港のひとつで、24 時間開港している最大の空港である。国際線は、イスタンブールに毎日 2～3 便、アゼルバイジャン共和国のバクー、イラクのナジャフへも毎日フライト

がある。2018年の旅客数は150万人で内25万人が国際線利用者であった。アライバルビザ、入館手続きも24時間対応している（空港公社 IAC タブリーズ空港マネージャー）。

- 東アゼルバイジャン州には Aras Free Trade Zone があるが、ゲシユム島から JICA のことを聞いている。特に、コミュニティのエンパワーメントの成果を参考にしたい。Aras Free Trade Zone は ICHHTO 東アゼルバイジャン州とも良好な関係にあり、本件の観光 M/P 策定にも協力していきたい（Aras Free Trade Zone）。

(6) ICHHTO 東アゼルバイジャン州より会議の総括

- 東アゼルバイジャン州では、目標年次 2020 年の観光開発計画を策定済で、州の観光委員会も承認済である。同計画では、エコツーリズム、ジオパーク、ブームギャルディ等を奨励しているが、策定に用いた情報やデータを提供できると考えている。
- ブランディングに関しては、タブリーズ市が外国の協力を得て進めている。
- インフラは整備されている。ホテル投資はインセンティブを用意し、全州で 62 ヶ所が進行中である。ホテルの改善、アップグレードも進めている。伝統的なホテル、モダンなホテル、ホテルアパート、3 星から 5 星ホテルもある。ベッド数は、現在、10,250 床であるが、2020 年までに 20,000 床に増やすことを想定している。
- 日本の博物館にて、タブリーズの博物館の学芸員、職員の研修をして欲しい。前回調査でも、人材育成の協力を要請した。
- 東アゼルバイジャン州としては、タブリーズに事務所をおいて観光 M/P を策定して欲しい（ICHHTO 支所長）。

以上（記録：磯野）

List of Participants

May 15, 2019

ICHHTO East Azerbaijan

Morraza Abdar *General Director
Farshad Rostami *Tabriz Deputy
S Hassan Ghoreistie *Deputy
S.Ramin Asbaghi *Manager
Mohammadreza elhawi *Handicraft Expert
Hamid Hassannejad *Tourism Expert
Fhad Nemati*Deputy of Kandovan Area
Adel Jafari
Meysam Golshan Khalili
Mohammad Alagheh Band
Javad Ejmali

Tabriz municipalty

Yusof Asadi

Railway

Shapaur Arsaleeri *General Director

Tabriz TV and Radio

Mahdi Rasi*Consulate

Aras free zone

Mehdi Abbasi*Tourism Manager

Tabriz Airport

Mohammad Ali Fazel Gharamaleki*Operation
Deputy

Grand Bazaar Tabriz

Hossein Esnaeili Sangoui *Manager

JICA HQ

Yuichi Nishida

Kakeru Furihata

JICA Study Team

Tetsuo Isono

Ryoko Tanoue

Mohmmad Reza Fard

Solmaz Azmude

会議議事録

| | |
|------|---|
| 名称 | ICHHTO 東アゼルバイジャン州 計画投資部 |
| 日時 | 2019年5月15日(水) 13:30~15:30 |
| 場所 | Heydarzadeh Historical House (ICHHTO 東アゼルバイジャン州計画・投資部) |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO 東アゼルバイジャン州 : Ahad Gahramani 計画・投資副部長 JICA 中東欧州部 : 西田有一、降旗翔 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) 東アゼルバイジャン州観光開発計画について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 東アゼルバイジャン州では、タブリーズ大学の先生等の支援を受け、5年前に観光開発計画を策定し、内閣の承認も得た。 州を北部、中央部、南部の3ゾーンに分け、48の潜在力のある観光地区を定めた。そこには52の村が対象村として含まれており、52村の開発許可も得ている。 計画は、2014-2018年と2018-2021年の2段階の期間を目標とした。2018年の観光客予測は、国内450万人、外国人50万人であった。2021年は、国内600万人、外国人200万人を目標に掲げた。 観光開発計画では、21のメガプロジェクトがあり、人材育成、マーケティング、プロモーション、ジオパーク、エコツーリズム等が含まれている(国内観光客向けの振興を進め、これを国際観光客誘致につなげる構想)。21のメガプロジェクトの下、655に細分化されたタスクが作られた。 宿泊施設のベッド数は、2017年は約8,000床で2021年は14,000床を目標とした(※午前中のICHHTO 東アゼルバイジャン州支所長は20,000床)。 世界遺産は2ヶ所であるが、2021年までに4ヶ所に増やす計画(※キャンドバンと暫定リストのアラスバラン保護区と思われる)。イラン国内に登録された観光資源は1,720ヶ所であるが、2021年までに2,000ヶ所に増やす。 手工芸のAuthenticity Certificateは10品目を取得済だが、2021年までに15に増やす計画。 博物館は、イラン全州で2番目に多く、国営が15館、民営が3館の計18館あるが、2021年までに合計で28館に増やす計画。 投資プロジェクトは、ホテル、民宿、リクリエーション等、州内60ヶ所、1,000億リアルを見込んでいる。2021年までには15ヶ所ができる予定。投資の7割は民間投資である。 民芸品の輸出額は700万ドルから1,500万ドルまで増やすことを見込んでおり、融資(マイクロファイナンス)やトレーニングの支援を計画に盛り込んでいる。 |

- 経済制裁の影響下でも開発は順調で、目標達成については楽観的。
- 東アゼルバイジャン州にははっきりとした四季があり、エコツーリズムにはもっと開発の可能性があると考えている。現状、ウィンタースポーツ、泥パック、アラス balan 保護区等の活用は不十分である。
- 今後、国内投資に加え海外投資（今は難しいと認識）に期待しており、もっと若い世代を巻き込んで開発を進める必要を感じている。
- ノウルーズに、イランからトルコへのアウトバウンドが 250 万人、国内旅行をするのが 300 万人いることから、もっと東アゼルバイジャン州にひきつけることができるのではないだろうか。
- ホテルのベッド数予測に関し、客室稼働率は州平均で 65%程度、滞在期間は 3 泊程度と認識している（※それらを算出根拠としたかは不明）。
- その他にポテンシャルのある観光として、グリーンツーリズム、メディカルツーリズム、食（※UNWTO では Gastronomy Tourism として提唱）、文化の多様性、民芸品、ボーダーツーリズム（Aras Free Trade Zone）、スキー場（2ヶ所）、ラフティング等が挙げられる。
- 観光開発計画は、テクニカルコミッティを設置し、タブリーズ大学や民間からの意見を取り入れ、PBO 東アゼルバイジャン州の財政面の担保の下で策定した。東アゼルバイジャン州の Supreme Planning Committee の承認をもって正式な州の計画となった。
- 観光開発計画の実施状況モニタリングは、ICHHTO 東アゼルバイジャン州の計画投資部が書式に則り 3 ヶ月ごとに実施。PBO 東アゼルバイジャン州が 6 ヶ月毎に評価を行い、毎年の年報に掲載するメカニズムとなっている。

以上（記録：磯野）

会議議事録

| | |
|------|---|
| 名称 | 東アゼルバイジャン州現地調査 Aras Free Trade Zone |
| 日時 | 2019年5月16日(木) 10:00~14:30 |
| 場所 | Chupan Chapel, St. Stephanos Church, Caravanserai Khaje Nazar, Golfaraj Ecomuseum |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany Aras Free Trade Zone : (別紙) 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) Aras Free Trade Zone (AFTZ) について</p> <ul style="list-style-type: none"> • AFTZ は、2003 から 2005 年にかけて開設され、アラス川に沿って 510 平方キロメートルの面積を有し、イランに全土に 7 つある Free Trade Zone の一つである。 • AFTZ の主な経済活動は、商業、工業、農業、観光の 4 つである。 • アゼルバイジャン、アルメニアと国境を接し、アゼルバイジャンからは毎日 1,000~1,500 人、アルメニアからは 300~400 人程度が入国する。AFTZ の入国者数は、テヘランのエマーム・ホメイニ国際空港に次ぐ人数規模である。アゼルバイジャン、アルメニア国籍だけではなく、ドイツ、ベルギー、ロシア、イタリア、フランス等の主要なヨーロッパ諸国からの観光客も入国する。 • AFTZ としては、観光客がよりスムーズに入国できるよう関係機関と努力している。 • AFTZ 内にジオパーク作りも初めている。来年、申請手続きを予定している。そのためゲシュム島からの協力も得ている。 • AFTZ は、文化遺産の修復も積極的に行っている。技術面は組織内に有していないため他機関等に依存するが、予算面を担保している。 • また、AFTZ 内に滞在してもらうため、ホテル建設にも力を入れている。数年前までベッド数は 600 床であったが、現在は、2,000 床を超えた。 • 道路も St. Stephanos Church までは整備した。 • アラス川は、アゼルバイジャン共和国へ入り、最終的にカスピ海に注いでいる。時々、溺れる人がいるが、洪水等の災害はない。治安も良い。 <p>(2) 世界遺産 Armenian Monastic Ensembles of Iran について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4 つの教会群で構成され、2008 年に登録された。内 3 つが AFTZ 内にある。ひとつが Chupan Chapel、11 世紀の建設で最も有名な St. Stephanos Church、更に西に St. Mariam Church の 3 つである。 • ICHHTO から AFTZ 内の文化遺産の管理運営を任されている。7 つの Free Trade Zone の中でも ICHHTO と最も密接な関係がある。 • 現在も、アルメニア系イラン人職人などが働いて修復を続けている。 • Abbas Mirza がアルメニア系住民コミュニティに土地を与えたが、そのため、 |

St. Stephanos Church の細部にはイスラム的なデザイン要素が見られる。入口のドアもサファビー朝のものであるが、イスラム的な寄木細工である。

- 修復は、UNESCO とイランのアルメニア教会の同意を得て行っている。

(3) Caravanserai Khaie Nazar について

- Abbas Mirza は全国に 999 のキャラバンサライを建設し、交易を振興した。
- AFTZ が修復を依頼された際には、北面の壁のみが見え、他は埋もれていた。元々は、アラス川の対岸にもキャラバンサライがあり、ここを通り、黒海を経てヨーロッパへつながっていた。
- 修復されたキャラバンサライには、レストランと陶器製作のワークショップが入っている。雇用創出に寄与しており、賃料、ワークショップの電気代も AFTZ が負担し無料。
- 陶器ワークショップは個人経営で、従業員（ここで 4 人、別のワークショップで 24 人）を雇って陶器を作っている。陶器は型に流し込んで成形し、穴をあけ、色をつけて焼く方式。AFTZ の記念品、トルコからの受注の記念品等でビジネスになっている。観光客はあまり買ってくれない。

(4) Golfaraj エコミュージアム

- AFTZ は、ジオパークに関連して滝を見せたかったが、昨日の ICHHTO 東アゼルバイジャン州での会議で住民参加の話題がでたことから、エコミュージアムの事例を見せてくれることになった。
- Golfaraj 村ではかつて違法な狩猟が横行していたが、FTZ の支援の下、村人たちが、化石、はく製、古い道具、アンティーク等を持ち寄り、A 博物館を作った。その他、けがをした鷲を 4 羽保護している。素朴ながらミュージアムショップもあり、住民たちの作った手工芸品が売られている。

以上（記録：磯野）

List of Participants

May 16, 2019

| | |
|--|---|
| ICHHTO Headquarters | Iraj Ghaheremany |
| (Aras Free Zone) | Mehdi Abbasi*Turism Manager Akbar Hematpour*Expert of Tourism and Cultural heritage Abolfarj Ranijlar Davar Esmaeili |
| (Chupan Church) (The Monastery of St Stepanos) | NA Hojjat Siami*Manager Mr Razmigh*Charch guide Mr Goli*Repair Expert |
| (Khajeh Nazar Carvansaray) (Gofaraj Ecomuseum) JICA Study Team | Mr Eskanedawi Iskenser Abdalli Tetsuo Isono Ryoko Tanoue Mohmmad Reza Fard Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO 西アゼルバイジャン州 |
| 日時 | 2019年5月18日(土) 10:30~12:50 |
| 場所 | TPC ホテル会議室 |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO 西アゼルバイジャン州 : Jalil Jabbari 支所長他 (別紙) 西アゼルバイジャン州、空港、水資源、鉄道、ガイド協会等 (別紙) 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO 本部計画・開発部 Iraj Ghaheremany 氏より本件経緯と目的の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前回と同様、本件の経緯と本調査の目的を概説した。ICHHTO へ提出前するにデータの整合性を確認して欲しい旨を強調した。 <p>(2) ICHHTO 西アゼルバイジャン州支所長より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • 歓迎の挨拶に続き、西アゼルバイジャン州の観光開発に係る部局に会議に参加してもらっている旨を説明。 • 西アゼルバイジャン州は、全国でも観光開発の優先度が高い州。世界遺産のガラキリサとタフテスレイマンやバスマン城等の文化遺産がある。加えて、自然資源、遊牧民等の文化の多様性もある。Free Trade Zone もある。 • 空港は、オルミエ、Free Trade Zone、ホイの3ヶ所にある。 • 国レベルでも、西イランの観光開発 (※エコツーリズム・農村ツーリズム) を検討しており、JICA 支援の北西部とも重なっている。 • トルコとも国境を接しており、東アジア市場からの関心の高いシルクロードの修復も潜在力があると思う。 • 本件を州知事にも説明済で、積極的に協力していきたい。 <p>(3) 調査団より情報収集調査の概要、提供して欲しい情報・データの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5/11~13にICHHTOでキックオフミーティングを行った。 • まず、ICHHTOがどのようなM/Pを考えているかを説明する。これらに限らないが、5~6の要素を要望されている。1) 北西部の総合的観光管理、2) 観光投資の促進、3) コミュニティの参加、4) ステークホルダーの強化、5) SME、6) ナショナルブランディングと整合する地域ブランド、である。 • 2ヶ月の情報収集調査、準備段階のあと、3年間くらいでM/Pを策定することになる。 • 観光開発M/Pに必要な基礎情報として、まず、どのような観光客がどのくらい訪れており、どのような観光資源、プロダクトがあるか、また人材育成の状況も知りたい。次に、地域M/PはICHHTO本部レベルで各州の参加を得ながら策定されることになるが、M/Pの実施は各州が行っていくことになる。従って、どのようなメカニズムで策定、実施をしていくことが望ましい |

かについても意見を聞きたい。最後に、JICA 以外のドナー、海外投資の状況も教えてもらいたい。

(4) 西アゼルバイジャン州側参加者からの現状説明

- 3ヶ所の空港があるが、1ヶ所は Free Trade Zone が管理。オルミエ国際空港が最大。イスタンブールへ週3便の定期便がある。ヨーロッパへの路線もある。もっと発展する可能性があるかと期待している（空港公社オルミエ空港マネージャー）。
- 州内にはダムや堰があり19ヶ所は観光利用が可能。ハサンルーダムとシャーチャイダムの近くで、しっかりとした観光開発計画ができれば土地提供等の協力ができる。マハバダムでは、今年のノウルーズに、7万人の観光客が訪れた。別の場所でも2万人が訪れた。通年流れのある川も観光資源となるのではないかと思うが、環境保全への配慮が必要（水資源管理公社）。
- 州の放送局では、観光プロモーション番組を制作・放映することが役割のひとつとなっている。観光投資のプロモーションとしてまだ知られていない観光地の紹介もやっている（州放送局）。
- 西アゼルバイジャン州の鉄道は、アゼルバイジャン鉄道会社として東アゼルバイジャン州と共に、約1,000 km の営業路線がある。アゼルバイジャン共和国、トルコとの国際路線もある。1,000 km の内300 km が西アゼルバイジャン州にある。年間300万人が利用している。テヘランからの列車も週3便、西アゼルバイジャン州まで来ている。タブリーズとトルコのヴァンの間は、週1便が走っている（鉄道公社RAI オルミエ支社）。
- 観光ガイドは、資格を持つものが60人いるが、実際に働いているのは三分の一程度である（ガイド協会）。
- 農業分野はJICA と長い協力関係がある。数年前にも一村一品のワークショップがあり、ポテンシャルのある村を本省へ紹介した。オルミエ湖の濁水に伴い農業ができなくなり、ブームギャルディなどの観光ビジネスをやろうという人たちもいる。農業局には農村振興や地場産品開発の目的で普及員がいるので、ファシリテーター等の協力が可能である（農業局）。

(5) ICHHTO 西アゼルバイジャン州より会議の総括

- 西アゼルバイジャン州では、オルミエ湖の濁水問題と代替え収入の創出、UNWTO との協力によるエコツーリズム・農村ツーリズムの準備もしており、それらの基礎データも役に立つのではないかと思う。

以上（記録：磯野）

List of Participants

May 18, 2019

| | |
|------------------------------------|--|
| ICHHTO Headquarters | Iraj Ghaheremany |
| ICHHTO West Azerbaijan | Jalil Jabbari*Director General Vadood Fakhari Hassan Sepehrfew Mohammad Abdehie Afsane Vanjbav |
| Urmia Airport | Ahmad Gholamreza*Deputy |
| Regional Water Co. West Azerbaijan | Babak Niknia Parvn Ahnedi |
| IRIB Local TV | Jeofoir Raesae Hadi Jabbardokht |
| Azerbaijan Railways | Ali Reza Soleimani |
| Tour Guide Association | Akbar Jabbari |
| Economic Affairs | Habibi Torbati Naser Shirzadeh |
| Water Office | Motteza Gholizadeh |
| Urmia Municipality | Azhdar Hosseini Amin Salmanian |
| DOE | Hamid Renaghad Ahreza Lotfi |
| Hotel Association | Reza Sabounchi |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono Ryoko Tanoue Mohammad Reza Fard Solmaz Almide |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | 西アゼルバイジャン州現地調査 Maku Free Zone |
| 日時 | 2019年5月19日(日) 16:00~16:30 |
| 場所 | Maku Free Zone Head Office |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO 西アゼルバイジャン州 : Vadood Fakhari *Expert Eco tourism Maku Free Zone : Hemzelou 社会・文化・観光担当次官 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) Maku Free Zone (MFZ) について次官からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • Maku 市を本拠地とし、3つの市、6つの町を含み、5,000平方キロメートルの面積と、規模ではイラン最大の Free Zone。7年前から Free Zone の活動が開始されている (※2012年頃)。 • トルコとアゼルバイジャン共和国ナヒチェヴァン地区と国境を接している。どちらも、言語、文化的、社会的に似ている。 • 人口 20 万人で、内農村人口は 3 割。 • Free Zone 総裁の下、4人の次官がおり、1名(本人)が社会・文化・観光を担当している。観光をひとつの経済活動の柱としている。 • ゾーン内の観光開発は、地質学的、文化的に価値のある資源を中心に開発していきたい。山と高原、湖、湿地などの自然資源にも恵まれている。ウラルトルエジャ時代から残っている遺跡、城もある。 • Maku は山脈に挟まれた地形であるが、山上に史跡がある他、市内にはガジヤール朝時代の宮殿はロシアとイランの建築様式がミックスされたものである。宮殿に住んでいた将軍はイランの歴史上も有名である。サンギヤルという歴史的に価値の高いコンプレックスもある。温泉も出ており、現在、開業準備中である。ショットには洞窟もある。ナヒチェヴァン国境地域にはとても美しい湖がある (※アララト山が背景の写真パネルがあった)。アシールという伝統音楽、地元料理、手工芸も観光資源になる。 • 住民のホスピタリティも高く、250ヶ所の村の内、クライテリアに沿って10ヶ所を観光開発優先村に選定した。10ヶ所の村の内、5ヶ所は既にブームギヤルディの運営を始めており、先のノウルーズには300人が泊まりにきた。本会議の後、その内のひとつを視察してもらう予定である。 <p>(2) 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10ヶ所の観光開発優先村の選定はどのようなクライテリアを用いて選んだのか(調査団)。 • メインロードからのアクセス、歴史的サイト等の観光資源の有無や価値、基本インフラ、インターネット等の通信設備、住民の観光開発に対する意識 |

(willingness) などである (次官)。

- 住民の観光開発に対する意識は重要な要素であるが、どのように Willingness を評価したのか (調査団)。
- 正直なところ、遊牧民等の伝統的な生活が強く残っていることから、都会の観光客を受け入れることに抵抗感があったり、摩擦がおきたりすることに不安があった。そこで、50 人程度のブロガーに村をまわってもらい、ブログコンテストを行った。2~3 の村は、抵抗感から、あまり良いブログとならなかった。それらを除いた村は合格であった (※ブログコンテストで合格した村の数は不明) (次官)。
- 一群のクライテリアの総合評価で 10 ヶ所が選ばれたと理解。ブロガーを村に送り、住民の Willingness を評価する方法は斬新で、イラン人の新しもの好きが発揮されていると感じた (調査団)。
- また、農村部では遊牧を生業としているが、水資源の減少から代替えの収入創出が課題でもあった。優先村には低利の融資等のインセンティブが用意されたので、村人もブームギャルディの運営や観光開発に前向きになったと推測される (次官)。
- 一般的に、観光客は住民よりも水を多く使う、観光開発をすることで水資源不足が進んでしまう危険性もあるのでは (調査団)。
- Free Zone に来る観光客のデータはどのように集めているか (ICHHTO 本部)。
- 入国者数は入管 (Immigration Police) から。国内観光客のデータは、Free Zone の 2 つのゲートで測っている。今年のノウルーズには 75 万人が入場した。宿泊客数は、5 万人を予測していたが、全国的な洪水の影響もあり、2 万人程度であった (昨年にも比べても減少気味)。宿泊者数は、Free Trade Zone が調査員を雇い、各宿泊施設へヒアリングした。一部は、オンラインブッキングサービスのデータを活用した。Free Trade Zone では、e コマースも準備中である。年間のイベントカレンダーも決め、予算も確保している (次官)。

以上 (記録：磯野)

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO アルダビール州 |
| 日時 | 2019年5月20日(月) 09:00~11:30 |
| 場所 | TPC ホテル会議室 |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO アルダビール州：Nader Fallahi 支所長他(別紙) アルダビール州観光関連部局：空港、都市計画、水資源等(別紙) 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO アルダビール州 Focal Point より参加者へ本件概要の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/12のICHHTO テヘランでの会議の報告 州内でエコツーリズムの振興、世界遺産暫定リストの掲載されているサバラン山の世界遺産登録への支援も期待している。 州内にはアゼルバイジャン共和国との国境検問所が2ヶ所ある。 M/Pで解決したいアルダビール州の課題として、トランジット客の滞在期間を延ばすこと、国内・国際ともに観光宣伝・紹介の強化、地域住民やステークホルダーのエンパワーメント、新しい観光ルート作り等がある。また、アルダビール州の特徴を生かした新しい観光プロジェクトの創出も期待。 住民の啓発、雇用創出、持続的な観光資源の活用、住民の参加、SME振興、ナショナルブランディングと整合した地域ブランディング等で、JICA支援の目指すものと共通の目的があると認識している。 シルクロード、エコツーリズム、アグロツーリズム、ヘルスツーリズム、農村ツーリズム等を中心に考えたい。 JICA研修に参加したImani職員もFocal Pointとして紹介したい。また、明日のサイト視察には、ICHHTO本部からDr. Yousefiも合流してくれる。 今日と明日のサイト視察には、世界遺産のSheif Safi Ad Din、エコツーリズムのサイトとしてファンドールという森林、州で最も古い町であるMeshgin Shahr(※次回訪問時にしてもらうこととした)、温泉のSarein、サバラン山と洞窟、ウィンタースポーツ開発を予定するアルワーズ等を予定している。 <p>(2) ICHHTO アルダビール州支所長より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> 北西部6州にギーラーン州を加えた地域がイランの新しい観光ルートになることを確信している。 2018年、アゼルバイジャン共和国からイランへの観光客は145万人を記録した。しかし、観光産業の視点からみると、そのフローを活用できていない。 |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> • 参加者には、こんなに魅力があるということよりも、チャレンジや問題点を発現して欲しい。 • 私自身は、アルダビール州は、東アゼルバイジャン州、西アゼルバイジャン州、ギーラーン州等の北西部回遊ルートに不可欠な州だと考えている。 • エコツーリズムであれば、サバラン山の麓には 110 ヶ所の温泉、古い遺跡もある。遊牧民の伝統的生活も残っている。15 年前から暫定リストのままのサバラン山の世界遺産登録への支援をして欲しい（※アルダビールの人々はサバラン山への思い入れが強い）。 • 6 つの州をある協力メカニズムでプロジェクトを動かしていくとすれば、サバラン山は東アゼルバイジャン州にまたがっており、このプロジェクトのメカニズムを活用することが期待される。 <p>(3) ICHHTO 本部より</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既に ICHHTO アルダビール州より説明されたように、北西部地域の観光開発 M/P 策定の基礎情報の提供をお願いしたい。 <p>(4) 調査団より情報収集調査の概要、提供して欲しい情報・データの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • JICA が北西部 6 州の観光開発 M/P 策定支援を行うプロジェクトは決まっているが、そのような広い地域でどのように実現可能な計画を作るかは課題である。2 ヶ月間で実施するこの調査は第 1 ステップであり、通常 3 年間程度続く第 3 ステップのプロジェクトの枠組みを、第 2 ステップで決めるための重要なステップだと理解して欲しい。 • パイロットプロジェクトも、6 州共通のものや、特定のテーマの下で州ごとに違うものも選ばれるかもしれない。 • 今回の調査で収集したい情報として、どういう観光客がどのくらい来ているか、どのような観光資源がありどのように利用されているのか、を知りたい。次いで、観光客を受け入れる観光人材の状況を教えて欲しい。また観光行政や観光資源の管理について、効果的に行われているか、難しい点はないか、も知りたい。最後に、観光関連のドナー、海外投資の状況も教えて欲しい。 <p>(5) アルダビール州側参加者からの現状説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 空港調査の際には協力する。日本における空港と旅行代理店等の協力の事例を教えて欲しい（空港公社アルダビール空港管理局）。 • 日本では、空港で共同イベントの開催や名古屋のセントレアのように空港内に温泉を設けた事例がある（調査団）。 • 州には標高や地形による 4 つの異なる気候帯がある。また、多くの薬草も自生しているので観光に生かせるのでは（アルダビール州計画局）。 • ICHHTO アルダビール州が観光資源の情報を取りまとめ、JICA 調査団に提供するので、観光資源の話よりも、チャレンジや課題を話して欲しい |
|--|--|

| | |
|--|---|
| | <p>(ICHHTO 支所長)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WWF が音頭を取りコーカサス地方エコシステムの定期的な環境ワーキンググループをジョージアで開催している。イランからは、アルダビール、東アゼルバイジャン、西アゼルバイジャン、ギーラーンの4つの州が参加している。エコツーリズムの話もしている (※WWFによると <i>Caucasus and the Critical Ecosystem Partnership Fund (CEPF)</i>)。 (DOE)。 • 2006年にJICAの研修に参加した8名のひとり。当時、日本がインバウンドを増やすために「ようこそ Japan」キャンペーンを実施していた。その結果、日本のインバウンドは継続的に増加した。その経験を伝えて欲しい (ICHHTO アルビール教育担当)。 • イラン外務省は、国境を接する全州にオフィスをおいている。役割には、外交をとおして輸出促進と観光振興が含まれている (外務省アルダビール州オフィス)。 • JICAのエコツーリズム研修に参加した。日本では、エコツーリズムをシステムチックに運営していた。イランでは資源があるのに、上手に生かしていない。また、エコツーリズムが地元住民に裨益していない。エコツーリズムのインタープリテーションも弱い。地元住民は不満が溜まる一方というのが実情である。日本の経験を生かしてより良いエコツーリズムにしていきたい (ICHHTO Mehgin Sahr マネージャー) • ヘルスツーリズム、メディカルツーリズムについて、ICHHTOへ助言を行っている。アルダビール州はヘルスツーリズムについてポテンシャルが高い。Sareinには、多様な泉質の80の温泉があり、世界でもトップレベルのヘルスセンターになり得ると考える。その点で助言等を期待する (ICHHTO 支所長アドバイザー)。 • アルダビールは中央アジアのゲートウェイであり、<i>Tourism Diplomacy</i> という方針を立てた。観光開発公社は、ICHHTOが100%株を保有し、ホテルを運営し、マーケティングもしているのので、パイロットプロジェクトで関わっていききたい (アルダビール観光開発公社)。 • NGOであるが、ICHHTOからホテル、観光施設の評価、民芸品の改善への役割を与えられている (NGO)。 • アルダビール州は、サッカーや重量挙げでオリンピック選手を輩出してきており、スポーツが盛んである。スポーツを活用した観光振興が考えられれば協力したい。ICHHTO支所長は、アルダビールのバレーボール協会の会長も兼任しており、アルダビールは9月に開催されるアジア選手権の会場のひとつとなっている。その他、州内には、冬のスキー場に加え、夏にもできるグラススキーのポテンシャルがある。ゴルフ場も可能性が高い (州スポーツ局)。 • 今回の調査には、宿泊施設の質と量の評価も含まれるのか。また、含まれ |
|--|---|

| | |
|--|---|
| | <p>ているのであれば、その分布も検討するのか（州都市計画局）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • M/P では、量のみでなく、質や分布も言及されることになるが、今回の調査では格付けごとの量の情報だけで十分である（調査団）。 • アルダビール州には交通手段として道路と空路の2つしかなく、道路はより重要な手段である。より安全な道路にすることも必要だと思う。また、シルクロードの関係で整備すべき道路など、今回調査で必要な情報があれば提供する。（州道路局）。 • 今の段階で道路情報の提供は不要であるが、M/P が策定される段階では、エコツーリズムや新観光ルートに関連して、改善や新設して欲しい道路がでてくる可能性があるだろう（調査団）。 • 森林と牧草地を管理しているが、エコツーリズムに関連して協力していきたい（水・自然管理局）。 • 滞在期間を延ばすためにどのような方法があるか（旅行代理店協会）。 • 先ず、観光客側で旅行期間の制約があることを認識する必要がある。例えば、2週間の休暇でイランを訪れる場合、最初はいろいろな所を見てみたいというのが普通である。従って、リピーターを増やす努力が必要。アルダビールが良かったと思って再訪する観光客は、より長く滞在する。また、受け入れ側の努力としては、町の中の回遊性を高めることが必要。遊歩道を作っているのを見たが、とても有効である（調査団）。 <p style="text-align: right;">以上（記録：磯野）</p> |
|--|---|

List of Participants

May 20, 2019

ICHHTO Ardabil

Nader Fellahi *General Director
Soghra Farshi(Mrs)*Deputy
Yaser Ranaiee Hassan Ghoreistie *Deputy
Imanali Imani
Jahangir Shahbazi
Mesud Lahut
Seyed Khalil Hoseyni
Ashkan Shikari
Sajjad Mohseni
Seyed Sadeg Hoseini
Abdolrahim Valiyari

Foreign Affairs

Rahim Zharfi

Mr. Moffateh

Ardabil Airport

Fakhradin Hashemi

Ardabil City Government

Hosein Vafdoost

Environmental Protection Office

Yusef Mehdizadeh

Travel agency

Simin Gheibi

Mrs.Farshi

Ardebil University

Mehran Asayeshi*Medical science

Culture and Islamic Guidance

Morteza Balav

Ministry of Sports and Youth

Akbar Voroud

Roads and Urban Development

Yusef Baghrzadeh

Transportation Administration

Reza Shirinzadeh

National Resources and Water Resource Administration

Leila Nemati

JICA Study Team

Tetsuo Isono

Ryoko Tanoue

Mohmmad Reza Fard

Solmaz Azmude

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | アルダビール州現地調査 Hotel Association |
| 日時 | 2019年5月21日(火) 8:30~10:00 |
| 場所 | Sarein Royal Hotel Meeting Room |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO アルダビール州 : (別紙) アルダビール Hotel Association : Bazri 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) アルダビール州 Hotel Association から現況の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • アルダビール州には217の宿泊施設がある。内、32がホテル、88がホテルアパートメント。残りはブームギャルディ等である。宿泊施設の8割がサレインに集中。ベッド数は15,000床で、内12,500床がサレインにある。 • 上記の宿泊施設の他、200ヶ所ほどの民泊もある(ベッド数は5,000程度)。民泊は、通年営業ではなく、ハイシーズンのみ開業していることが多い。 • 年間に700~800万人がアルダビール州に来るが、大半は国内観光で、特に周辺地域からの観光客が多い。 • 標高が高く、美しいサバラン山の景観がある。サバラン山は火山で、その結果、温泉が多く湧いている。 • サレインの湯量は豊富で、市内のゲームシュクリという源泉は湯量が秒あたり60リットル。市内には合計で10ヶ所の温泉施設があるが、距離も近いのに、それぞれ異なる泉質である。 • 健康に敏感な人たちが、何度もサレインやアルダビール州を訪れる。また、遊牧民の生活や産品、11月半ばから4月まで雪のあるスキー場、古い村、滝、炭酸水の泉、名産のはちみつ(モガン平原や遊牧民)、郷土料理等の補足的な観光アトラクション、プロダクトも楽しめる。 • しかし、近隣地域からの観光客が多いため、長期滞在者は少ない。多くは、36~48時間の滞在である。 • ハイシーズンはノウルーズ期間で年間の約3割が集中する。夏休みの3ヶ月間も多い。冬は、ウィンタースポーツができるにも関わらず、夏には遠く及ばない。 • それでも、全国31州と2つの島のFree Zone(キシユ、ゲシム)の中で、アルダビールは3番目に宿泊施設が多い州となっている。市のレベルでは、サレインは、年間を通じて巡礼客の多いマシャハドに次ぐ2番目に宿泊施設が多い市となっている。 <p>(2) 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> • サレインでは季節変動が大きそうで、従業員の通年雇用等が困難等の問題が |

想像されるが、実際、どのような問題があり、どのように対応しようとしているか（調査団）。

- 時期によって観光客の変動が大きいですが、4星以上のホテルでは従業員の通年雇用は問題ない。社会保障もしっかりしている。しかし、格付けの低いホテルでは、そのような問題があり、季節雇用のために質に問題があるケースも散見される（ホテル協会）。
- 関連した困難として、特に冬季にアルダビール空港が気候の関係で閉鎖されることが多い。テヘラン、タブリーズ、ギーラーンからの陸路も、どれも峠越えの道のため、積雪等で閉鎖されることもある。それによる宿泊キャンセルが悩ましい。鉄道の開通を期待している（ホテル協会）。
- ホテル関連の海外投資や技術提携はあるか（調査団）。
- サレインは、今では賑やかな観光都市になっているが、20年前までは僻地の様相であった。政府が行ったインフラ整備については承知していないが、ホテル建設に関しては、国内投資だけで発展してきた。近年、政府からは、外資導入を進めるように求められており、土地の用意等の努力は始めている。技術提携とは言えないが、ヨーロッパ在住や住んでいたイラン人がドイツなどの温泉施設の進んだ点を取り入れていることはある。その場合でも、設備や機器は中国製が多いようである（ホテル協会）。
- スパにセラピストが配置されているのを見たが、従業員のトレーニングも国内で行われているということか（調査団）。
- 国内の訓練施設でトレーニングを行い、保健省の資格を取る必要がある。元々、スポーツマッサージを学んだが、より就職機会が多いスパに転向するケースが多いようだ（ホテル協会）。

(3) 地熱発電について

- 本題ではないが、サバラン山の西側のメシュキングシャーや北側のモエル村等で、ミネラル分はないものの高温の温水が見つかっている。8ヶ所で地熱発電をしようと計画しているが、発電機等の必要な機械の調達が制裁の影響で止まっている（ICHHTO アルダビール州）。

以上（記録：磯野）

List of Participants

May 21, 2019

| | |
|------------------------------|----------------------------|
| ICHHTO Headquarters | Iraj Ghaheremany |
| ICHHTO Ardabil | Imamali Imani |
| ICHHTO Sarein | Mr. Seyed Mohseni |
| ICHHTO Research Organization | Mr. Yousefi *Archaeologist |
| Ardabil Hotel Association | Mr. Bazri |
| (Destkend village) | NA |
| (Alvers village) | NA |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono |
| | Ryoko Tanoue |
| | Mohammad Reza Fard |
| | Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO ザンジャー州 |
| 日時 | 2019年5月22日(水) 10:45~13:00 |
| 場所 | ICHHTO ザンジャー会議室 |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO ザンジャー州：Yahya Ahamadi 支所長他(別紙) ザンジャー州観光関連部局：ザンジャー市役所、州、業界団体等(別紙) 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO 本部 Ghaheremany 氏よりプロジェクトの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの経緯、目的等をこれまでの対象州に準じて説明。 <p>(2) ICHHTO ザンジャー州支所長より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> 支所長より、参加者の紹介。 ザンジャー州は、イラン北西部のトランジット地点として観光に寄与してきたが、観光目的地＝デスティネーションとしての地位を確立しようと努力しているところ。 地形や気候の多様性がある。郷土料理の多様性もある。これらを生かし、イベントを開催している。13年前からアーシュという郷土料理のイベントを毎年開催しており、昨年は毎日12,000人が入場した。また、ECOシルクロードというイベントを、トルコ、アゼルバイジャン、中央アジア諸国、中国と持ち回りで開催しており、第5回が昨年5月にザンジャーで開催された。毎日、3万人が入場した。その結果、ザンジャーは、郷土料理の町として知られるようになった。 こうした努力の結果、ホテルの稼働率が32%から63%まで向上した。また、観光関連の投資も期待できる状況になってきた。 刀やナイフのメタルワークをはじめとする手工芸も、国でトップレベルとして認められている。手工芸品の店の数は、2013年の86軒から、現在は411軒まで急増した。 手工芸以外の観光関連分野でも就業機会が増えてきており、観光振興を進めていきたい。 郷土料理イベントに関して2本のビデオクリップを上映したい。 <p>(3) 調査団より情報収集調査の概要、提供して欲しい情報・データの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 北西部6州の観光開発M/Pの策定支援の要請を受け、JICAがICHHTOを支援することは決定済みである。但し、2ヶ月間で情報収集を行う本調査は、プロジェクトの第1段階である。本調査の結果を用いて、第2段階でプロジェクト枠組みを協議し、第3段階の実施につながる。 |

- JICA の特徴として、単に計画策定を支援するだけではなく、日本での研修やパイロットプロジェクトの実施を通じた技術移転にある。
- 今回の調査で収集したい情報は、先ず、どういう観光客がどのくらい来ているか、どのような観光資源がありどのように利用されているのか、である。次いで、観光客を受け入れる観光人材の状況を教えて欲しい。また観光行政や観光資源の管理について、効果的に行われているか、難しい点はないか、も知りたい。最後に、観光関連のドナー、海外投資の状況も教えて欲しい。

(5) ザンジャー州側参加者からの現状説明

- ブランディングに関し、ザンジャーでは既にロゴを作りブランドの検討を開始している (ICHHTO 支所長)。
- 観光は平和を広めているツールと考えている。人類の共通点を大切にし、ヒューマニズムを広めたい。JICA の技術協力には、それを支援してくれることを期待したい。州では、農村ツーリズムや農村開発を調査・計画している。また、個人レベルで、ヘルスツーリズムを進めようとしているデベロッパもいる。ブランディングに関しても、情報交換をお願いしたい。また、観光から離れるが、日本の JT の投資により 300 人くらいの就業機会が創出された。感謝したい (ザンジャー州投資局長)。
- ザンジャー州には 21 の市町がある。州都であるザンジャー市と、もうひとつの市であるアブハール市は商業が盛んだが、ソルタニーエは観光だけが産業である。ザンジャー市について言えば、ガバザンクという地区を紹介したい。現在の面積は約 100 ha だが、440 ha くらいまで拡張される計画である。市の北側の高台に位置し、街を展望できるし、郷土料理のイベントを行った展示場もある。ガバザンクは 14 のブロックに分かれており、それぞれの土地利用計画も確定している。ホテル用地もあり、投資を募る準備が整っている (ザンジャー市投資部)。
- ザンジャー市は、2 年前より投資分野ごとの実現性調査をしている。作成済みの投資パッケージを提供する。国際機関による支援として、UNHABITAT が挙げられる。ECO の文化分野の協力により、UNHABITAT へ Sustainable City の申請書を提出、ジュネーブでプレゼンテーションすることになっている (ザンジャー市投資部) (※ECO=Economic Cooperation Organization、主に中央アジア諸国がメンバー)。
- 15 年前から ICHHTO と連携し、観光開発分野で活動している (観光開発公社)。
- ホテル協会が持っているデータを ICHHTO へ提供する (ホテル協会)。
- 私自身は 22 年前から旅行代理店を運営している。州内には 56 の旅行代理店がありエコツーリズムのオペレーターやブームギャルディに特化した代理店もあるが、多くはイラン人のアウトバウンドとチケットングを主た

- る業務としている。インバウンドは、イランが危険な国だというイメージが広がっており経営が難しい。M/P がイランのイメージ向上に寄与してくれることを期待している。M/P への協力は惜しまない（旅行代理店協会）。
- 確かに、イランの間違ったイメージが足かせになっているが、実施の観光の状況はそれほど悲観的ではない。例えば、2013年のソルタニーエの入場者数はわずか986人であったが、昨年は7,500に達した。勿論、満足できる数字ではないが、着実に伸びていることも確かだ（ICHHTO 支所長）。
 - ガイド協会の会長以外に、観光に関する職業訓練校のマネージャーを兼ねている。州内には300人の有資格ガイドがいるが、活動しているのは半数程度。観光ガイドの大半が27歳以下の若者、どちらがメインかを問わず、ほぼ全員が兼業である。ICHHTO が博物館職員等を募集する際、ガイド協会のメンバーを推薦することもある。ガイドの分野は、文化歴史、エコツーリズム、ヘルスツーリズム、ローカルの4種類ある。今後、天文や地理といった専門分野も必要になるであろう。人材育成が重要なことに共感する。ガイドに加え、旅行代理店のマネージャー、ホテルのマネージャー、チケットの操作等の観光教育が必要（ガイド協会）。
 - 求められたデータをICHHTOへ提供する（レストラン協会）。
 - SITを案内しており、チーム内に英語や日本語ができるガイドもいる。E-marketingをやっていて、仕事の依頼もそれ経由でくる（Archaeologist 兼ガイド、オペレーター、NGO）。
 - ザンジャー州は108軒のブームギャルディがあり、全国で4番目に多い。アブハール郡のダールサジン村でイラン初のブームギャルディを作った。我々の専門がエコツーリズムで、近くにキャタルホール洞窟があったことからプロジェクトを行った。また、文化歴史とエコツーリズムのルートを基に、将来的にどのエリアのポテンシャルが高いか調査を行い、ザンジャー市、タロン郡、マーネシャン郡のポテンシャルが一番高いと評価した。現在、ザンジャー市、マーネシャン郡で、エコツーリズムとジオツーリズムを主な要素として新しい観光ルートを作ろうとしている。加えて、キャタルホール洞窟の評価調査も行っている。ルートを作っただけでは観光開発に結び付かないので、今回のM/P策定に期待したい（ブームギャルディセンター）。
 - 沢山あるザンジャー州の観光資源をアトラクションに変えていきたい。現在の平均1.2泊を増やしていきたい。過去、観光カウンスルにおいて、2021年までの観光戦略を立てたが、供給サイドは細かく言及されているものの、需要サイドは弱い。また、ICHHTO ザンジャーでは、ノウルーズ時期に観光客調査を実施し、どの州から訪れ、どのくらいの期間滞在し、どの観光サイトの評価が高いか、どのような観光ルートを回っているか等を調べている。調査のサンプル数は1,000家族である（ICHHTO ザンジャ

| | |
|--|---|
| | <p>ーン州) (※フォーカルポイントのホセイニ氏)。</p> <p>以上 (記録：磯野)</p> |
|--|---|

List of Participants

May 22, 2019

| | |
|--|--------------------------------|
| ICHHTO Headquarters | Ilaj Ghaheremany |
| ICHHTO Zanzan Province | Yahya Rahmati*General Director |
| | Jafar Eskandari |
| | Hosein Khamsei |
| | Abolfazl Ajeli |
| Zanzan Province | Masud Ettati |
| Zanzan Municipality | Saeid Omodi |
| | Daryush Qaredaghi |
| Zanzan Hotel Association | Diyako Zare |
| Zanzan Travel Agency Association | Mahmoud Saberi |
| | Rahman Gelami |
| Zanzan Tourist Guide Association | Seyed Reza Hashemi |
| | Sahand Saeidi |
| Zanzan Tourist Site Restaurant Association | Behruz Kavandi |
| Travel Agency | Saleh Rashvmand |
| Private Participant Tourism Start-Up | Ms. Somaye Kalantari |
| MEHR News Agency | Zahra Moghadami |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono |
| | Ryoko Tanoue |
| | Mohammad Reza Fard |
| | Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|---|
| 名称 | ICHHTO コルデスタン州 |
| 日時 | 2019年5月25日（土）10:00～11:30 |
| 場所 | コルデスタン州政府会議室 |
| 参加者 | コルデスタン州：マレキ計画副局長（議長） ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO コルデスタン州：ムーセナアラビ支所長他（別紙） コルデスタン州観光関連部局：州、業界団体等（別紙） 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO コルデスタン州ムーセナ支所長より歓迎の挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本日は、M/P 策定における州の関与の重要性を鑑み、州政府のマレキ計画局副局長に議長をお願いした。 <p>(2) コルデスタン州マレキ計画副局長より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • 州の観光開発に関わる官民の代表者が出席している。 • 観光は、収入創出する経済セクターとして認識している。貧困削減の観点からも重視している。 • 手工芸品に加え、文化的な活動、交通、案内等において雇用創出を期待。 • コルデスタン州にも観光資源は多いが、十分に生かしているとは言えず、文化の多様性、長い歴史を生かすことでコルデスタン州にも勝機があると期待したい。 <p>(3) ICHHTO コルデスタン州から州の観光セクター概要を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • パワーポイントを用い、コルデスタン州の概要（地理、人口、行政、気象、水資源等）、主要な観光資源（自然、湖、博物館、洞窟、考古遺跡、伝統的文化や農村等）、主要な観光ルート（ハマダーン、ケルマンシャー、タフテスレイマン等）を説明。加えて、イラクからの入国者についても言及。固有の手工芸も複数ある。総括として、1) 文化、2) エコツーリズム、3) イラク国境から来るヘルスツーリズム、4) 農村ツーリズムとリンクしたイベントツーリズム、が重要と認識している。 <p>(4) ICHHTO 本部 Ghaheremany 氏よりプロジェクトの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本プロジェクトの経緯、目的等をこれまでの対象州に準じて説明。 <p>(5) 調査団より、今回の調査と北西部6州の観光開発 M/P 策定支援の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 北西部6州の観光開発 M/P の策定支援の要請を受け、JICA が ICHHTO を支援することは決定済み。2ヶ月間で情報収集を行う本調査は、プロジェクトの第1段階である。本調査の結果を用いて、第2段階でプロジェクト枠組みを協議し、第3段階の実施につながる。 |

- 策定される M/P を実現するためには、アクションプランの実施を州の計画に盛り込んでもらう必要がある。第3段階では、ICHHTO との円滑な調整メカニズムを作ってもらいたい。
- 今回の調査で収集したい情報は、先ず、どういう観光客がどのくらい来ているか、どのような観光資源がありどのように利用されているのか、である（先のプレゼンテーションで理解）。次いで、観光客を受け入れる観光人材の状況を教えて欲しい。また観光行政や観光資源の管理について、効果的に行われているか、難しい点はないか、も知りたい。最後に、観光関連のドナー、海外投資の状況も教えて欲しい。

(6) コルデスターン州側参加者からの現状説明

- 観光開発 M/P は策定したが、円滑に実施されているとは言えない（マレキ副局長）。
- DOE は、Zariwar 湿原に関して JICA との協力の経験を有している。湿原は昨年、ラムサール条約の対象地として登録された。エコツーリズムのサイトとして高いポテンシャルを有している。コルデスターン州での活動の半分を費やしても良いだけの価値がある（DOE）。
- 調査団が泊まった Shadi ホテルの支配人であるが、州のホテル協会の役員も兼務している（ホテル 31、イン 24）。イランの西側は、ポテンシャルが高いにも関わらず、開発が遅れていると感じてきた。課題のひとつとして観光人材の問題がある。例えば、従業員を対象とした短期の講習等を実施して欲しい。M/P 策定の際には協力していきたい（ホテル協会）。
- 州内には 45 の旅行代理店があり、半分はオペレーター。イランの観光客の流れは偏っており、コルデスターン州は恩恵を受けていない州のひとつ。コルデスターン州は、革命前も革命後も、観光開発から取り残されてきた。革命前は、イスファハーン、テヘラン、キシユ島等が大事にされ、革命後は、ヤズド、ケルマン等が追加されたが、その結果、イランの観光ルートが固定化されてしまった。課題であるコルデスターン州のプロモーションを強化して欲しい。また、人材育成やアップグレードも必要である。道路ネットワークの弱さ、制裁に伴う送金やオンライン予約サイトが使えないという問題もある。コルデスターン州はイラクと 2ヶ所の出入国ポイントがあり、イラン全土の入国者の 15%が通っている。しかし、大半は、コルデスターン州に泊まらずトランジット地点となっている。これを改善できないだろうか。また、トルコ航空と共同で新ルート開発を行おうとした経験もある。必要であれば、情報を提供する（旅行代理店協会）。
- 交通の問題に関しては、テヘランからハマダーンまでの鉄道がコルデスターン州まで延伸される計画がある。それができると改善される面もある。なお、その鉄道は、イラク、シリアのラタキアまで延伸する構想がある（マレキ副局長）。

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">• 州内の資源を持続的に活用するためのワーキンググループのヘッドも務めている。対象には、観光資源も含まれている。現在、テヘランの Shahid Beheshti 大学に委託して計画案を作っているところで、M/P 策定段階では協力できるかもしれない（PBO コルDESTAーン州）。 <p>(7) コルDESTAーン州計画局マレキ副局長からの総括</p> <ul style="list-style-type: none">• 本日の出席者へ感謝する。• 来年を目標として、明日の視察先のひとつホワラマン溪谷の世界遺産登録（伝統的集落と民俗）を目指している。M/P 調査と並行するのではないかと予想するが、M/P の中に、プロモーションを盛り込んでもらえることを期待する。 <p style="text-align: right;">以上（記録：磯野）</p> |
|--|---|

List of Participants

May 25, 2019

| | |
|--|---|
| Kurdistan Province (Chair) | Shahram Maleki*Deputy of Development Affairs |
| ICHHTO Headquarters | Ilaj Ghaheremany |
| ICHHTO Kurdistan Province | Seyed Mohsn Alavi*General Director |
| | Hamid Eskandari |
| | Yagub Gaviliyan |
| | Mhammad Behravan |
| | Kurosh Ghaderi |
| | Sattar Karimi |
| Department of Environment of Kurdistan Province | Fariba Rezayi*General Manager |
| | Omid Bato |
| | Heydar Veysi |
| Kurdistan Hotel Association | Abdolhamid Hamidi |
| Kurdistan Travel Agency Association | Hushang Javaheri |
| Department of Management and Planning Organization in Kurdistan Province | Hoseyn Karimiyan*Head Manager of Analyze and Statistics Group |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono |
| | Ryoko Tanoue |
| | Mohmmad Reza Fard |
| | Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|---|
| 名称 | ICHHTO ガズヴィーン州（公共セクター） |
| 日時 | 2019年5月28日（火）11:00～12:00 |
| 場所 | ガズヴィーン州政府会議室 |
| 参加者 | ガズヴィーン州政府：ファルフザード副知事（開発担当）（議長） ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO ガズヴィーン州：ファザヴェリ支所長他（別紙） ガズヴィーン州観光関連部局：（別紙） 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude （敬称略・順不同） |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO ガズヴィーン州ファザヴェリ支所長より歓迎の挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回、JICA 調査団が来州し、ガズヴィーン州に3泊して基礎調査を行う。本日は、ガズヴィーン州の観光ワーキンググループ（公共セクター）に集まってもらい、JICA 調査団と意見交換をお願いしたい。なお、民間セクターのワーキンググループとは、本日の午後に会合をもつ。 本プロジェクトの経緯、目的等の概要を説明。 まず、JICA 調査団より、参加者に JICA の概要、イランでの活動実績等を、簡単に紹介してもらい、次いで、今回の調査で収集したい情報について説明をお願いする。 提供する情報については、ICHHTO ガズヴィーン州がとりまとめ、ICHHTO 本部へ提出する。 <p>(2) JICA 調査団より</p> <ul style="list-style-type: none"> JICA の紹介パンフレット（ペルシア語版）に基づき、組織、目的、活動内容等を紹介。 北西部6州の観光開発 M/P の策定支援の要請を受け、JICA が ICHHTO を支援することは決定済み。2ヶ月間で情報収集を行う本調査は、プロジェクトの第1段階である。本調査の結果を用いて、第2段階でプロジェクト枠組みを協議し、第3段階の実施につながる。 これまで5州を視察したが、観光資源や訪れる観光客の状況は多様である。昨日と今日、ガズヴィーン州もいくつかの観光開発の状況、プロダクトを見せてもらった。観光面で多様な性格をもつ6州で、北西部地域としての共通の目的やブランディングをもった M/P をつくるためには、各州の観光の状況についての基本情報と、M/P の策定と実施における体制検討に必要な情報を収集し、第2段階の協議にあたることが不可欠である。 今回の調査で収集したい情報は、先ず、どういう観光客がどのくらい来ているか、どのような観光資源、観光産業があり観光客を受け入れているか、である。次いで、観光客を受け入れる観光人材の状況を教えて欲しい。ま |

た観光行政や観光資源の管理について、も知りたい。最後に、観光関連の国際機関、ドナー、海外投資の状況も教えて欲しい。

(3) ガズヴィーン州（公共セクター）参加者からの現状説明

- ガズヴィーン州は、イラン北西部地域のゲートウェイにあるという地理的条件を生かして観光開発を進めることが重要だと考えている。昨日も、JICA 調査団より、ICHHTO は中央の指揮下にあるか、州政府に属しているのかという質問を受けたが、確かに、任命は ICHHTO 本部から受けているが、州の他機関との調整が重要だと答えた。観光開発による村の活性化は州の懸案事項のひとつでもある（ICHHTO ガズヴィーン州支所長）。
- ガズヴィーン州は、芸術文化の長い歴史を有しており、その振興を図っている。特に、カリグラフィの首都と呼ばれている。観光開発 M/P において念頭においてもらえると幸いである（芸術文化局長）。
- ガズヴィーン州では、高校生のボランティア活動として夏休みに観光ガイドを行っている。観光人材の育成や住民の啓発の観点から、教育局も関わることができると考えている。また、教員をとおして子どもたちの観光についての理解の促進、研修講師のトレーニングにおいても役立てることがあると思う（教育局）。
- エコツーリズム開発では、往々にして DOE の管轄範囲に関わってくることから調整が必要になる（州 DOE）。
- 数年前にエコツーリズムの計画を策定した。必要な情報があれば提供する。また、エコツーリズムのルートを登録することも必要だと感じている（ガズヴィーン市開発局）。

(4) ガズヴィーン州副知事からの総括

- JICA 調査団と州観光ワーキンググループの出席を感謝する。
- 6州の観光資源や観光開発戦略は異なるが、地域として観光振興を進めることは重要だと考えている。州間のシナジーや協力を深めていく必要もあると考える。
- 観光は、雇用と収入の創出に寄与することは認識している。特に農村部では重要。いろいろな魅力を生かして観光開発を進めて欲しい。
- 最近、イランでブームになっているのはヘルスツーリズムで、ガズヴィーンでも 1,000 床の病院建設プロジェクトが始まったところ。今日の参加者は公共セクターであるが、ますます民間や NGO の参画や協力が必要となってくる。日本の成功事例を紹介し、生かして欲しい。
- ガズヴィーン州の観光開発を進めるにあたって、留意して欲しい点がある。それは、水資源の少ない州である、という点。幸い、今年は雨が多かったが、これは例外である。
- 村の民芸品やブームギャルディ、民泊も振興して欲しい。新しい施設を作るのではなく、既存の建物をリノベーションすることでより魅力的なもの

| | |
|--|--|
| | <p>ができると良い。</p> <ul style="list-style-type: none">• ガズヴィーンは、テヘランから西への鉄道があり、ラシュトへの分岐もある。鉄道を活用した観光振興もあるだろう。• 大きな市場であるテヘランからの距離もガズヴィーン州にとって強みである。• 今回の調査結果がでて、早く次の段階へ進むことを期待している。 <p style="text-align: right;">以上（記録：磯野）</p> |
|--|--|

List of Participants

May 28, 2019

| | |
|---|---|
| Qazvin Province | Mr. Farokh Zad *Vice Governor (Chair) |
| ICHHTO Headquarters | Ilaj Ghaheremany |
| ICHHTO Qazvin Province | Mr. Fazayeli*Director General Alireza Zamani Kharaghani*Deputy Shekoofa Aghasian Mrs. Khadili Mrs. Aghasian Mrs. Rashtvand |
| Qazvin Province | |
| Education and Training Administration | Ali Ansari*Deputy |
| Agricultural Organization | Parviz Abdi |
| Governor-Rural Affairs | Akram Najafi |
| Police | Reza Gorbany Asgar Gavanji |
| Qazvin Municipality | Godratolah Medikhani Mohammadreza Fathkhani Noori Chegini Abdolhoseyn Mozafari |
| Water Resources | Hessam Mahdiyoun |
| Ministry of Industry Mine and Trade | Ali Taherkhani |
| Management and Planning Organization | Seyed Alireza Nasehniya |
| Technical Office | Peyman Pirmoradi |
| Electricity Distribution Company | Yusef Enanlo |
| Economic Affairs and Finance Organization | Fahimeh Lezgi |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono Ryoko Tanoue Mohmmad Reza Fard Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO ガズヴィーン州（民間セクター） |
| 日時 | 2019年5月28日（火）14:00～15:30 |
| 場所 | ガズヴィーン州商工会議所 |
| 参加者 | ガズヴィーン州商工会議所：Mehdi Bakhshandeh 会長（議長） ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO ガズヴィーン州：ファザヴェリ支所長他（別紙） ガズヴィーン州商工会議所他：（別紙） 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude （敬称略・順不同） |
| 面談内容 | <p>(1) ガズヴィーン州商工会議所会長より歓迎の挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • 来訪を歓迎する。 • 商工会議所は、民間の代表として政府と交渉ができる。元々、対話コミッティというのがあった。様々な改善要望を、毎月の対話コミッティで話し合っている。 • 商工会議所のひとつの委員会として、観光・文化がある。ガズヴィーン州で観光に従事している企業は、大半が商工会議所の観光・文化委員会に所属している。 • 本日は、観光・文化委員会のメンバーを中心に招待しているので、課題や将来像について意見交換をしたい。 • また、外務省州事務所にも出席してもらっている。ガズヴィーン州は、他州に比べても海外投資案件が多い。 <p>(2) ICHHTO ガズヴィーン州ファザヴェリ支所長</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本プロジェクトの経緯、概要を参加者へ説明。 <p>(3) JICA 調査団より</p> <ul style="list-style-type: none"> • JICA の紹介パンフレット（ペルシア語版）に基づき、組織、目的、活動内容等を紹介。 • JICA の技術協力の特徴（CP との協働、研修プログラム、パイロットプロジェクトによる試行と検証等）を説明。 • 今回の調査で収集したい情報は、まず、どういう観光客がどのくらい来ているか、どのような観光資源、観光産業があり観光客を受け入れているか、である。次いで、観光客を受け入れる観光人材の状況を教えて欲しい。また観光行政や観光資源の管理について、必要な改善点があれば知りたい。最後に、観光関連の海外投資の状況も教えて欲しい。 <p>(4) ガズヴィーン州（民間セクター）参加者からの現状説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • ガズヴィーン州ではヘルスツーリズムのポテンシャルがある。かつてはイ |

ンド人が入り込んで薬草の栽培も盛んであった。今でも、生産と販売のネットワークは残っている。リスクが低く、利益も期待できるので、この分野での投資を期待している（旅行代理店協会）。

- ガズヴィーン州には2つの工業地帯があり、ビジネス関係の旅行者も多い。学生も多く、年間を通して巡礼者も多いため、宿泊需要は安定して高い。勿論、ノウルーズ時期等には満室で、全カテゴリーに渡って更なる投資が必要な状況にある。私自身も4星ホテルを経営しており、別の土地も用意しているが、投資額が大きいため海外投資を待っている。共通して、土地の問題はないが、資金は問題である。なお、ガズヴィーン州には、5星のホテルがなく、現在、建設中のもの1軒である。但し、宿泊客は、1泊のみ客が多いのが問題。滞在期間を増やすためには、アラムート等の周遊で観光できるルートやサイトの開発に期待している（ホテル協会）。
- 現在、アルーラック村のブームギャルディ（Eco-Lodge）に投資している。選んだ理由は、ガズヴィーンの町から近く、道路も良い。また、古い村のストラクチャーが残っている。観光ルートや観光パッケージがきちんとできると、リターンも期待できるのだが、今は、まだそこまでいっていない。州の観光開発 M/P が策定されたと聞いているが、実施されていないか、効果が上がっていない。ブームギャルディは、まだまだポテンシャルが高いと考えている。具体的には、私が、アルーラック村の数軒の家を購入し、修復し、伝統的な生活を残した運営を任せている（投資家）。
- ガズヴィーン州には101ヶ所のレストエリアがある。レストエリアは、レストラン、店、トイレ、モーテル等がコンプレックスになっているもの。利用者の大半は旅行者。協会には伝統的なレストランも入っているが、ほとんどの外国人は試してみたいと考えているので、ビジネス的に成功している。質が高く、郷土料理を出すレストエリアは人気が高い。農村部のレストエリアには、果樹園を利用しているところもある（レストエリア協会）。
- 101軒という多さに驚いたが、競合の問題はおきないか（調査団）。
- 隣接ではなく、道路の反対側というのものもあるし、競合の問題はおきていない（レストエリア協会）。
- レストエリアの許可は、ICHHTOの担当者個人で判断するのではなく、委員会に諮って判断する。需要に応じて過度の競合がおきないように、配置は考慮に入れている。交通安全の観点も考慮（ICHHTO ガズヴィーン州）。
- 今年をガズヴィーン州の観光年と定めており、一層の観光投資を誘致している。一方で、観光開発は環境悪化をもたらしかねない。今回、ICHHTOが北西部6州の地域観光開発 M/P を作成すると聞き、それが持続可能な観光開発に寄与することを期待する。ガズヴィーン州は、テヘランから近く、イラン北西部のゲートウェイという戦略的位置にあるため、国内、海外ともに、投資のリスクは低いと強調している（投資センター）。

(5) ガズヴィーン州商工会議所会長からの総括

- 時間の関係で発言していないメンバーもいるが、他の意見は文章にして ICHHTO へ提出する。
- JICA 調査団へ質問がある。JICA の支援の中で、東南アジア、東アジアからの観光プロモーションを行う可能性はあるか（商工会議所会長）。
- JICA の観光プロジェクトの事例では、パレスチナの観光プロジェクトで、インドネシアやマレーシアから FAM トリップを行ったり、日本で JATA 旅行博への参加等の支援を行った。私自身も、一昨年、イランのブースを訪れ、ゲシュム島の観光担当者や旅行代店がプロモーション活動をしているのを目にしている（調査団）。
- 35 年前から民間の企業家として活動しているが、最近、民間と政府の関係が良くなっていると感じている。民間セクターからも情報を提供する。
- ガズヴィーン州商工会議所では、定期的に観光・文化委員会を開催しているので、JICA イラン事務所からも参加してもらって構わない。事前に連絡をもらえば、招待状を送る。

以上（記録：磯野）

List of Participants

May 28, 2019

| | |
|--|---|
| Qazvin Chamber of Commerce Industries, Mines and Agriculture | Mehdi Bakhshandeh*President (Chair) |
| ICHHTO Headquarters ICHHTO Qazvin Province | Ilaj Ghaheremany Mr.Fazayeli*Manager AlirezaZamani Kharaghani*Deputy Shekoofa Aghasian Mrs. Khadili Mrs. Aghasian Mrs. Rashtvand |
| CCIMA Hotel Committee CCIMA Restaurant Committee Investment Bureau | Mr. Ashmi Mr. Tiyamad Mr. Raghzen |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono Ryoko Tanoue Mohmmad Reza Fard Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO ミーティング（テヘランでの関係機関） |
| 日時 | 2019年6月1日（土）10:10～12:50 |
| 場所 | ICHHTO 観光局 |
| 参加者 | ICHHTO : Rahimi 計画開発部長（議長）、Faezeh Behzadnejad 国際局長他（別紙） 関係機関 : DOE、SCI、ITOA 他（別紙） JICA イラン事務所 : 水谷陣也、Farid Ghaderi 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) ICHHTO Rahimi 計画開発部長より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • ICHHTO と JICA は、協力して北西部 6 州の観光開発 M/P の作成することに合意した。 • 中央における関係機関からのインプットを歓迎する。 <p>(2) 調査団より本調査の経緯と本会議の目的を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本調査は、観光開発 M/P 策定のための体制や枠組みの準備調査である。 • 先週まで 2 週間強、6 州を回り、各州と協議を行い、現地視察してきた。 • 観光資源やプロダクト、来訪している観光客の性質が多様と認識した。ポテンシャルは高いが、国内観光を除けば、十分に対象マーケットに届いておらず、マーケティングの側面が弱いと感じた。 • 調査結果に基づき、日本側で投入した方が良い専門性や規模を JICA 本部に提言する。 • 本日の会議では、北西部 6 州の観光振興のため、中央の他機関がどのように州に関与しているか、1) ガイド欄、2 実際の活動や予算、をお聞きしたい。配布した質問票を受け取っていただければ、それに沿ってお話したい。 <p>(3) 参加者よりそれぞれの機関の関与について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • DOE : ミッションは生態系の保存。JICA とはアンザリ湿原等で協力した。北西部ではオルミエ湖が関与するが、他には協力プロジェクトはない。DOE は、国立公園、野生動物居住区、保護区、国指定自然遺産等のカテゴリーに分類し、ゾーニングしている。計画を作ることが主で、エコツーリズム開発が目的ではない。通常、実施も行わない（※但し、第 6 次 5 ヵ年計画の下、DOE 主体でエコツーリズム開発を行っている例があること）。州レベルだけで決められないというのは事実で、国レベルで FRWO、DOE、ICHHTO から成るエコツーリズムコミッティでガイドラインに沿って協議・合意する必要がある。住民の参加により生態系保存が重要である。ブームギャルディを上手く使い、環境教育、住民参加、自然の賢い利用、収入向上に寄与できると良い。過剰な放牧の規制によって減る収入をエコツーリズムで補填できると良い。 |

イラン北西部には 36 ヶ所の異なるカテゴリーの保護区がある。多くはゾーニング、管理計画も策定済みである。

間違いなく DOE やエコツーリズムは SDGs へ貢献しているが、どの指標にどのくらい貢献しているかは明確にできていない。

- 調査団：コルDESTAーン州のホラマン溪谷の視察の先、字共から、保護地区になっていない、という話があった。それは事実か。

- DOE：ホラマン溪谷の約 50%が Shahoo Koosakan 保護地区に含まれている。

- ITOA：初めてイランを訪れる観光客はクラシックルートを訪れる。イランはリピーター多いので、北西部はリピーターが訪れることが多い。ザンジャーはセレモニーも多いので、旅程を作る際にはそれらを考慮すると良い。自然、歴史、スキー、洞窟、遊牧民の生活、郷土料理等、魅力的な資源は多い。隣国トルコにはリゾートもあるが、イランは違う。トルコを市場とすれば、国際空港のあるタブリーズを入口としてルートを作ると良い。

但し、アラス川沿いの遺跡を見に行っただが、荒廃しているものもあり、このままでは持続性に疑問がある。自然の滝があるが、観光客が増えるとダメージを与える傾向がある。我々もアルメニア教会群を使った観光も行っている。ブームギャルディは、外国人も泊まれるようなレベルになると良い。

(別の ITOA メンバー) 北西部はいくつかの周辺国に接していることから、地域観光を強化すると良いのではないかと思う。その場合、外務省や海外の公館をプロモーションに利用できると良い。国ではアゼリー語のパンフレットを作っていないので、北西部地域や州レベルで考慮すると良い。現状は、個々のインバウンド旅行代理店が作っている。

また、観光ルートを決めておくことも必要。地域観光であれば、スポーツやイベント、セレモニーも観光資源となる。但し、イベントの日程は早めに決めておかないと、直前では誘客できない。日本の経験等の技術移転を期待する。

- 調査団：多くの州でヘルスツーリズムという話がでた。旅行代理店としてはどう考えるか。

- ITOA：ヘルスツーリズムの管轄官庁が曖昧で、病院は自分たちのネットワークで誘客しており、旅行代理店は入り込む余地がないのが実情。

- 調査団：我々も、ヘルスツーリズムと一括りにするのではなく、メディカルとリラクゼーションは別だと考えている。

- ITOA：温泉資源もあるが、施設が男女別となっており、家族用の部屋を用意する等のインフラ整備が進まないと、あまりプロモーションできない。

- SCI：12 年前より ICHHTO と TSA で協力している。TSA の一部として、2008 年よりイラン人家庭の観光調査をしている。2011～2014 年は、予算の関係で年 1 回になり、夏時期に実施し、2016～2018 年は春時期に実施している。テヘランが多いが、全国で 25,000 家庭 (2018 年) をサンプリングしている。

外国人観光客の情報はない。調査方法は、毎年7月、家庭訪問により春にした旅行について面接調査を行う。調査項目は、WTOの基準に基づき、何人で、どこへ行き、何泊し、いくら使ったかを聞いている。途中の中継地、宿泊地も聞いている。支出は、交通費、宿泊費、食費等の費目ごとに聞いている。2013年の調査では、6州の内、訪問先としてガズヴィーン州が一番多かったが、滞在期間は一番短かった。つまりトランジットということ。一番長かったのは東アゼルバイジャン州であった。2018年では、訪問先として東アゼルバイジャン州が一番多くなっていた。滞在期間も同様であった。

2013年の平均の宿泊数は4.3泊、2018年は3.5泊であった（※旅行にかかる期間が減るのは、交通の便の向上等の理由により、世界的な傾向である）。州ごとの観光収入は、全国の収入を算出して各州に分配するが、整合性は高くない2016年春の全国で旅行に使った合計費用は68,797,528百万リアル、2018年春は113,672,840百万リアルであった。

- 調査団：各州のGDPにおける観光セクターの比率を知ることはできるか。
- SCI：GDPの担当部署が違うので、確認の上で回答する。
- ICHHTO Handicrafts：観光開発と工芸品の開発へ並行して行うことが重要。
- 調査団：WCCへの登録は良く聞いたが、その他にも、Made in Iran や Made in Kurdistan等のブランディング手法があると思う。ICHHTOとしての戦略があれば教えて欲しい。
- ICHHTO Handicrafts：国レベルのAuthenticityがあり、WCCへ申請している。国レベルのAuthenticityが手掛かりと考えて良い。
- IFTAG：3年前、18ヶ国が参加した観光ガイドサミットをイランで開いた。観光資源を直接目にする中で、イランの風評を改善することが目的。現在は、トレーニングをとおしてガイドの質の改善を図っている。直面している問題として、心無いガイド（無資格）により観光資源を傷つけることがあるが、我々の所にクレームがくることがある。

毎年、観光ガイドの会合を開いている。輪番制ではないが、主催を希望する州の開催能力等を確認し、開催場所を決めている。数年前はオルミエで開催し、メディアでも取り上げられたので、西アゼルバイジャン州の観光プロモーションにもなった。2年前には、地震のあったケルマン州で開催し、復興支援に寄与した。

（別のIFTAGメンバー）ガイドの質向上には教育が重要である。JICAプロジェクトの狙いは、マスツーリズムかカルチャーツーリズムか。

- 調査団：M/Pであるので、幅広くアセスメントし、対応策を作るものと考えている。特定の観光セグメントだけに的を絞ることはない。
- IFTAG：ブームギャルディも増えすぎると持続的な観光開発の障害になる。もっと高支出の観光客に的を絞った施設を作る方が良いケースもでてくる（南アクルーガーナショナルパーク近くのブティックホテルの例を引用）。

SIT を誘客することが良いが、それにはガイド等の教育が重要で、しっかりと M/P に盛り込んで欲しい。北西部は、食事文化が進んでいるし、チーズも有名である。ブランディングに盛り込んで欲しい。パンフレット等の制作には高い専門性をもった人たちを動員して欲しい。

- ITOA : JICA は公的セクターを対象にしているので、民間が十分に関与できないという欠点がある。今回のプロジェクトでは、民間の声も反映して M/P を策定して欲しい。観光のどの分野でも教育は不足しており、観光ビジネスの従業員も対象にして欲しい。一村一品のような考えも紹介して欲しい。州の ICHHTO が旅行博に出られると良い。
- ICHHTO Cultural Heritage : 文化遺産局の世界遺産を担当する部署。対象地域にも世界遺産のない州もあるが、暫定リストに遺産はどの州にもある。宿泊施設がない場合、それらの文化遺産の中に仮泊させることもある。資格を有する観光ガイドでも、現地の規則や風習を無視して観光客を楽しませることもあり、それは持続性の観点から問題だと思う。例えば、ホラマン溪谷の住民は閉鎖的なので、近視眼的な観光開発をしないよう注意が必要。
- ICHHTO 観光局計画開発部 : ホラマン溪谷地区は、一時、伝統的な景観を壊してでも開発する動きがでたが、今は、全ての建物をデータベース化しているので、今後、景観にあわせた建物に戻していく動きがでてくるようにしたい。
- Chamber of Commerce, Industries, Mines and Agriculture : 各州の CCIMA の会員の 10% くらいは観光産業である。投資はあまり順調ではなく、様々な規制やインフラの未整備が障害となっている。今までの国内観光は、カスピ海への流れが強かった。イラン北西部にシフトさせるには、観光開発に IT を活用していくべきである。北西部 6 州は、ECO に近いというチャンスを生かすと良い。アルダビールで第 2 回目の ECO ヘルスツーリズムの集まりがある。JICA のプロジェクトによって、実現性には結びつくのか。
- 調査団 : JICA のプロジェクトの中では、パイロットプロジェクトが想定されている。パイロットプロジェクト自体のスケールは大きくないが、アクションプランの実現性を検証することが目的。
- CCIMA : 対象州の中には食品工場等の工場が多くある。工業を利用した観光の可能性はあるか。
- 調査団 : 日本では、工場の生産現場を観光客向けに開放し、多くの観光客を集めている。参考にして欲しい。
- ICHHTO 投資局 : ICHHTO では、海外と国内投資について、観光分野の投資パッケージを作り、他投資に関わる省庁との調整、ファシリテーションを行っている。海外投資については英語で作っている。毎月、投資センターから投資案件についての情報が公開されており、それらも提供できる。コンサルタントによって投資環境の問題点を調査した報告書もあり、別途、

| | |
|--|--|
| | <p>提供できると思う。</p> <p>国内投資に関しては、6州で300件のホテル、レストラン、イン等の投資があり、建設段階にある。</p> <p style="text-align: right;">以上（記録：磯野）</p> |
|--|--|

List of Participants

June 01, 2019

| | |
|--|--|
| ICHHTO HQ | Arireza Rahimi Faezeh Behzoelsyaid Seyed Mahdi Yasini Niloufa Yazdi Sare Ziyae Reza Kiafar Iraj Ghahremuny Sheyda Mohammadali Mr. Gerami |
| ICHHTO Handcrafts ICHHTO World Heritage Office | Pourang Pourrahimi Behzad Rezaei |
| Department of Environment (DOE) Statistics Center of Iran (SCI) Organization for Investment, Economic and Technical Assistance of Iran (Invest in Iran) Foreign Affairs | Iman Hadi Zohreh Chitsaz Mahdi Abbasi Abdolah Abasszade |
| Iran Federal of Tourist Guide Association (IFTGA) | Vahideh Shapuri Ali Salek Rahimi |
| Iran Tour Operators Association (ITOA) | Mohammad Nikazin Hamid Hemmati Seyed Mohammadali Asef |
| Chamber of Commerce, Industries, Mines and Agriculture (CCIMA) | Masud Shirinkalam |
| JICA Iran Office | Jinya Mizutani Farid Ghaderi |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono Ryoko Tanoue Mohammad Reza Fard Solmaz Azmude |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO ミーティング（テヘランでの関係機関-2） |
| 日時 | 2019年6月11日（火）10:00～12:30 |
| 場所 | ICHHTO 観光局 |
| 参加者 | ICHHTO：Seyed Mahdi Yasini、Ilaj Ghaheremany、Niloufa Yazdi 他（別紙） 関係機関：中央銀行、TACI、IHA 他（別紙） 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) 調査団より本調査の経緯と本会議の目的を説明</p> <p>(2) 参加者よりそれぞれの機関の関与について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央銀行：経済年鑑として州別の GDP、主要な経済セクターの GDP を発表している。航空会社を含む運輸セクター等の重要な経済セクターは毎年、調査・分析しているが、ホテル産業等については、毎年、集計していない。どの産業かを指定してもらえれば、M/P プロジェクト開始時の現状分析、プロジェクト終了後のモニタリング指標として数値を提供できる。 ICHHTO 観光マーケティング部：対象マーケットを、1) 巡礼、2) 周遊観光、3) 歴史・文化・自然の3つに分類している。旅行博への参加については、選定委員会があり、どの旅行博に出展、参加するかを決める。今年度については、海外の20の旅行博への出展が決まっている。4割は周辺国で、イラク、オマーン、トルコ、アゼルバイジャン、ドバイ等。湾岸諸国は、政治的なテンションが高まって以来、相互に招待していない。オマーンは例外で、ヘルスツーリズムを中心に紹介する予定。ドバイの ATM も、ここ数年参加しなかったが、次回（2020年4月）は参加する。JATA 大阪にも TACI に委託して参加する。新興市場の旅行博にも注目している。イラクは、巡礼と周遊観光がターゲット、トルコは歴史・文化、アゼルバイジャンは歴史・文化に加えて巡礼もターゲット。決定している20以外の旅行博以外でも、民間が参加したい場合、FAM トリップやロードショーにおいて支援することもできる。マレーシア、インドネシア等の東南アジアのイスラム諸国は、ハラルフード等において優位にあるが、旅行博の出展を現地法人に限定しているため出展していない。フライトや距離感も関係する。国内では100くらいの観光プロモーションイベント開催を予定している。州の対象マーケットにあわせたイベントを行い、州のブランディング確立を意図している。今年度の観光イベントのカレンダーを準備中。イベントカレンダーは、国際レベル、国レベル、州レベルに分けて作成する。エコツーリズムは担当外であるが、湾岸アラブ人は自然を好むので、ブームギャルディが人気だと聞いたことがある。 TACI：ICHHTO の決定に従い、海外の旅行博の実施を担当する。ICHHTO |

の承認の下、現地に詳しいエージェント等にアウトソーシングすることも
ある。日本のペルシアツアーもそのひとつで、18ヶ国に同様の TACI 代理
店がある。

TACI は、旅行博の他、保険を含む自動車旅行の支援も行っており、イラン
北西部は欧州や周辺諸国から陸路で入国する自動車旅行のゲートウェイで
あるが、北西部で何泊もしないのは残念である。今年の Tabriz 2018 を除き、
イラン北西部で国際レベルの旅行博やイベントがないのも影響しているだ
ろう。北西部の旅行代理店は、周辺国を除き、欧州やアジアでの旅行博へ
の参加もない。これでは、例えば世界遺産は潜在的観光客の旅行先検討上
の重要な指標だが、いくつもの世界遺産があるにも関わらず、検討の机上
にのらない。魅力的な文化、宗教、民族の多様性も知られていない。

- ホテル協会：全国に 2,000 以上のホテル、ホテルアパートメントがある。
その内 200 くらいが純粋な民間ではない（革命財団等）。ヒルトンやインタ
ーコンチネンタル等の高級ホテルが多く接収されたため、施設数に比べて
ベッド数のシェアは大きい。認可を受けたホテル、ホテルアパートメント
が各州のホテル協会に加盟する。Inn やブームギャルディ、認可・無認可の
民泊は、ホテル協会に加盟せず、把握していない。

ホテル間の過当競争と宿泊客数の大きな季節変動が問題である。ハイシー
ズンは 90%を超える一方、前後の閑散期は 20%台に落ちる。加えて、景気
の沈滞により、ホテル投資は停滞している。全国で 1,000 弱のホテル計画
が中断している状況にある。テヘランの国際空港にある Novotel と Ibis も
運営側の Accor は引き気味である。タブリーズのトルコ系のホテルも同様
で、その他のホテルへの海外投資は聞いていない。海外投資家からは、税
制優遇等のインセンティブがほとんどない、許認可が多くの機関に渡り複
雑、宿泊料に上限がある等が躊躇する理由として指摘されている。ホテル
業者にとって計画立案を難しくしている理由のひとつとして、イラン暦と
イスラム暦の併用がある。毎年、祝日が動くことから、イベントやプロモ
ーションを困難なものにしている。また、的確なインバウンド情報の提供
があると客室の増改築等のホテル投資に役立つであろう。インフレもホテ
ルの営業コストに大きな負担となっている。昨年以來、従業員の給料は 38%
も上昇した。光熱費も同様である。

人材育成の重要性は認識しており、協会としても職業訓練校の整備や質の
確保にも貢献しているし、ICHHTO と密接に協力している。大学、大学院
レベルの観光教育の充実も進めている。

なお、ホテル予約サイトは、海外からは送金できないものの、国内観光で
はオンライン決済もでき、活発に利用されている。

以上（記録：磯野）

List of Participants

June 11, 2019

| | | |
|--|-------------------------|--------------------------------|
| ICHHTO HQ | Mr. Seyed Mahdi Yasini | Planning & Development |
| | Mr. Iraj Ghahremuny | Planning & Development |
| | Ms. Niloufa Yazdi | Int'l Affairs Bureau |
| | Mr. Romina Hadipoor | Marketing Expert |
| Central Bank | Ms. Sharareh Eftekhari | Data Administration Department |
| Touring and Automobile Club of the Islamic Republic of Iran (TACI) | Mr. Abdolreza Abaszadeh | Deputy |
| Iran Hotel Association (IHA) | Mr. Abbas Bidgoli | Director |
| | Mr. Ahmad Arkaniyan | Deputy |
| JICA Study Team | Tetsuo Isono | |
| | Ryoko Tanoue | |
| | Mohammad Reza Fard | |
| | Solmaz Azmude | |

会議議事録

| | |
|------|--|
| 名称 | ICHHTO ミーティング |
| 日時 | 2019年6月22日（土）14:00～15:30 |
| 場所 | ICHHTO 観光局 |
| 参加者 | ICHHTO Tourism Deputy : Ali Reza Rahimi、Seyed Mahdi Yasini、Ilaj Ghaheremany ICHHTO Int'l Affairs Bureau : Niloufa Yazdi、Faranak Elyasi JICA イラン事務所 : 水谷陣也、Farid Chaderi 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 面談内容 | <p>(1) JICA イラン事務所より挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本日は、調査団より今回の調査結果の報告と、M/P 策定支援段階の進め方の案を説明する。但し、M/P 策定支援の進め方は、まだ JICA 本部の議論を経たものではなく、調査結果に基づく調査団の案という位置づけである。 <p>(2) 調査団より現地調査の総括的報告と M/P 策定支援への提案</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本調査では、全ての対象州の ICHHTO と関係機関と協議を行うことができ、また対象州の主要な観光サイト、ポテンシャルサイトの視察をとおして、対象地域の観光の現状と将来性がよく理解できた。 • 各対象州からは質問票の回答をもらっており、有益な定性的情報を得ることができた。但し、いくつかの定量的データ (Numbers of Overnight Tourists、ICHHTO Budget、Statistical Data of Accommodation) において、質問の意図と違うものや不足が見られた。 • 第2回目の州 ICHHTO への訪問で、意図したデータがあることを確認し、追加で提供を依頼した。近日中に ICHHTO 本部に届くので、調査団への再提供をお願いする。 • 調査結果は、7月末までに報告書として取りまとめ、その後、ICHHTO へも送付される。 • 続いて、現地調査の結果を基に、M/P 策定段階の概略スコープ、フロー、実施体制について、調査団の素案を作成した。これを基に、ICHHTO のコメントや意見交換をお願いしたい。 • 先ず、策定される M/P の目標年次を 2031 年 (PY 1410) と仮定した。これは、プロジェクトが今年か来年に始まることを前提とすると、ドラフト M/P は 2020 年末ころまでにできる。そこから 10 年を M/P の有効期限と考えた。 • 但し、アクションプラン等の短期計画は 5 年程度で完了すべきである。 • 対象地域は、北西部 6 州である。 • M/P は、1) 現状分析、2) マスタープラン本体、3) アクションプラン、4) モニタリング計画、の 4 つのパートで構成されることを想定した。 • 素案であるが、各パートの内容の具体例を示した。今後の協議で追加や変 |

更を加えてゆけば良いと考える。

- M/P がこれらの要素から成るといふ前提で、3年間のプロジェクト期間のフローを図示した。1年目は、現状分析に続き、マスタープランとアクションプランのドラフトを作成し、パイロットプロジェクトの選定基準を用意する。2～3年目はパイロットプロジェクトを実施し、その結果をドラフトM/Pに反映させて最終化する。
- パイロットプロジェクトは、現時点ではフリーハンドであるが、マーケティングであればFAMやプロモーション素材作成、エコツーリズムであればモデルサイトの支援、人材育成であればガイドやホテル従業員のトレーニング等が挙がってくるであろう。
- 最後のスライドは、実施体制の例を示している。意思決定レベルに日本側とイラン側から成るJCCを設ける（JICAイラン事務所より補足：全てのJICAプロジェクトではJCCを設けている）。中央と各州の関連機関に関しては、技術コミッティを設けて調整して欲しい（全ての州で観光カウンスル等の調整機関があるので、既存のものを活用しても良い）。
- JCCは、年2回程度の開催を標準とし、プロジェクト開始時のワークプランの承認、1年目にできるドラフトM/Pの承認、パイロットプロジェクトの選定の承認等を行う。最初の2回くらいはテヘランで開催されるべきであるが、それ以降は各州にローテーションしても良い。
- M/Pプロジェクト実施の中心となるのはRahimi局長をヘッドとするPMUで、各州2名のFocal Pointもメンバーとして加わる。実務を詰めるワーキンググループは、5つ程度を想定しているが、組み合わせはこれに限ったものではない。
- ワーキンググループには各州からのメンバーも入るため、効率的に運営されることが重要である。そのためには、各ワーキンググループのタスクとワークプランを明確に決めておき、スケジュールに沿って作業結果を共有するメカニズムを構築することを提言する。

(3) ICHHTO Rahimi 計画部長よりコメント

- 先ず、いくつかのペルシャ語訳が英語と違っているので訂正して欲しい。
- アクションプランの経済評価は、アクションプランの中で行う方が良い→（調査団）コスト積算と経済評価をアクションプランの中に入れる。
- Tourism Management（観光行政）を追加して欲しい→（調査団）了解。
- 実施体制に関して、中央と各州の技術コミッティ矢印がJCCのみにつながっているが、それではPMUがプロジェクトを制御できない可能性がある。詳細は今後としても、技術コミッティとPMUの間にも連携が必要である→（調査団）技術コミッティとPMUの間にも両方向の矢印を追加する。
- イランで、地域ごとの計画を作り実施することは難しいことである。中央や州には権限があり、そのレベルでの計画や実施は難しいものではない。

ICHHTO では、現在、西部地域 10 州が関与するエコツーリズム・農村ツーリズム戦略を策定しているが、先週、会議を開いたところである。そこでは、ICHHTO 本部に事務局を設け、テーマごとにコミッティを作りタスクを特定しながら進めている（プレゼンテーションのスライドを紹介：これは目標年次の決まったプロジェクトではないが、政策の具現化の一環として実施中である）→（調査団）正に、その場合の「事務局」が PMU に相当し、テーマごとの「コミッティ」がワーキンググループに相当する。

以上（記録：磯野）

視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | 東アゼルバイジャン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月14日(火) |
| 場所 | 09:00-10:00 Bazaar 10:00-10:30 Arg-e Tabriz 10:30-11:30 Azerbaijan Museum 11:30-12:00 Mosque of Kabud 12:00-13:00 Iron Age Museum 14:30-16:30 Kandovan 18:30-19:00 El Goli Park |
| 参加者 | ICHHTO 東アゼルバイジャン州 Farshad Rostami、Adel Jafari、Hasanne Zhad ICHHTO キャンドバン Ali Eyuazi JICA 中東欧州部：西田有一、降旗翔 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 09:00-10:00 Bazaar *世界遺産 1,000年以上前から存在したが、現在の建物は15世紀頃に建設された屋根付きの建物。店の数は7000を超え中東有数の規模。 5/9に火事にあった現場を視察 バザールマネージャー Hossein Esnaeili Sangoui 氏による説明。 <ul style="list-style-type: none"> ● 火事現場はバザールの一部、メインストリートに付属した中庭を囲む1区画のみ。 ● 火事現場は、煉瓦作りの建物は残っているが各店舗の商品や装飾は消失しており、焦げ臭い臭いが残っている。その他区間は通常営業。 ● 火事の原因、出火元は調査中であるが、おそらく電気系統の老朽化が原因 ● 10年前にも火事があったので、その経験をもとにバザール内30ヶ所に消火栓配置をしていたため今回の消火活動に役立ったが、夜中に火災が発生したため発見が遅れ、またバザール内での共助消防団がないため消防への通報が遅れ被害が広がった。 ● 管理側からも、各店舗に、ディスプレイ(ひさし等)に燃えやすい素材を使わないよう依頼しているが守られていない。 写真 火事現場、バザール内消火栓、古い電気系統、開店前の絨毯バザール。 |



10:00-10:30 Arg-e Tabriz

14 世紀初頭、イルハーン朝時代に建てられた城塞。

- 2016 年より ICHHTO が管理をしている。
- 古いハンマーム（浴場跡）があるので発掘を予定している。現在遺跡周辺に壁を作っており、その後で発掘作業に入る。

写真は Arg-e Tabriz、発掘予定現場。



10:30-11:30 アゼルバイジャン博物館

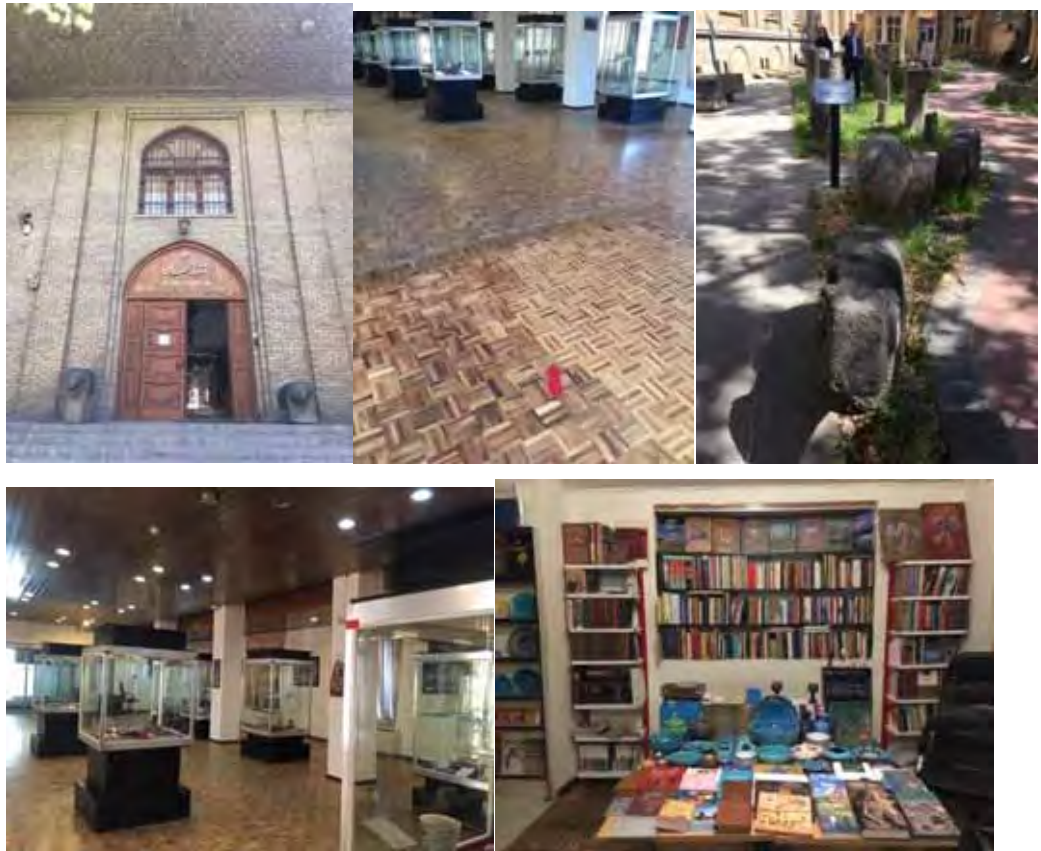
博物館長 Mrs. Fatma sariraice、学芸員 Mrs. Zahra ghaffari による解説。

- テヘランの考古学博物館に次ぎ、イランで 2 番目に歴史ある国立博物館である。
- 学芸員は 5 名で 09:00~14:30 までのシフト勤務。館内に学芸員ガイドデスクがあり、観光客も、予約不要で学芸員に解説をお願いすることができる。学芸員は英語、ペルシャ語、アゼリ語、トルコ語で対応が可能。
- 展示品はタブリーズだけでなく、イランの他地域から出土したものも含まれる。品種ごと（陶器、土器、装飾品など）に分類し展示されているが、出土地区、年代による区別はない。遺跡出土品が多すぎるため、出土地区ごとに分類した展示を行っていない。

調査団からの質問

- 博物館の入場者数が減少しているが、何か理由は考えられるか？
回答) 2017 年テヘランのテロ事件後、観光客が減ったが、その後は観光客が増加している。
- 展示品の管理体制について。
ラボラトリーが整備されている。ラボラトリーは管理職のみ入室可能。

写真は、博物館玄関、館内、野外展示、館内、ミュージアムショップ。



11:30-12:00 カブードモスク

15 世紀半ばに建てられ、青い装飾タイルの美しさからブルーモスクとも呼ばれる。地震による損傷が激しい。モスク公認ガイド Mr. Mehrdad Moharram による解説。

- モスク・ハンマーム・図書館の複合施設である。
- モスク敷地内は ICHHTO が管理しているが、敷地外はタブリーズ市の管轄であり、タブリーズ市はモスクに隣接してバザールとホテルを建設している。
- モスクの修復を進めており、オリジナル部分と修復を区別するため、タイルの濃い色の部分がオリジナルで、薄い色は修復部分である。

写真はモスク外観、内部、ICHHTO 管理の発掘予定地。



モスクの敷地内が ICHHTO 管理のエリアで、奥の建設現場はタブリーズ市の管理。

12:00-13:00 Iron Age Museum

博物館ガイド Mr. Hasan Abeeli による解説。

- 地層 28 層、3,000 年前からの墓出土品を展示している。
- 発掘現場をそのまま利用した展示方法を取り入れている。
- 一部はアゼルバイジャン博物館に展示している。

- 死後の復活が信じられていたので、女性の墓からはアクセサリー、男性の墓からはナイフ、子供の墓からはおもちゃ等が出土している。
- 訪問客はイラン人およびパッケージツアー利用の外国人。国別の統計は無いが、中国とヨーロッパからのツアー客の訪問が多い。
-

写真は館内展示。



14:30-16:30 キャンドバン

タブリーズから 50Km、サハント山の麓にある奇岩の並ぶ風景で知られる観光地。世界遺産には登録されておらず、現在も人が住んでおり、ホテル開発も進めている。ホテルは 1 件 14 部屋のみのため団体旅行の受け入れは不可。付近にキャンプ場がある。ICHHTO キャンドバン Ali Eyuazi 氏の解説は別紙参照。

唯一のホテルである Laleh Rocky Hotel（経営は政府 50/民間 50）レストランと客室を視察。

- レストランは伝統工芸を使ったインテリアで郷土料理を提供。

- 客室は最高級スイートルームを視察。リビングルーム、2ベッドルーム（1キング、2シングル）、ジャグジーあり、1泊USD100程度。建設にあたり当初は地元職人の協力を仰いだが、地元職人はホテルの客室構想に応じた施工ができず、結果的には専門家による設計図をもとに地元職人が施工した。

民家を改装した民泊、民家を改装した土産物屋兼郷土資料展示館を視察。

- 土産物屋のナッツ・ドライフルーツ・羊毛セーターは地元産だが、その他の陶器、カバン等は地元製ではなく際立った特徴は見なかった。

写真は、キャンドバン村、ホテル外観3枚、土産物屋、ホテル室内、レストラン。



18:30-19:00 El Goli Park

タブリーズ市民の憩いの場であり、キャンプ所設備を整備中。

- インフレにより、イラン人にとってホテル宿泊費は高く、キャンプの需要が高まっている。近郊州からの国内旅行、特に家族旅行でキャンプ場の需要がある。
- 全国のキャンプ場は ITTIC (Iran Touring & Tourism Hotel Group) という政府系の観光施設運営組織が管理している。

写真はキャンプ場設備



以上 (記録 : 田上)

視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | 東アゼルバイジャン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月16日(木) |
| 場所 | 10:00 Aras Free Trade Zone 10:30-10:45 Chupan Church 10:45-13:00 Monastery of St Stephanos *UNESCO world heritage 13:15-13:45 Khajeh Nazar Caravansary 14:15-15:00 Golfaraj Eco-museum |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany Aras Free Trade Zone : Mehdi Abbasi*Tourism Manager、Akbar Hematpour*Expert of Tourism and Cultural Heritage、Abolfarj Ranijlar、Davar Esmacili 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 10:00 Aras Free Trade Zone <ul style="list-style-type: none"> • Aras Free Trade Zone は、アルメニア、アゼルバイジャン共和国(ナヒチェヴァン)との国境に位置し、フリーゾーン内は1)工業 2)農業 3)観光 4)商業 の4つに分かれている。観光部門としてはフリーゾーン内にユネスコ世界遺産の聖ステパノ教会を有し、フリーゾーンも遺跡の保護、修復に予算を計上している。 • フリーゾーン内でジオパークプロジェクトも推進しており、2020年にUNESCOに申請したい意向。 • 以上の理由で、Aras Free Trade Zoneはイラン全土7つのフリーゾーンの中で、最もICHHTOとの関係が強い。 • 外国人が、1日あたり、アゼルバイジャンから1,000人、アルメニアから300人が入国する。テヘランのイマム・ホメイニ国際空港に次ぐ入国者数である。 • 周辺国以外からの観光目的での外国人の訪問者数は、FITが主流でヨーロッパ(ロシア・フランス・イタリア・ドイツ・ベルギー)等からの訪問実績がある。 • フリーゾーンへの車両立ち入り数は、1日7,000台。 • フリーゾーン内のホテルベッド数は現在2,000床 • フリーゾーン内に鉄道が走っている。103年前にイラン初の電化路線として建設され、過去にはシベリアアタブリーズ路線もあったが、現在はイランとアゼルバイジャンの間を貨物輸送のみ運行している。 • 国境付近であるが治安が非常に良いことを強調したい(Mehdi Abbasi氏 Aras Free Zone、Turism Manager)。 • 野生動物保護の指定地域である。 |

- 周辺は、オスマントルコとサファヴィー朝が戦った地域で、アルメニア人キリスト教徒が多く住む地域であった（アルメニア王国は 301 年、ローマ帝国に先駆けてキリスト教を世界で初めて国教とした国で知られる）
- UNESCO の世界遺産には、イランのアルメニア修道院群として、聖ステパノ教会、ガラ・ケリーサー（黒教会、後日訪問予定）、ゾルゾル礼拝堂が登録されている。

写真はフリーゾーン入口とフリーゾーンから見た国境河川のアラス川。



10:30-10:45 Chupan Church

- 13 世紀の建物。
- 2008 年に UNESCO のリストに登録されイラン国内でも保護の対象となり、2015 年に 4 万 USD をかけて復元した。



10:45-13:00 Monastery of St Stephanos*世界遺産

- 16 世紀サファヴィー朝時代の建物。
- 入口から教会までは 130m の登坂。
- 教会であるがイスラムの影響がある。例としてムカルナス、男女別の入口、寄木細工の扉があげられる。
- 現在、内部は修復作業中。オリジナルの壁画の上に重ねられた漆喰をはがし、オリジナルの壁画の色を修復している。
- 一部、建物が傾いている部分は立ち入り禁止。約 7 cm のずれがある。専門家の調査によると、1 年に 1.5 ミリずつ傾いている。現在、修復のための事

前調査中。

- 公開部分も、建物の傾きを調べるため壁面に白い石をうめこみ調査している。
- 床部分の石には化石が入っている。調査によると 300 万年前の化石であるが現在は床石として一般客が化石を踏んでいる。化石の保護カバーをしたいが UNESCO からの許可が下りなかった。
- 年に 1 回、毎年 8 月初旬にアルメニア人の集会があるが、それ以外では教会としては使われておらず観光地である。
- 現在、修道院に付属する宿泊棟をホテルとして改装中。

写真は UNESCO 表示板、案内図、教会およびベルタワー（近影、遠影）、教会内部の床石（化石）、イスラム建築風にムカルナスのある教会ドア、側面の建物の傾きを調査するための側面の白い石、教会内部（内部の木の枠組みは、冬にカーテンをかけるために設置）、博物館、宿泊棟廊下。





13:15-13:45 Khajeh Nazar Caravansary

- アッバース朝のキャラバンサライを復元。
 - 公園として整備、バリアフリー対応をしている。
 - レストラン、土産物屋があり観光客が立ち寄れる（ラマダンのためレストランは休業中）。
 - 土産物屋では陶器制作をしている、個人経営で ICHHTO の補助は受けていないがフリーゾーンから家賃、電気代を無料で提供されている。
- 職人のトレーニングは自社で行っている。オーナーはタブリーズ在住、職人は5名、別の工房に24名の職人がおり、容器制作、絵付けをしている。現在トルコの企業から100万個の陶器人形の発注があり忙しい。その他フリーゾーン内企業からの発注（企業ロゴ入り記念品など）がある。

写真はキャラバンサライ、土産物屋、Aras フリーゾーン用の出荷箱、車いす用スロープの表示。

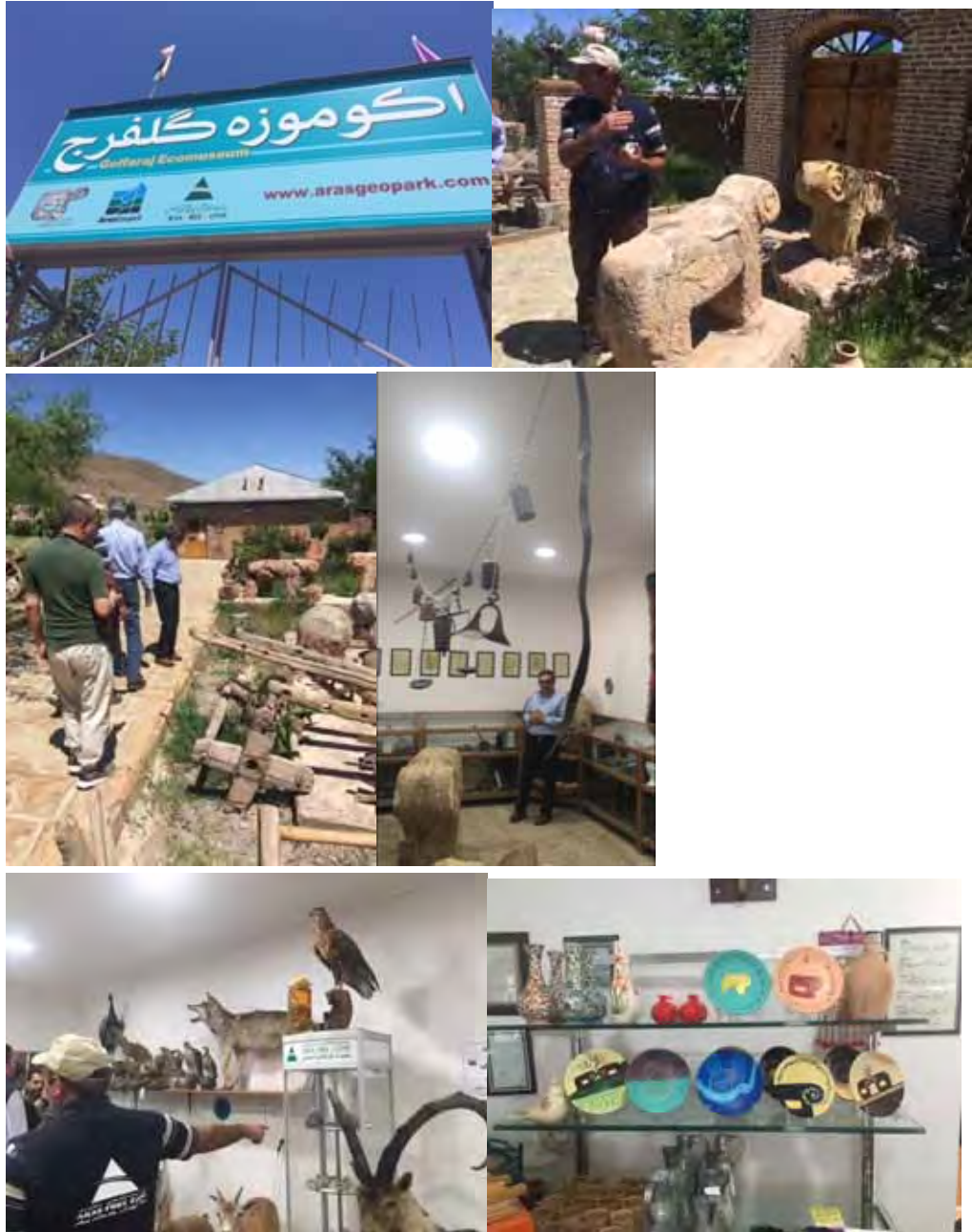


14:15-15:00 Golfaraj Eco-Museum

- フリーゾーンの村の自助プロジェクトの一環。
- 地元の自然文化の保護が目的。
- ケガをした鳥の保護も行っており、現在ワシを4羽、保護している。
- 動物の密漁が多かったが、Golfaraj Eco-Museum を開き土産物売ることで密漁を防ぎ地元の現金収入を促進している。土産物は村で生産している。
- 館内の展示品は、800年前の墓石（軍人の墓には羊をかたどった墓石を置く

文化があった)、村人から提供された古い書類、古い生活用品、剥製、等である。

写真は入口、野外展示部分、屋内展示部分、土産物屋。



以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | 西アゼルバイジャン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月18日(土) |
| 場所 | 13:00-13:30 Urmia Museum 16:30-17:30 The Site of Hasanlu Historical Region 17:30-18:00 Ecolodge 18:30 Hasanlu water strage dam |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO West Azerbaijan：Vadood Fakhari、Keyvan Norozi Urmia museum：Mrs Bigdeli The Site of Hasanlu Historical Region：Mr Shiri Ecolpdge：Mr Parvash 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | <p>13:00-13:30 オルミ工博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学芸員 Mrs. Bigdeli による解説。 • 所蔵 12000 点のうち 700 点を展示。 • 映像での展示端末が設置されているが、陶器 4 種類の画像を流すのみで、単調である(他の国立博物館であるテヘラン考古学博物館、タブリーズのアゼルバイジャン地方博物館では映像端末は無かったので、斬新性はある)。 • 年間来場者は約 8,000 名、外国人訪問者は FIT が多くフランスと日本からの訪問があった。博物館によれば、先月、7 名の日本人観光客が訪れた。 <p>写真は博物館正面入口、展示スペース、映像展示端末。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |



16:30-17:30 Site of Hasanlu Historical Region

- スルドス平原に位置。水源があり古くから農業で栄えた。14,000 個の出土品がありイラン各地の博物館、ルーブル美術館、ペンシルバニア大学等で展示されている。出土品の多くは骸骨、陶器、アクセサリーである。
- 8,000 年前から 14 世紀までの地層が確認されており考古学的に価値が高く、1950 - 1970 年代はアメリカのペンシルバニア大学の発掘チームにより発掘が行われ、現在テヘランの考古学博物館に展示されている黄金の盃 (Hasanlu Golden Bowl) はここからの出土品である。現在は発掘作業は行われていない。
- 人骨が向かい合った状態で発見されたハサンルーの恋人 (The Hasanlu Lovers) も有名であるが、遺物はペンシルバニア大学に保管されており現地には、写真パネルを除き、ハサンルーの恋人に関する解説はなかった。
- 海外からの訪問者は、考古学関係の大学からの訪問が多く、ICHHTO としてもポテンシャルがあるが観光開発が進んでいないことを認識している。
- 外国人観光客の 8 割がヨーロッパからで、2019 年 3 ~ 4 月で 40 名の訪問があった。ツアーの場合オルミエ ~ タフタスレイマン ~ ザンジャン ~ テヘランというルートが多い。

写真は遺跡案内板、遺跡全体図 (発掘区域)、サイト博物館の外観と内部。





17:30-18:00 Hasanlu 近くの Ecolodge

Hasanlu の主な収入は農業で、まだ村人の観光に関する意識は低い。

その中で宿泊施設 Ecolodge を始めた Parvash 夫妻にインタビューした。

- 2ヶ月前に開業した、個人営業で ICHHTO からの支援は受けていない。夫妻の息子がテヘランで旅行会社を経営しており、送客を期待している。
- 息子 (Alaberz Mountaineering Club 社オーナー、Yousef Tagjizadeh) に TV 電話にて話を聞いた。Alaberz Mountaineering Club 社は登山やアドベンチャー旅行を専門とする旅行会社、現在ヨーロッパ向けのアドベンチャーツアーの行程に Ecolodge 宿泊を組み込むほか、FIT テーラメイドツアーにて Ecolodge への送客を行う。
- 村には伝統工芸の販売所がありキリムなどを販売している (店舗未確認、Mrs. Parvash 談)
- 村にはオルミエ市内にも支店があるアイスクリーム店の本店がある (村の広に面した店舗を確認)
- ICHHTO としては、付近にラムサール条約登録の湿原が 3ヶ所あるので、遺跡 + エコツーリズム、での売り出しを考えている (Mr. Vadood Fakhari)。しかし、遺跡 + エコツーリズムとすると集客ターゲットが定まらないことが危惧される (遺跡好きとキャンプや自然好きとは必ずしも一致しない)。村の観光コンテンツ (宿泊、伝統工芸、アイスクリーム、食事) を充実させ、イランの村での民泊を促進する戦略も考えられる。

写真は Ecolodge 施設入口、宿泊スペース、共用スペース (食堂) イランの伝統こたつ、伝統衣装の着付け体験、伝統菓子。



18:30 Hasanlu 灌漑用ダム

- 農業灌漑用のダム。観光設備は全くないが ICHHTO としては水資源公社と協力し、観光開発への可能性を探っている。
- 釣りスポットとして人気で鯉が釣れる。
- Ecolodge のオプションツアーとして、釣り、釣れたものを調理して食べるという Ecolodge のコンテンツ充実に使える可能性がある。

写真はダム湖畔。



以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | 西アゼルバイジャン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月19日(日) |
| 場所 | 09:00 Khantakhti 10:00 Motelleb Khan Mosque of Khoy 11:00 the old building of municipality(Khoy city) 11:30 Shams-epTabrizi's Cemetery (Khoy city) 13:30 Qara Kilisa*UNESCO World Heritage 16:00 Maku Free zone 16:30 Rural Village |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO Urmia：Vadood Fakhari*Master of Ecotourism ICHHTO Khoy：Mr Bayramzadeh*Deputy Qara Kilisa：Mr Moharram Abdllahpour ICHHTO Maku：Mr Khouablou Maku free zone：Mr hamzelou*Free zone Culture deputy 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 09:00 Khantakhti オルミエ市から76Km、国道沿いの山の斜面にササン朝時代の記念碑が残っている。アルメニアでのローマ軍との戦争を描いたレリーフ。付近に目立った観光資源はなくKhoyの街に行く途中で立ち寄るのに適している。 写真はレリーフと付近の様子  10:00 Motelleb Khan Mosque (Khoy) 西アゼルバイジャン州でオルミエに次いで大きい町のKhoyの観光資源視察。Motelleb Khan Mosqueは屋根のないモスクとして知られているが、研究によりホセイニエ(シーア派の殉教儀式施設)として建てられた可能性も示唆されている。イ |

ランのモスクは、床を正方形、壁を正八角形になるようにし、ドームを置く特徴があり、このモスクはその特徴をよくとらえている。

- 夏期の3ヶ月とノウルーズ期間のみ一般公開、入場無料。



11:00 Old Municipality Building (Khoy)

- ガジャール朝時代に建てられた西洋建築とイラン建築が混じった特徴ある建物で、中庭は市民の場となっている。建物は現在も公共施設として使われているため観光客に公開していない。



11:30 Shams-i-Tabrizi Cemetery (Khoy)

イスラム教神秘主義の一派であるメブラーナ教団の創始者の師匠にあたる、シャムセタブリーズの墓。

- イランからトルコに向かう巡礼ツアーの出発地点。
- ノウルーズ時期には 13000 人の訪問があった。
- イラン人の訪問が多いが、外国人観光客は、メブラーナ教団関係者(トルコ人)の訪問が多い。
- 塔のデザインが独特で、権力の象徴であった羊の角がうめこまれている。
- 広場中央にシャムセタブリーズを記念する建物を建設中だが、予算不足で工事が止まっている。

写真は広場全体写真と、塔にうめこまれた羊の角。



13:30 Qara Kilisa*UNESCO World Heritage

東アゼルバイジャン州で視察済した聖ステパノ教会とともに世界遺産に登録されている。

アゼルバイジャンで殉教したキリスト 12 使徒の一人、タダイに捧げる教会として西暦 68 年頃に建てられた。最初は主に黒い石を使って建てられ、外観から黒の教会 (Qara Kilisa) と呼ばれるようになったが、近年の研究により城塞であった可能性も示唆されている。

- 教会表面の彫刻は素晴らしいが、全体的に保存状態は良いと言えない。
- 教会内部には足場が組まれているが、現在、修復は行われていない。塔には鳩の巣があるらしく、鳩が塔内部を飛び回っていた
- 現在は 7 月末のアルメニア教徒の集会以外には教会としては使われていない。昨年の観光客数は 24,000 人。
- 付近に宿泊施設はなく、数日前もヨーロッパ人 FIT が車中泊していた。
- ガラキリサのすぐ隣に小さな村がある。村の産業は牧畜で、村人は観光業に関心がない。
- 土産物屋は無くレストランは閉まっていた。
- ARAS フリーゾーンが投資をしている聖ステパノ教会と比較すると、文化遺産の保存と観光利用の双方の面で弱いように見受けられた。

写真は教会外部遠影、外部近影 2 枚、内部 2 枚、レストラン。



16:00 Maku Free Zone

別紙にて報告

16:30 Rural Village

Maku Free Zone のブームギャルディの事例として視察。
共有スペース兼レストラン（屋内、屋外） 客室がある。



写真は、共有スペース兼レストラン（屋内） 客室内、レストランの食事。





以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|--|
| 名称 | アルダビール州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月20日(月) |
| 場所 | 12:30 Sheikh Safi ad-Din Shrine*UNESCO World heritage 13:45 Sheikh Amin ad-Din Jebraii Shrine 15:00 Hazelnut forest |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO Ardabil : ImanAli Imani, Soghra Farshi, Abdolrahim valiyari Sheikh Safi ad-Din Shrine : Mrs. Abdarashidi*Guide Sheikh Amin ad-Din Jebraii Shrine : NA Hazelnut forest : Jahangir Shahbazi*ICHHTO 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | <p>12:30 Sheikh Safi ad-Din Shrine*UNESCO World heritage</p> <p>イスラム教シーア派の神秘主義教団であるサファヴィー教団の祖、シェイフ・サファイーオッディーンの霊廟。彼の子孫のエスマーイールはシャーを名乗ってサファヴィー朝を開きシーア派を宣言、イランの国教とした。廟の隣は陶器の館になっており、中国の明時代の貴重な陶器が展示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 廟の周辺は土産物屋やレストラン(ラマダンのため休業)がきれいに整備されている、アルダビール市が土地を買い取り、整備した。 ● 霊廟付近の店舗は、名物菓子、付近の山から取れる宝石を使った宝石屋、革製品、キリム製品など。派手なデザインが多くイラン人好みの商品が多い。一部の革製品、キリムは外国人観光客の好みにも合いそうである。 ● 霊廟は陶器細工、絨毯、建築様式全てすばらしく、観光の目玉として十分である。 ● ICHHTO 監修のイラン国内アプリ BAZAAR を使えば、QRコードを読み込むことで解説を見ることができる。 <p>写真は霊廟付近、霊廟外観、霊廟内部2枚、QRコードリーダー、土産物屋。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |



13:45 Sheikh Amin ad-Din Jebraii Shrine

シェイフ・サフィーオッディーンの父親の墓。内部は一部修復してあるが痛みが激しい。内装のスタッコ仕上げが特徴である。入場無料。入場者は平日 30~40 名。外国人の訪問は少ない。外国人観光客もシェイフ・サフィーオッディーンの巡礼客が多い。

- シェイフ・サフィーオッディーンの霊廟と組み合わせる観光資源としてポテンシャルがあると感じるが、保存状態が十分でないのが残念である。

写真は外観、入口、内部、墓、広場、入口の門。



15:00 Hazelnut forest

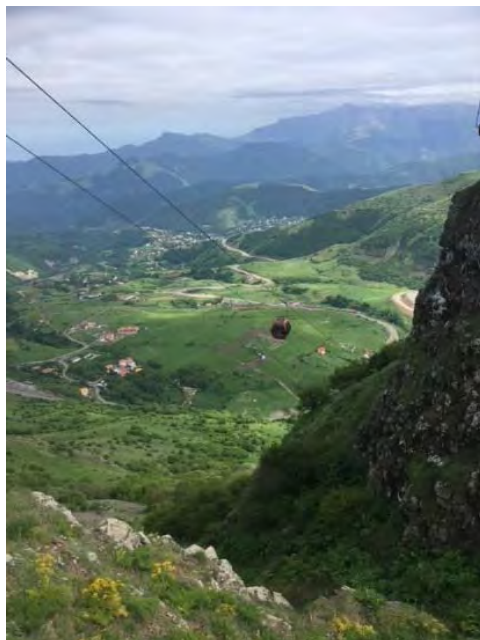
ヘーゼルナッツの森と言われているが、実際は平原で、ピクニック、ハイキング、トレッキング、キャンプ場（未確認）、野生動物保護区（立ち入り禁止のため外観視察）がある。

- 平日であるが自家用車でピクニックに来るイラン人家族が何組かいた。
- トレッキングコースは2本ある。コースの一部利用で2～3時間のトレッキングも可能。また、ギーラーン州からの宿泊トレッキングも可能。トレッキングガイドもアルダビール州の ICHHTO が管理している。山のふもとからロープウェイがあるが、ロープウェイを使わずに登ると1時間半かかる。
- 宿泊を含むトレッキングの場合、宿泊施設は無いのでトレッキングコース途

中の村で宿泊または温泉地での宿泊になる。付近のブームギャルディは 1ヶ所。今後さらに建設が予定されている。


- トレッキングルートの途中には湖がある。
- 夏のシーズンにはロープウェイの利用客が平日 2,000 名、週末はさらに多い。
- ロープウェイは民間会社により運営されている。
- 道路は一部、舗装が痛んでいたりと、未舗装の箇所がある。
- アゼルバイジャン共和国とギーラーン州のカスピ海を望む雄大な自然の見晴らしに、国内観光、周辺国からの観光客に関しては、ポテンシャルは高いと思われる。

写真はトレッキングコースを見下ろす写真、ロープウェイ。



以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | アルダビール州現地調査 (2) |
| 日時 | 2019年5月21日 (火) |
| 場所 | 10:30 Kanzag Village 11:30 Alvaresi Village 15:00 Sarein City |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany、Dr.Yousefi (文化遺産局研究所) ICHHTO アルダビール州 : ImanAli Imani ICHHTO サレイン : Seyed Mohseni アルダビール州ホテル協会 : Mr Bazri 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | <p>10:30 Kanzag Village</p> <p>1996年に村が地震で倒壊した際、地下に約2,000年前の集落跡が発見された。1枚目の写真は1996年に倒壊した村。現在は無人で村人は1kmほど離れた場所に移住している。遺跡はこの倒壊した建物の下にあり、アリの巣のような集落跡が発見された。2018年から発掘を始め、これから発掘を本格化する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> • まだ管理人はおらず、訪問者数は不明。 • 発掘途中の発掘現場。 • 遺跡の保護はされておらず、遺跡内はゴミもある。 <p>写真は1996年に倒壊した村、地下の集落跡3枚。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |



11:30 Alvaresi Village

スキーゲレンデ、グラススキー、トレッキング、レストランや土産物屋のある観光エリアである。

- 入口ゲートで入場料を払う、ここで訪問者数も管理している。
- 訪問者数は年間約 100 万人（家族連れ、ピクニック等のスキー場利用者以外も含む）。
- **Alvers village** 入口ゲートからリフト乗り場まで山道を車で 20 分ほどかかる。
- 道路は整備されており、リフト乗り場まで車で行くことができる。
- スキーシーズンは 11 月半ばから 4 月末まで。峠が多い地形でなかなか雪が溶けない。調査時点（5/21）でまだ積雪は 8 メートルとのこと。
- スキーシーズンは長いが、トレッキングのできる期間は 7 月上旬から 10 月上旬までと短い。遊牧民が使う道を整備し 4WD やオフロードバイクも走れる道を作った。案内板等の整備はしていない。
- 遊牧民は、現在も定住せず、32 部族の人口は 28,000 人ほど。イラン国内の家畜（羊、ヤギ）生産の約 3 割を担っている。
- 遊牧民はほとんど観光に関与していないが、今後、遊牧民が季節によって住む場所の近くにキャンプ場等を作り、遊牧民と交流できる機会を検討している。
- 付近に滝、湿原もある。湧き水は、村にあるミネラルウォーター工場ですべて使われてしまうため観光資源としては使われていない。
- 今後、地熱を観光に利用する方法を考えたい。

写真は、雪を背景に写真を撮っているイラン人観光客、リフトやスキー場のチケット売り場（リフト 20 万リアル、スキー場 35 万リアル等）、スキー場へのリフトの様子。



15:00 サレイン市内

温泉地として活気がある。大通りに名物のはちみつ、ヨーグルトを売る店、土産物屋、水着屋、レストラン（ラマダン中のため多くは閉店）が並んでいる。温泉ホテル、公共温泉施設が立ち並んでいる。

- アンティークショップがツアーオペレーターを兼ねていた（Savalangasht Traveling Agency, Mr Savalangasht）。今回、訪問した Kanzag Village 付近でのカートを使ったツアーを行ったこともあるとのこと。
- 毛皮屋店主によると、イスタンブールに2つの支店があり輸出している。
- トルコのイズミールから投資調査団が視察に来る予定だが、投資内容を含め詳細は未定（アルダビールホテル協会：Mr. Bazri）。

写真は公共温泉施設、水着屋、蜂蜜屋の看板、蜂蜜屋、雑貨屋、毛皮屋、土産物屋店主によるカートを使ったツアー。



以上 (記録：田上)

視察メモ

| | |
|------|--|
| 名称 | ザンジャー州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月22日(水) |
| 場所 | 13:00 Archaeological Museum of Zanjan 14:10 Rakhtshooy Khaneh 15:30 Zanjan City Streets 15:45 Zanjan Bazaar 16:30 Cultural Social and Sports Organization of Zanjan Municipality 17:00 Qavazang Area |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO ザンジャー州：Abolfazl Ajeli、Mortorn Nazeri、Hosein Khamsei 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 13:00 ザンジャー考古学博物館 学芸員 Bahram Bayat による解説。 ガジャー朝時代の建物を博物館に転用した。一番の見どころは 1993 年に塩抗で発見された 3 世紀のミイラ「ソルトマン」の展示である。その他、ザンジャー州における紀元前、青銅器時代、イスラム時代の発掘品が展示されている。 <ul style="list-style-type: none"> • 一部の展示ケースは旧式。 • 所蔵品は約 1,000 点で、うち展示品は 500 点程度。 • ミイラ「ソルトマン」：ザンジャー州ハムゼヘリ村付近には巨大な岩塩ドームがあり、1994 年、採掘中にミイラが発見された。その後の発掘調査で計 6 体のミイラが発見された。1,500 年～2,200 年前の落盤の犠牲者だとされている。塩抗でのミイラは世界で唯一であり、洋服、靴、装飾品(ナイフ)内臓なども残っており、X 線検査、カーボン検査によりミイラが最後に食べたもの(魚)まで確認され、古代の生活を知るうえで貴重な遺物である。ミイラの一部はテヘランの考古学博物館で展示されている。 • ミイラ展示ケースは、ほぼ真空に保たれ、温湿度管理されている。 写真は美術館外観(案内パネル)、美術館内、展示ケース、展示品案内パネル、ザンジャー州案内アプリの宣伝。 |

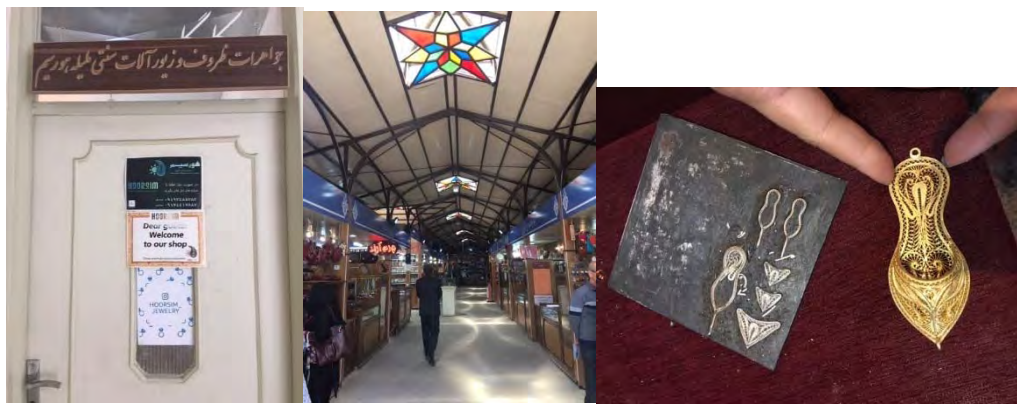
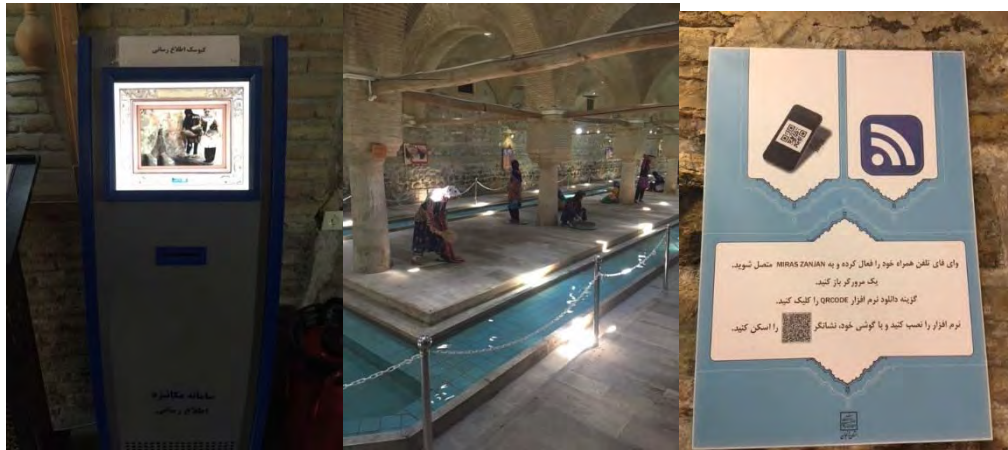


14:10 Rakhtshooy Khaneh

1928 年に建設された公共の洗濯場。ザンジャー市初代市長が、寒い冬に女性たちが屋内で洗濯ができるようにと建設した。郷土博物館として利用されている

- 館内入口に電子案内版がある。
- 館内には民族衣装を着て洗濯する人形が展示されている。民族衣装はすべてオリジナルである。
- 館内には QR コードリーダーでの解説あり。
- 2 階部分にはザンジャーの伝統工芸の靴（チャログ）の展示があり、市民向けに無料のチャログ作り教室が開催されている。
- 中庭はカフェ、伝統工芸のワークショップ店舗になっている。
- バザールが併設されており、職人の実演を見学できる。経験 12 年の銀細工職人に話を聞いたところ、チャログ型のアクセサリは制作に 3 日を要し、販売価格は IRR 7,000,000（約 USD 50）。

写真は電子案内板、館内、QR コードリーダー、チャログ展示、チャログ教室の案内、中庭のワークショップ、バザール、銀細工。



15:45 ザンジャー市街

ザンジャー市は中心部に観光名所が集まっており、博物館、Rakhtshooy Khaneh、バザールも徒歩で移動できる。ザンジャー市は、更に、古い街区を買い取り、街区整備を行うとのこと。

写真は街区整備が完了した区間。



15:45 ザンジャーバザール

約 200 年前に建設。店舗数は 1,000 軒で、モスク、ハマーム等の公共施設もある。ザンジャー州案内アプリの開発者 Mr. Mosta Lavi はバザールで家電販売店を営んでいる。

- 2018 年に開発、アプリではザンジャー州の観光サイトを紹介している。
- ノウルーズ期間には 4,300 件のダウンロードがあった。
- 現在はアンドロイドとウェブに対応。9 月から iPhone への対応可能を目指している。
- 将来は他の州とも連携し、ビジネスチャンスの拡大に努めたい。
- 現在は利益なし。元々、2 年間は利益なしでアプリの知名度を向上させ、その後、アフェリエイト、コミッション制などで利益をあげる計画。
- 2018 年、イラク北部アルビルの展示会に出展し、アルビル州政府、アフガニスタン政府が興味を示した。

写真は、バザール入口、アプリ開発者 Mr. Mosta Lavi、バザール内モスク、ハマームを改装したカフェ兼土産物屋の内部。



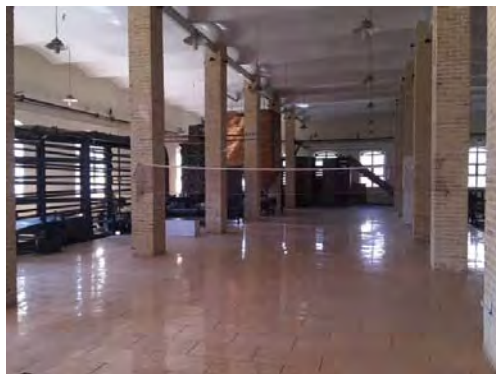
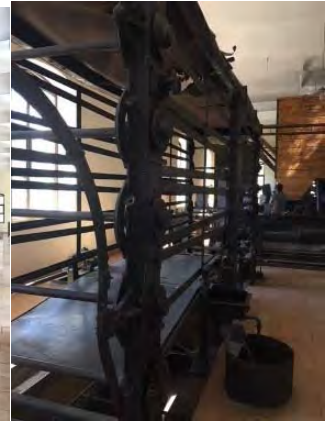


16:30 Cultural Social and Sports Organization of Zanzan Municipality

廃業となったマッチ工場で今後観光投資をする予定。

- イベント会場、文化スポーツ関連施設にする予定であるが、まだ計画段階で、一般公開していない。
- 取り急ぎ卓球台とコートを設置したとのこと。
- ザンジャー市が無料で運行するオープントップ観光バスを確認した。グループの予約に応じて運行し、決まったタイムスケジュールは無い。側面の国旗は、昨年実施した ECO シルクロードのイベント参加国。

写真は入口、内部写真3枚、観光バス。



17:00 ガバザンク地区

観光投資を期待するガバザンク地区を視察した。ザンジャー市側の北側の高台に位置し、市街を一望できる。展示会場もある。

写真は、ガバザンク地区からザンジャー市街の景色、展示会場。



以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | ザンジャー州現地調査 (2) |
| 日時 | 2019年5月23日 (木) |
| 場所 | 09:00 Soltaniyeh Dome*UNESCO World heritage 10:45 Dash Kasan (Dragon Temple) 11:30 Shahbolghi Spring 11:50 Chalabi Oughlou Mausoleum 13:30 Arghavan Eco-Lodge and Guest House 17:00 Katalekhkor Cave |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO Zanjan : Abolfazl Ajeli 、 Mortorn Nazeri ICHHTO English Guide : Mrs. Zahra Mohammadi ICHHTO Soltaniyeh : Ms Asgari Arghavan Eco-Lodge and Guest House : Ms. Somaye Kalantari ICHHTO Katalekhkor Cave area : MR Yollbas 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 09:00 ソルタニーエ*UNESCO 世界遺産 ICHHTO ザンジャー州の公認英語ガイド Mrs. Zahra Mohammadi による解説。 ソルタニーエは、14世紀にイルハーン朝の首都として栄えた都市遺構で南北の門、モスク、ハマーム、付属施設を備えている。 ドームは3階建。内部はタイルとスタッコの2層になっており、現在も修復が進められている。 <ul style="list-style-type: none"> ● タブリーズ大学建築学科の学生の団体が訪問していた。 ● 外国人の訪問者数の国別ランキングは1) フランス 2) イタリア 3) ドイツ 4) 中国 5) 日本 6) トルコ 7) ロシアである (ICHHTO ガイド Mrs. Zahra Mohammadi) ● 14世紀に建設されてから現在まで31回の地震にあった。ドームは現存しているものの城壁、門、塔は現存していない。 ● 修復専門家 Mrs. Parvameh Olyaei の解説。オリジナルと修復部分をはっきりと区別するため、色の濃さを変えて修復を進めている。修復部分の写真を撮りコンピュータ分析後、資料コンテを作成しコンテを基本とし修復を進めている。修復技術者はICHHTO 職員とは限らず、契約ベースもいる。 <p>写真はドーム外観、タブリーズ大学からの団体、修復現場の覆い、修復作業場内、作業用資料、修復の解説、タイルとスタッコが2層になっている様子、3階部分の装飾、ドームから見下ろした都市遺構。</p> |



10:45 Dash Kasan (Dragon Temple)

約 20 年前に発見され発掘を開始した岩窟寺院。モンゴル系イルハーン朝時代の建築のため中国の影響を受けており、2つのドラゴン像が残っている。

- 2つのドラゴンはガラスケースで覆われており、このケースが遺跡の景観を

損ねている (ICHHTO ガイド Mrs. Zahra Mohammadi)。

写真は遺跡全体、ガラスケースに覆われたドラゴン像。



11:30 Shahbolghi Spring

ICHHTO ザンジャー州が整備した公園で、ピクニック地として人気。

- ザンジャー州郊外から来た親子 3 人は、友人から口コミで評判を聞き、ピクニック目的で、自家用車で訪問していた。
- 周辺観光地を訪ねた後のピクニック地として滞在時間を延ばすのが ICHHTO の狙いである。
- 売店 1 件、レストラン (ラマダン中のため閉店) 1 件あった。
- ホテル誘致を構想している (ICHHTO ガイド Mrs. Zahra Mohammadi)。



11:50 Chalabi Oughlou Mausoleum

国レベルの文化遺産に登録されている。イスラム神秘主義の祖スーフィーの弟子であった Chalabi Oughlou の霊廟と修道院。イルハーン時代の建物。ドームの内部は、タイル細工ではなく美しい漆喰細工が特徴である。

- 修道院は現在使われていないが、ホテルにしたいと考えている。

写真は遺跡正面、修道院部分、遺跡模型、模様を配したレンガの外壁。



13:30 Arghavan Eco-Lodge and Guest House

ICHHTO ザンジャー州との協議に出席していた Ms. Somaye Kalantari のブームギャルディを見学した。パイロットプロジェクトとしてこの村でエコロッジの経営を開始し、今後はエコロッジに限らず小規模なホテル経営も視野に入れている。

- Ms. Somaye Kalantari が夫婦で経営している。村長の家兼学校だった建物を購入し改修した。
- 夫婦ともにイタリアに留学経験があり、個人的なネットワークおよびインスタグラムで集客している。旅行会社とは契約していない。
- 2019年3月オープン。エコロッジビジネスを始めるにあたりゲシュム島他、いくつかの候補地があったが物件が見つからず、この村を選んだ。テヘランに近く、水道、ガス、アクセスロード、病院などインフラが整備されているのが理由。また、ザンジャー州はアゼリー民族の地域であるが、この村は少数民族ローロ族の村で、夫妻のルーツもローロ族のため親しみを持った。
- ザンジャー州にはホテルが少ないので、ビジネスチャンスがある。2019年4月の宿泊者数は50人、5月も増えている。平均して2泊する。客層はイラン人グループ、ヨーロッパ人 FIT (Ms. Somaye Kalantari)。
- テヘランから近いので、イラン人はテヘランからの週末旅行が多い。
- ヨーロッパ人宿泊者の傾向は、イラン滞在約1ヶ月の間に、タブリーズ、オルミエ、ザンジャー、ガズヴィーン、テヘランからイラン南部へと移動

するルートでの宿泊が多い。

- 部屋数は4。ベッドはなく布団で寝る。床に布を敷いて食事をし、食事が終わったら布団を敷き、すべてを1部屋で行う。
- 食事提供可能（1日前までに要予約）。エコロッジ発のツアーもある。夫妻にはガイド資格がないが、簡単な観光案内は可能。
- 村の女性が作る土産物を販売している。素朴だが、センスが良い。イラン人は買わないが、外国人は買う。
- 部屋には案内書があり、消灯時間、WIFI案内、緊急連絡先、禁止事項などが記載されていた。
- 宿泊していたイラン人団体は、イラン北西部に住む旅行サークル（男女混合で約30名）の週末旅行。インスタグラムでこのエコロッジを知った。

写真はエコロッジ外壁、入口、共有スペース、中庭、焚火、共有シャワー・トイレ、宿泊部屋内での食事セッティング、食事、土産物販売、施設案内書。



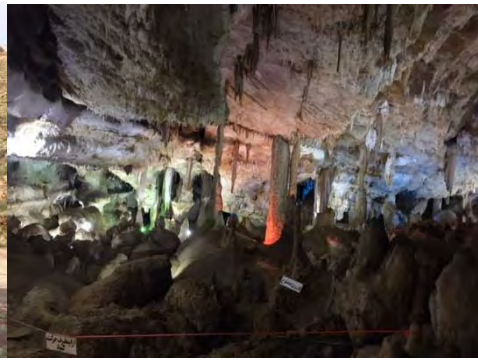


17:00 Katalchkor Cave

ザンジャーンから 140 キロ、テヘランから 410 キロの距離にある。イランで最も知られている洞窟はハマダーンにあるアリサドル洞窟だが、Katalchkor 洞窟はそれに次いで有名とのこと。見学コースは約 1.5 km で、それより奥は未整備であるが、さらに先まで続いていることが確認されている。

- 年間入場者数は 10 万人（アリサドル洞窟は 100 万人）。
- 入場者はノウルーズ時期と夏休みに集中している。
- 1996 年に開業。現在まで事故はないが、職員が新ルートの調査をした際、18 時間、迷ってしまったことがある。
- 30 分に 1 回程度の頻度で、職員がガイドとしてつき団体で見学をする。
- 見学ルートの拡張工事の際に 3,000 年前の人骨、動物の骨が発見されたが、展示はしていない。
- 今後も、新しい見学ルートを整備していく構想がある。

写真は洞窟入口と内部。



以上（記録：田上）

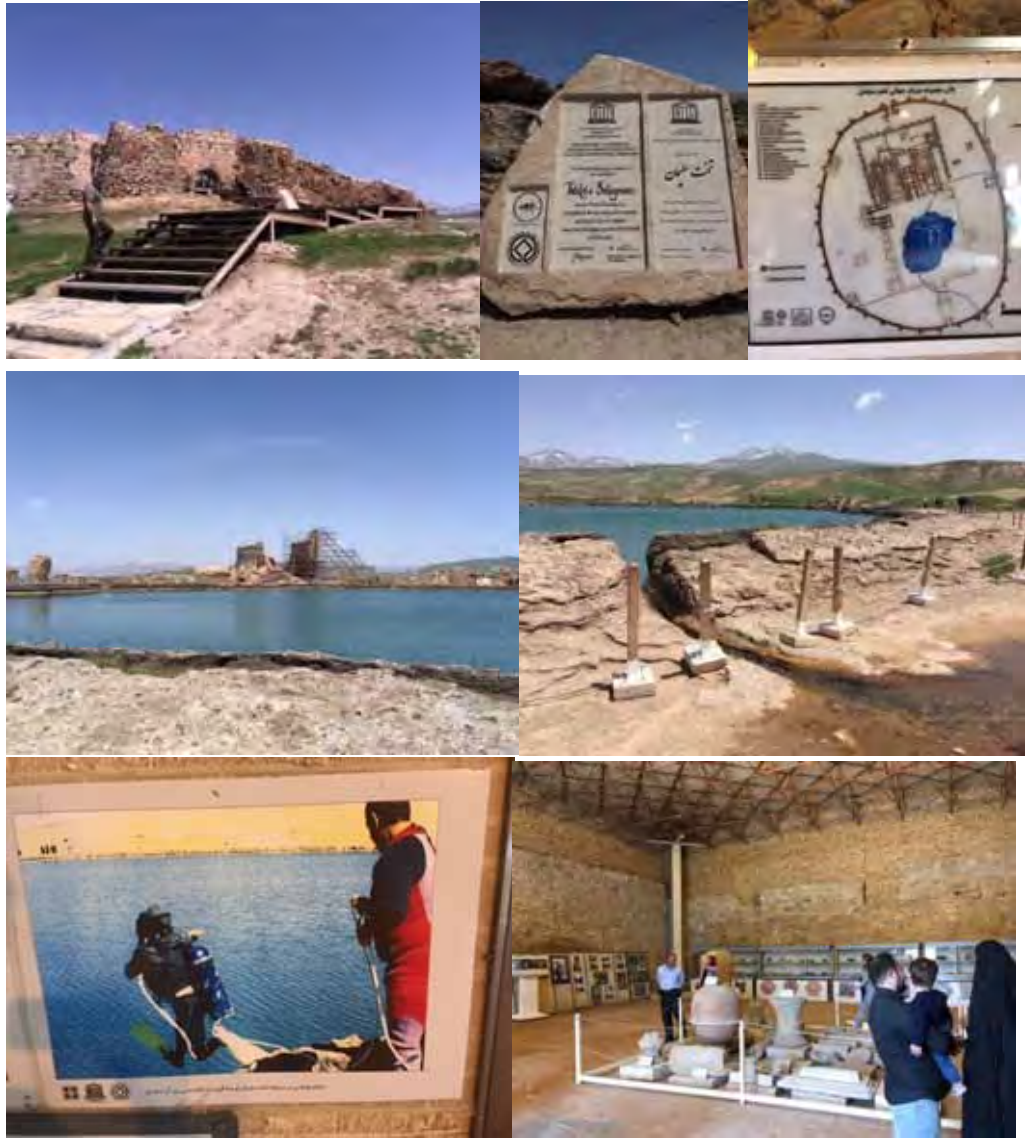
視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | 西アゼルバイジャン州及びゴルデスタン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月24日(金) |
| 場所 | 12:00 Takht-e Soleyman 16:00 Karaftou Cave |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO Kurdistan：Yaqub Gaviryany、Mr. Karimi ICHHTO Divandarrch：Mr. Kahim Takht-e Soleyman Guide：Mr. Aliniya Karaftou Cave Manager：Mr. Vafaei 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohammad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | <p>12:00 Takht-e Soleyman</p> <p>タフテ・ソレイマーンガイド Mr. Aliniya による解説。ゾロアスター教の神殿。アケメネス朝以来の歴史を持つといわれているが、サーサーン朝時代に多くの建物が作られた。湧き水を囲むように遺跡が並び、湖が神聖化されていたことが伺える。イスラム時代に遺跡は荒廃したが、イルハーン朝時代に夏の離宮として利用された。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ピークシーズンは夏。アクセス道路の状態が悪く通行困難になるため、冬は訪問者が減る。 • 遺跡内に案内版、誘導版は多くないが、木道が適切に設置されている。 • 湖は湧き水で、深さ 112m、水底の温度は 47 度、表面の温度は 21 度あり、冬も凍らない。水量は毎秒 50 リットルで周辺の農業に利用されているが、飲用には適さないため、太古から飲料水として使われていない。まだ水中の調査はされていない。水中からも考古学的遺物が出る可能性がある。 • サーサーン朝時代、重要なゾロアスター教の神殿は 3 ヶ所あり、タフテ・ソレイマーンは王・貴族・軍人用の神殿であった(残る 2 ヶ所は、農民用、聖職者用)。 • ゾロアスター教では、陽が昇る東を善、陽が沈む西を悪という考えがあった。遺跡の東側に宗教施設、西側に政治施設が配置され、中央の火を囲むようにトンネルが作られていた。人間は聖なる火に近づくことができずトンネルを通過していたが、まだトンネル周辺の調査はされていない。 • 遺跡内の博物館はイルハーン朝の集会所を利用している。 • ガイドは通年 2 名、夏は 3 名体制である。ガイド料金は無料。スケジュールは決まっておらず、一般観光客であれば 30 分、考古学関係者対応であれば 4 時間かけることもある。 • 一般的な解説の流れは、ソロモン王の伝説、湧き水によって文明が発達したこと、ゾロアスター教について、イルハーン朝について、の 4 点に沿って |

進めている（ガイド Mr. Aliniya）

- 瞑想を好む旅行者にとって、エジプトのピラミッド、メッカのカーバ神殿と並ぶ3大パワースポットである（ガイド Mr. Aliniya）

写真は遺跡へのアプローチ、ユネスコ案内版、遺跡全体図、湧き水、湧き水出口、湖の調査のパネル、博物館、映像案内、遺跡内トンネル、ミュージアムショップ。





16:00 Karaftou Cave

ディワンダレー市から 70 キロ、サナンダージ市から 170 キロ離れている。

4 層の居住区があり、自然の洞窟を人工的に拡張した。1818 年に発見され、1918 年にイギリス人研究者の調査により洞窟の地図が作られた。付近は DOE が管理する野生動物保護区で、洞窟内にもツバメ、鳩、鷹の 3 種の鳥が生息している。

- 1996 年の調査で洞窟内の堆積物を取り除き見学ルートを作った。
- 現在、入口から 250m 奥までが観光客が立ち入り可能。
- 洞窟内には階段跡、家畜をつないだ跡、野生動物の壁画がある。またランプを使ったためススが湿気により石化して天井は黒ずんでいる。
- 春と秋に観光客が多く、年間の観光客数は外国人 200 人、イラン人 5 万人程度である。
- 外国人観光客は 9 割がヨーロッパ人でキャンプが目的。付近に宿泊施設は無い。4 キロ離れた村にブームギャルディとキャンプ場を作る構想があり、ICHHTO が土地を確保している。
- 洞窟内に入らず、付近でピクニックをする家族も多い(統計に含まれない)。ピクニック客は、大半がコルDESTAーン州からの訪問である。

写真は岩山、洞窟入口への階段、駐車場、洞窟内部、野生動物の壁画、家畜をつないだ跡、管理用の監視カメラ映像。

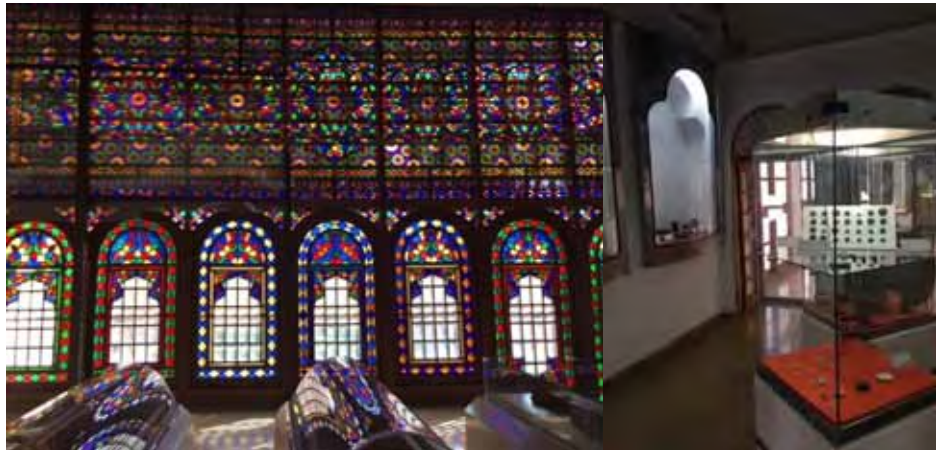




以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|--|
| 名称 | コルデスタン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月25日(土) |
| 場所 | 08:45 Sanandaj Museum 09:15 Asef Mansion 12:00 Moshir Diwan Mansion 17:00 Daratafi Village 19:00 Zariwar Lake |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO Kurdistan：Yagub Gaviliyan、Hamid Eskandari、Mhammad Behravan、Kurosh Ghaderi、Sattar Karimi、Mr.Mokary Sanandaj Museum：Mr. Rahimi Moshir Diwan Mansion：Mr. Sofrabi Zaribar Lake Birds Organization (NGO)：Naseh Vausein 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 08:45 サナンダージ博物館 ガジャール朝時代に州裁判所として使われた建物を ICHHTO の管理の下、博物館に改修した。イラン建築の特徴である外側、公的空間と内側、私的空間で全く違う装飾をする、という特徴をよく表している。 <ul style="list-style-type: none"> • 市内には歴史的建築が6件あり、全て ICHHTO が管理している。 • 地下には伝統的なイランの池(ホースハーネ)がある。このホースハーネはクルド式ではなくカシャー高原方式で、建築当時に他地域との交流があったことを示している。 • 展示品は、紀元前、青銅器時代、イスラム時代、近代、に分かれている。 • 訪問者数は年間3万人。うち外国人は800名程度、アメリカ、デンマーク、フランス等から訪問実績がある。イラン人観光客はノウルーズ時期と夏休みに集中している。 • 室内のステンドグラスを含む建物が魅力である。 写真は、建物入口、中庭を望む建物外観、建物内の2階部分、1階展示部分。 |



09:15 Asef Mansion

サファヴィー朝時代以来の屋敷を修復し、郷土博物館にした。改装期間は 1999 年から 2003 年まで。中庭はクルドの伝統料理レストランとして使われている。

- 入口横にハマーム跡があり、見学できる。
- ICHHTO コルDESTAーン州が今年の 3 月より開始した QR コードを使ったアプリまたはウェブによる解説が利用できる。言語もペルシア語、クルド語、英語の 3 言語に対応。
- 郷土文化を伝えるため伝統的な家の中の様子、薬局、円卓(こたつ)での一家団欒の様子などが人形を使って再現されている。
- 有名な地元伝統工芸作家の作品も収集・展示している点が、現在まで視察した他都市の郷土資料館と異なっている。

写真は、建物入口、レストラン案内、中庭、レストラン、ハマーム、展示説明用 QR コード、伝統家屋での暮らしを再現している人形を使った展示。



12:00 Moshir Diwan Mansion

ガジャール朝時代の政府の建物を ICHHTO が現在修復中。

天井の修復のみ終了し、建物外部、内部の修復を現在進めている。

- 天井部分の修復は、建設時の職人の子孫が担当した。
- 修復中であるが観光客に開放しており、ICHHTO コルドスタン州の QR コードで解説を見ることができる。

写真は、建物外部、内部、修復が終わった天井部分、QR コード、修復前の状態の記録パネル。



17:00 Daratafi Village

鳥類愛護 NGO の Naseh Vaosein 氏による解説。Naseh Vaosein 氏は 20 年前より鳥類愛護活動に関わっている。

- この村ではコウノトリの保護を行っている。コウノトリは 2 月末に飛来し 8 月に移動する。
- イランでバードウォッチングは 10 年ほど前から少しずつ注目されている。
- 近くの湿地でもバードウォッチングが可能。イラン全土の鳥類 552 種類のうち 279 種類が確認されており、絶滅危惧種の鳥類もいる。
- 湿地のハスの花も観光客に人気。
- 村人も冬は巣の雪を下す等の保護活動に協力している。
- 現在の会員は 25,000 名、うちボランティアガイドが 100 名である。
- NGO では環境教育を重視しており、2018 年 Naseh Vaosein 氏は 7,000 人以上の子どもたちに啓発活動を行った。鳥がプラスチックゴミを食べてしまう問題があり、環境教育を通してゴミをなくすようにしたいとのこと。
- 観光客向けに、村で取れた牛乳を使ったアイスクリーム屋が何件も並んでいる（コルDESTAN 州の他の地域でも見られる）。
- ICHHTO エコツアーリズム専門 Mr. Mokary による ICHHTO の取組みの紹介。

国内旅行会社向けにファムトリップを行った結果、現在、1年に40グループの訪問がある(イラン人団体旅行)バードウォッチングだけでなく山荘やブームギャルディへの宿泊、現地料理などの素材を組み合わせている。なおコルデスターン州でのライセンス保持ガイド数は4名である。

写真は、コウノトリの巣、湿原、Naseh Vaosein氏による解説、コウノトリブランドの地元アイスクリーム屋の看板とロゴ。



19:00 Zariwar Lake

ICHHTO コルデスターン州との協議でも DOE から話題に出た、ラムサール条約に登録されている Zariwar 湖を視察した。

- 湖の西岸は平らな土地で、イチゴ等の果樹、野菜の畑となっている。農道を通って湖岸の湿地にたどり着くあたりがバードウォッチングに適したサイトとなっている。
- 湿地の湖面にはハスも見えた。
- 東岸の湖を見下ろす丘の上には、革命前時代に作られた展望レストランと宿泊棟から成る観光施設がある。

写真は、湖の東岸の観光施設、そこからの Zariwar Lake の景観。



以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|---|
| 名称 | コルDESTAーン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月26日(日) |
| 場所 | 10:00 Hawraman Takht Village 11:30 Pir-e Shaliar 12:20 Silen Village 15:00 Daraviyan Village |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO Kurdistan : Yagub Gaviliyan、Hamid Eskandari、Mhammad Behravan、Kurosh Ghaderi、Sattar Karimi、Mr. Mokary ICHHTO Sarvabar: Mr. Taheri *Manager Hawraman Takht Village : Mr. Shoan*Tour Operator、 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 10:00 ホラマンタクト村 ホラマン溪谷は、住民が伝統的な生活を守っていることで知られる。1984年に溪谷へ通じる道路が開通するまで、住宅様式、衣装、言語、風習などが守られてきた。夏は山、冬は谷でと2拠点で生活するが、共に定住する家があるので遊牧ではない。ホラマン溪谷は自然が豊かであるが、自然保護地域等には指定されていない。ホラマンタクトはホラマン溪谷の中心的な村で、高校もある。 <ul style="list-style-type: none"> • 年間の観光客数は約60万人。テヘランからのイラン人ツアー客が多いが、ドイツ、オーストリア等の外国人も来る。 • 自宅を民泊としているペルシア語の看板が散見された。 • ICHHTOの支援策は低金利ローンの銀行保証。統家屋の景観を守るよう働きかけているが、あまり守られておらず、煉瓦造りの家が増えている。 • 村の土地利用計画や道路整備はタレハディが実施、ICHHTOが観光の標識を設置する際は、道路管理者と協議・承認の上で設置。 • ゴミ収集等の村民の生活に関わることは村役場が管轄。 • 男女問わず、村民の多くは、伝統衣装を着ている。 • 山歩きに適したクルド伝統の履物(カラッシュ)がWCCの手工芸品認定を受けた。WCCは、男性用だけではなく女性用も作るべきと指摘している。 • ソールは男性の職人が作り、甲の部分は女性が編んでいる。仲買人が買い取り、マージンをつけて市場へ売る。それでも村人には貴重な現金収入。 • 10年前からの地元のオペレーターによると、観光客の9割はテヘランからの10~15人程の団体ツアーで、3泊4日程度でホラマン溪谷のいくつかの村を回る行程となっている。宿泊は民家に泊まるか、キャンプが多い。昔は若い世代が多かったが、今は家族旅行が増えている。宣伝はSNSを利用し |

ており、外国人はエコツーリズムに関心のある層でドイツ人が多い。

写真は、伝統家屋、自宅を民泊としている看板、2階を煉瓦造りに作り替えた家、村のモスク内部、カラッシュを編む女性、カラッシュのソール作りの男性、民族衣装を着た子どものポスター。



11:30 Pir-e Shaliar

ホラマン溪谷にあるゾロアスター教の聖人と言われるピルエシャリアル廟である。毎年、春と秋に祭りがあり、全国からクルド人、ゾロアスター教関係者が集まる。視察日もテヘランからの観光バスが来ていた。

写真は、Pir-e Shaliar 廟、入口に停まる観光バス。



12:20 Silen Village

ホラマン溪谷にできたダム湖の村で、湖を望むレストラン、ドライフルーツ店があった。

写真は、展望レストラン、ドライフルーツ店。



15:00 Daraviyan Village

山の上にあるホラマン溪谷の住民の夏の居住地である。電気、水道、ガスはなく川の水を生活と農業に使っている。病院もないため、村人は薬草に詳しい。



- 若い世代は不便な生活を嫌がるので、居住地の人口は徐々に減っている。
- 当日は、母親、20代夫婦、子どもの3世代家族が、荷物を載せたピックアップトラックで移動してきていた。これからが移動の本番とのこと。秋には収穫祭があり、その後、村人はホラマン溪谷へ戻っていく。
- この夏の居住地は、まだ観光利用されていない。

写真は、村を流れる川、村の畑。



以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|--|
| 名称 | ガズヴィーン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月28日(火) |
| 場所 | 09:15 Qazvin Chehelsotun Museum 09:30 Qazvin Museum 09:45 Dolat Khane 10:00 Qazvin Bazaar (Sa'd al Saltaneh Caravanserai) 10:20 Mellat Museum 13:00 Buin Zahra Caravanserai |
| 参加者 | ICHHTO 本部：Iraj Ghaheremany ICHHTO Qazvin：Mr. Fazayeli*Manager、Alireza Zamani Kharaghani*Deputy、Shekoofa Aghasian、Mrs. Khadili、Mrs. Aghasian、Mrs. Rashtvand ICHHTO Bouein Zahra City：Mr.Nejati、Mr. Agha Dalikewi*Archaeologist 調査団：磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | <p>09:15 Qazvin Chehelsotun Museum (カリグラフィ博物館)</p> <p>ガズヴィーンには1548～1597年の約50年間、サファヴィー朝の首都がおかれた。市街にはサファヴィー朝からの遺構が散在している。ガズヴィーン州には1384件の国家レベルの登録文化遺産がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サファヴィー朝のChehelsotun 宮殿をICHHTOが修復し、カリグラフィを中心に展示する博物館となっている。スタッコ、ステンドグラスのある建築は魅力である。ガズヴィーン州はイランにおけるカリグラフィの中心地で、州のブランド戦略としても重視している。 ● また、イランの伝統弦楽器サントゥールを、ペルシア絨毯を連想させる縦型にしたものが展示されていた。サントゥールは、西に伝わってピアノに、東に伝わって楊琴となったと言われている。 <p>写真は、博物館外観、コーラン、楽器、博物館内部のステンドグラス。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |



09:30 ガズヴィーン博物館

ガズヴィーン州から出土した遺物、サファヴィー朝時代の遺物、近代芸術家の作品を展示している。また 180 名規模の講堂を備えている。

- 手工芸品が多いのが特徴。
- 13 世紀から 19 世紀までの陶器が時代ごとに展示されている。その他の手工芸品は種類ごとに展示されている。
- カリグラフィ博物館と同様、サファヴィー朝の行政府があった敷地内にあるが、新しい建物である。展示室を地下におき、周辺環境に配慮している。
- 展示ケースに自然石を使っているが、展示物が映えないため、展示物を置く部分には布やフィルムを張る等の工夫が必要である。

写真は、博物館外観、セレモニーホール、工芸品の展示、陶器の展示、現代の作家による素焼き作品。





09:45 Dolat Khane

サファヴィー朝時代の行政府が置かれた敷地。総面積 10 ha でその内 3 ha がバザールである。また敷地内にある、ガジャール朝末期からパフラヴィー朝にかけて作られたグランドホテルを修復する計画もある。

- 権力を誇示するため、門までの大通りを作り、門は高くしている。大通りは、世界でも使われている古い通りのひとつ。
- ガズヴィーン市では毎年、サファヴィー朝の首都がおかれた記念行事を行っている。

写真は、入口の門、行政府跡と大通りを含む修復エリアの地図、中庭にある貴族の暮らしを模した人形、修復を検討中のグランドホテル正面外観、背面外観。



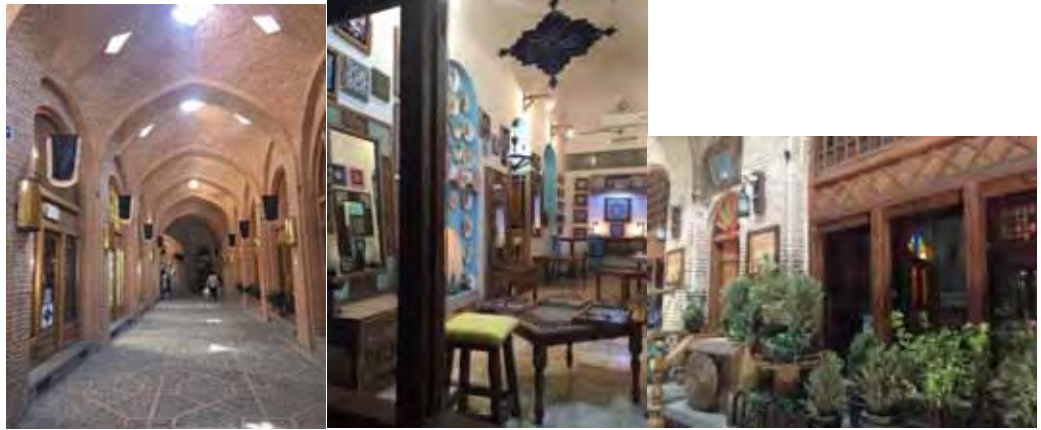


10:00 Qazvin Bazaar (Sa'd al Saltaneh Caravanserai)

2009 年から 5 年をかけて修復され、ショッピングモールと後述するメラト博物館となっている。ロンリープラネット(旅行ガイドブック)では、ガズヴィーン市内のトップ観光スポットとして紹介され、トリップアドバイザーでもガズヴィーン州の人気第 1 位である。

- 修復は、ICHHTO、市役所、民間が協力して行った。土地建物は政府が所有、費用は市役所と民間が分担。家賃収入は分担比率に応じて分配されている。
- タブリーズ等の使われ続けてきたバザールとは違い、日用品、生活用品ではなく、土産物店、レストラン、カフェ、雑貨屋等が目立つ。
- 店舗数は 230 軒。契約更新は 1 年単位。現在、全て契約済みで空き店舗は無い。多くのクレーム受けたような店は、更新停止や指導等の対応を行う。10 年以上契約している店舗もあり、多くは経営が安定している。
- 2020 年の UNESCO 世界遺産登録を検討している(修復がきれいに行われている分、OUV や Authenticity がどう評価されるか疑問である)
- 訪問者は、イラン人が主で、テヘランからカスピ海沿岸のギーラーン州へ行く途中に立ち寄り、食事や買い物をする。
- ノウルーズ休暇中は 1 日 1 万人が訪れた。

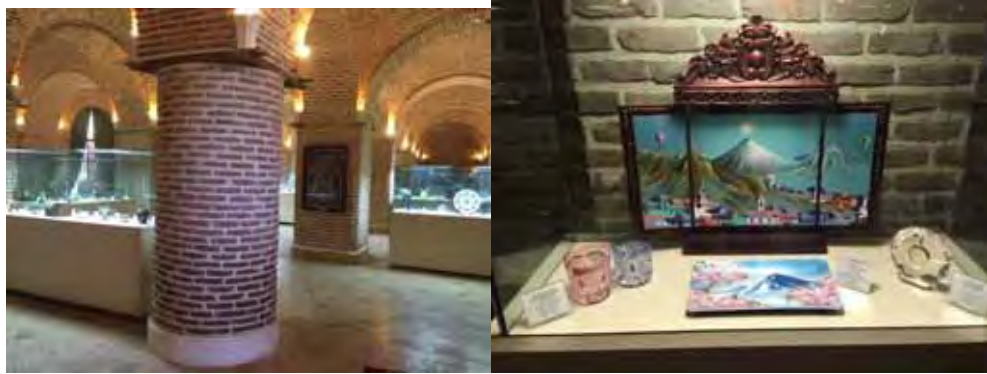
写真は、バザール内部(午前中に視察したことから、客はまばらである)



10:20 Mellat Museum

元外務大臣 Dr. Salehi が海外から贈られた品々を収蔵し、図書室も備えている。

写真は、館内、日本からの贈呈品。



13:00 Buin Zahra Caravanserai

ガズヴィーン市の南東約 60 km の Buin Zahra にある修復中のキャラバンサライ。現在は、周辺での発掘の滞在拠点として使われている。

- 1972 年にテヘラン大学の発掘チームが付近を発掘中に発見した。
- 修復はテヘラン大学と ICHHTO が共同で行っている。
- 現在もテヘラン大学の考古学教授 Ezzat Negahban のチームが活動中。

写真は、キャラバンサライ外観、内部の修復完了部分、発掘作業用の宿泊室。



以上（記録：田上）

視察メモ

| | |
|------|--|
| 名称 | ガズヴィーン州現地調査 |
| 日時 | 2019年5月29日(水) |
| 場所 | 08:30 Qazvin Telecabin 11:00 Alamut Protected Zone, Zarabad Village, Seven Guesthouse in Alamut 12:00 Alamut Protected Zone, Ovan Lake 14:00 Alamut Castle Archaeological Findings Data Base 17:00 Eagles Castle Traditional Home and Museum 19:00 Barayin Nature Village |
| 参加者 | ICHHTO 本部 : Iraj Ghaheremany ICHHTO Qazvin : Mr. Fazayeli*General Directo、Alireza Zamani Kharaghani*Deputy、Shekoofa Aghasian、Mrs. Khadili Alamut Municipality : Mr. Mohammadi ICHHTO Alamut Archaeological Findings Data Base : Mr. Safari 調査団 : 磯野哲郎、田上亮子、Mohmmad Reza Fard、Solmaz Azmude (敬称略・順不同) |
| 視察内容 | 08:30 Qazvin Telecabin ガズヴィーンの高いにあるロープウェイ。ガズヴィーン市と民間デベロッパーが開発したが、民間側の経営が悪化し、運営は停止している。ガズヴィーン市開発公社に移管されたところ。 <ul style="list-style-type: none"> 2011年に完成、フランスからの輸入で全長3kmだが、半分の1,450m地点までが運行できる状態。 ロープウェイ乗り場にレストラン、カフェがある(同様に休業中)。 近くにドーム型の休憩施設があるが、大雨で基礎が崩れたまま放置されている。 夏でも平均気温が12度と涼しく、夏はサンドスキー、冬はスキーを楽しめる。 11月~2月までの週末の平均で500名の利用があった。 ガズヴィーン市内からロープウェイまでのバス路線延長も検討中。 ロープウェイ設備はメンテナンスが行き届いていない一方、市開発公社への移管に伴い、新しい案内板が各所に設置されている。 <p>写真は、ロープウェイ乗り場、崩れたままのドーム型の休憩施設、ロープウェイ、案内板。</p> |



11:00 Alamut Protected Zone, Zarabad Village, Seven Guesthouse in Alamut

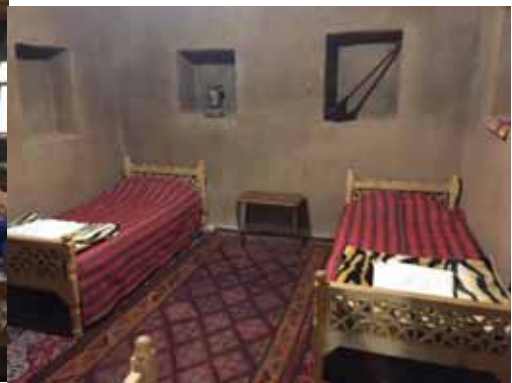
アラムート山保護区のブームギャルディ。オーナーの Miladi 夫妻は旅行業界の出身。

- テヘランから家族でアラムートの祖父の村へ移住し、5年前からブームギャルディの準備を始め、建築、内装を自分たちで手掛けた。
- 2年前から営業を開始した。客室が2つしかないため、外国人観光客からの予約のみを受け付けている。大半がヨーロッパ各地からの観光客である。
- 内装のキリムや絨毯は付近の村で収集したもの、食事の材料はすべて付近の村で採れるオーガニック食材である（村は約 400 世帯）。
- ヨーロッパ人の嗜好に沿い、オーガニック、地元産の食事を出している。部屋の寝具はベッドとしている（Ms. Miladi）。
- バストイレは2部屋で共有だが、共有サロンは広い。2階を増築中で、完成後はイラン人の受け入れも開始する。
- 増築資金に低金利ローンを申請しようとしているが、建築基準に適合していないと言われている。営業許可（村役場）と低金利ローンの銀行保証（ICHHTO）が異なるため。
- 観光客の滞在期間は平均2〜3泊、これまでの最長で6泊。
- 観光客の活動はアラムート山の散策が主で、自然の中で静かに過ごしたい

という人が多い。

- セキュリティのため、建物入口に監視カメラを設置している。
- ウェブサイト、インスタグラム、利用客の口コミで集客している。
- ラマダン中は予約がないが、ラマダン明けより満室。

写真は、ブームギャルディ入口、監視カメラ、共有サロン、客室、増築中の2階。



12:00 Alamut Protected Zone, Ovan Lake

アラムート保護地区内の湖である。水深8メートル。湖の4か所から水が湧いている。

- 村の農業用水としても使われ、農地からの排水も流れ込むため飲用は不可。ボート遊びは楽しめる。
- 鯉などの魚が放流されているが、釣りは禁止。遊泳も禁止。
- 湿地はDOEの管理、周囲はICHHTOの管理下である。駐車場、ボート、ト

イレ、ゴミ等の運営は、村の組合で行っている。

- 湖畔の広場（駐車場）にテントを張って泊まることは可。案内板、トイレ、ゴミ箱等の設置は整っている。

写真は、高台から見た湖、湖畔のキャンプとゴミ箱、ボート、禁止事項看板、水際のゴミ。



14:00 Alamut Castle Archaeological Findings Data Base

アラムート城に隣接する ICHHTO の調査研究所。15 名まで宿泊が可能。Mr. Safari 所長によるアラムート城の説明を受け、麓まで視察した（アラムート城は片道 1 時間を要する）。

- アラムート城は、アサシン教団で知られるイスラム教シーア派の分派イスマイル派（特にそのニザール派）の拠点であったことで知られる。11 世紀末から 13 世紀半ばまでアラムート城を中心に独立政権を持った。
- 11 世紀末、ニザール派の収入源は薬草で、ヨーロッパにも輸出していた。アラビア語で植物を意味するハシーシが語源でアサシンになったという説がある。
- 13 世紀半ばのモンゴルの侵入によりニザール派は弱体化した。城壁はサファヴィー朝時代に修復されたが、ガジャール朝時代の発掘で壊された。
- 元来、アラムート城は年配の訪問客が多かったが、ゲームソフトのアサシンクリードの広まりにより若者の訪問が増えている。
- 現在、アラムート城入口まで車両が入れるが、観光客の車両は手前の村まで

としたい。このような観光資源を活かすため、様々なアイデアが必要だ (ICHHTO)。

写真は、アラムート城入口の駐車場、土産物屋、アラムート城の建つ岸壁、ICHHTO 研究所。



17:00 Eagles Castle Traditional Home and Museum

アラムート保護区の入口に立地するブームギャルディ。オーナーの Afmadi 夫妻が家族で経営。テヘラン市役所に勤めていたが、2015年に退職してブームギャルディ経営を始めた。

- オーナーの母親がこの村出身で、付くに住んでいる。夫妻はガズヴィーンに家があり、ブームギャルディと行き来している。
- 週末はほぼ満室。春から秋がシーズンで、冬は雪が降ると客は来ないが、母親が近くに住んでいるため年中営業している。
- 旅行会社経由、ガイド経由で予約を取っている。定員が8名と15名の2部屋がある。アラムート観光のイラン人団体ツアー客が多いため、通常は1泊のみである。大型バス団体の場合、1団体で貸し切りになってしまう。
- 部屋にはベッドはなく、布団を敷く伝統的イラン方式である。
- 施設内に郷土資料館があり、村で使われていた台所用品や農具等を展示している。
- 満室の場合は旅行会社経由で、周辺の他のブームギャルディを紹介してい

る。

- 現在、宿泊棟を増築中。
- 外国人は、ガイドや旅行会社経由で、オーストリア、アメリカ、ノルウェー、オーストラリア、シンガポールから受け入れたことがある。

写真は、ブームギャルディ入口の看板、入口、中庭、客室、郷土資料館、展示物。



19:00 Barayin Nature Village

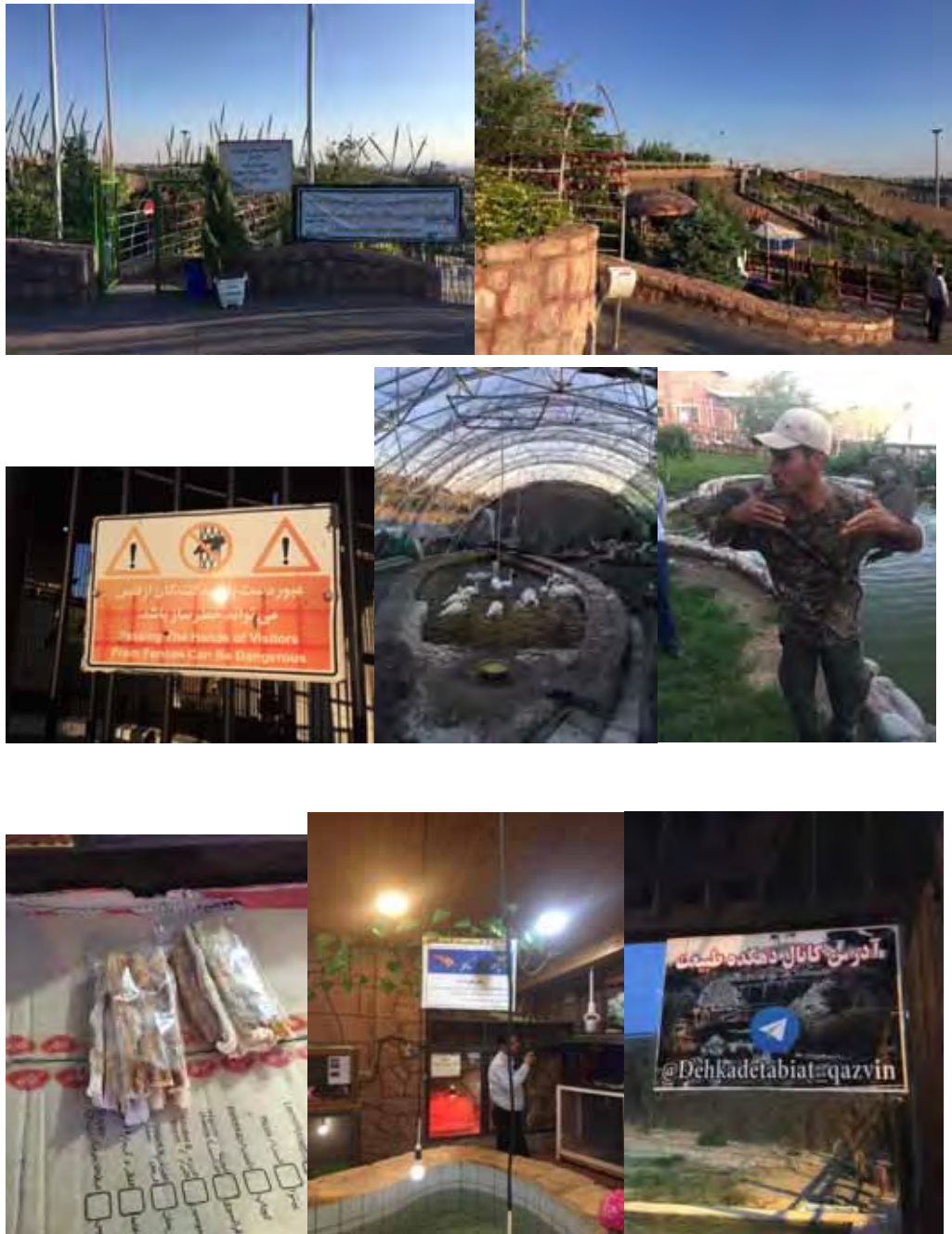
敷地面積 1,500 ヘクタールの野生動物保護センターであるが、マネージャーの動物好きが高じて、所有する 550 種以上の動物を飼育する動物園でもある。

- マネージャーの Mr. Nuri は、元々、建設業をしており、テヘランの地下鉄建設にも関わった。2012 年にプロジェクトを開始し 2014 年に開園した。
- ICHHTO 支所長の Mr. Fazayeli (当時、ガズヴィーン市の技師) がプロジェクト開始時から関わったため、ICHHTO との関係が良い。経営主体はガズヴィーン市開発公社、許可は ICHHTO である。
- テヘランからの高速道路のインターチェンジにある。年間入場者は車両台数でカウントしており、2018 年は約 100 万台である。
- ゲート付近では、野生の鳥類を保護しており、羽のない鷹やケガをしたフク

ロウなどを保護し、治療後に自然に戻すことにしている。

- それ以外の区画は、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類等に分類されている。
- 売店で動物の餌（パン）を販売している。大半の動物には自由に餌を与えることができる。

写真は、動物園入口、園内、注意看板、鳥類用ケージ、イグアナを持つ飼育員、販売している餌（パン）、鯉の池、SNS の宣伝、熊と Nuri 氏、ライオンと Nuri 氏





以上（記録：田上）

収集資料リスト

| No. | 資料タイトル | 発行年月 | 発行者 | タイプ/ 頁数 | 備考 |
|----------|---|---------|--|-------------------------|---------------------|
| EA 01 | Tabriz 2018: Visit Tabriz - Iran | 2018 | ICHHTO East Azerbaijan | Booklet 48 pages | Persian/ English |
| EA 02 | Tabriz 2018: Azerbaijan Museum | 2018 | Tabriz 2018 Committee | 3-f Leaflet 6 pages | English |
| EA 03 | Tabriz 2018: Kabood Mosque | 2018 | Tabriz 2018 Committee | 3-f Leaflet 6 pages | English |
| EA 04 | Tabriz 2018: The Capital of Islamic Tourism Postcards | 2018 | ICHHTO East Azerbaijan | Postcard 9 cards | English |
| EA 05 | Aras Free Trade Zone Map | NA | Aras Free Trade Zone | A2 Map 2 pages | Persian |
| WA 01 | West Azerbaijan: The Land of Beauties | NA | ICHHTO West Azerbaijan | Booklet 153 pages | English |
| WA 02 | Documentary Movie: West Azerbaijan Land Beauties | 12-2018 | ICHHTO West Azerbaijan | DVD | Persian/ English |
| WA 03 | Tourist Map of West Azerbaijan | NA | West Azerbaijan Province Travel Service-Providing Center ICHHTO West Azerbaijan | A2 Map 2 pages | English |
| WA 04 | Armenian Monastic Ensembles of Iran | NA | ICHHTO West Azerbaijan | 4-f Leaflet 8 pages | Persian/ English |
| WA 05 | Urmieh Museum | NA | ICHHTO West Azerbaijan | 6-f Leaflet 12 pages | Persian/ English |
| WA 06 | National Base of Hasanlu Historical Site | NA | ICHHTO West Azerbaijan | 6-f Leaflet 12 pages | Persian/ English |
| WA 07 | Bastam Castle The Biggest Urartian Castle in Iran | NA | ICHHTO West Azerbaijan | 6-f Leaflet 12 pages | Persian/ English |
| WA 08 | Takht-e Soleyman World Heritage Complex | NA | ICHHTO West Azerbaijan | 6-f Leaflet 12 pages | English |
| WA 09 | West Azerbaijan: Handicrafts | NA | ICHHTO West Azerbaijan | Booklet 48 pages | Persian/ English |
| WA 10 | Exhibition Handicrafts of West Azerbaijan | NA | ICHHTO West Azerbaijan | Booklet 18 pages | Persian |
| WA 11 | Iran West Azerbaijan's Handicraft Postcard | NA | ICHHTO West Azerbaijan | Postcard 16 cards | Persian/ English |
| WA 12 | Iran West Azerbaijan (Postcards) | NA | ICHHTO West Azerbaijan | Postcard 16 cards | Persian/ English |

収集資料リスト

| No. | 資料タイトル | 発行 年月 | 発行者 | タイプ/ 頁数 | 備考 |
|----------|---|----------|------------------------|------------------------|---------------------|
| WA 13 | Iran West Azerbaijan (Postcards) | NA | ICHHTO West Azerbaijan | Postcard 10 cards | Persian/ English |
| WA 14 | Investment Opportunities in Tourism Industry of West Azerbaijan | 03-2016 | ICHHTO West Azerbaijan | Booklet 88 pages | Persian/ English |
| ZA 01 | Golden Investment Opportunities in Zanjan Municipality | NA | Zanjan Municipality | A4 Booklet 30 pages | Persian/ English |
| ZA 02 | Golden Investment Opportunities in Zanjan Municipality (DVD) | 07-2018 | Zanjan Municipality | DVD | Persian |
| ZA 03 | Commercial Welfare and Cultural Project at ESHRAGH BOULEVARD | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 04 | OFOGH Residential, Commercial and Cultural Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 05 | NEGIN Restaurant and Salon Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 06 | PASTEUR Commercial, Administrative and Cultural Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 07 | Amusement and cultural Complex of the WATER PARK | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 08 | GOLESTAN Forest Park Complex Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 09 | KHANEH BURAN Forest Park Complex Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 10 | ZANJANKOOH Recreation Complex Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 11 | Multi-Story Parking Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 12 | Project of Automobile Exhibition Complex | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 13 | BITUMRUN Production Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 14 | Livestock Supply Project | NA | Zanjan Municipality | Brochure 10 pages | Persian/ English |
| ZA 15 | Zanjan Guidebook 2017 | 2017 | ICHHTO Zanjan | Booklet 143 pages | English |

収集資料リスト

| No. | 資料タイトル | 発行 年月 | 発行者 | タイプ/ 頁数 | 備考 |
|----------|--|-------------------|--|------------------------|---------|
| KU 01 | Kurdistan | NA | ICHHTO Kurdistan | Booklet 22 pages | English |
| KU 02 | Kurdistan Tourism Guide | NA | ICHHTO Kurdistan | Booklet 194 pages | Persian |
| KU 03 | Sanandaj Museum | NA | ICHHTO Kurdistan | 3-f Leaflet 6 pages | Persian |
| KU 04 | Karaftou Cave The Land of Color, Happiness and Kindness | NA | ICHHTO Kurdistan | 3-f Leaflet 6 pages | English |
| KU 05 | Kurdistan Province Tourism Guide | 12-2017 | ICHHTO Kurdistan | DVD | English |
| HQ 01 | Summary of Ecotourism (Approved Version) | PY1386 2008 | National Ecotourism Committee (NEC) | A4 32 pages | Persian |
| HQ 02 | Summary of Ecotourism Guidelines (Proposal Version) | PY1395 03-2017 | National Ecotourism Committee (NEC) | A4 26 pages | Persian |
| HQ 03 | Inbound and Outbound Tourist Statistics in PY1936 | PY1936 2017 | ICHHTO HQ Tourism Deputy, Planning and Development Department | A4 36 pages | Persian |
| HQ 04 | International Tourism of Iran | PY1936 2017 | ICHHTO HQ Tourism Deputy, Planning and Development Department | A4 16 pages | Persian |
| HQ 05 | Executive Summary of Tourism Master | 2001 | ITTO (former ICHHTO) supported by UNWTO | A4 33 pages | English |
| HQ 06 | Result of National Tourism Survey | PY1397 2018 | Statistical Center of Iran (SCI) | A4 40 pages | Persian |

